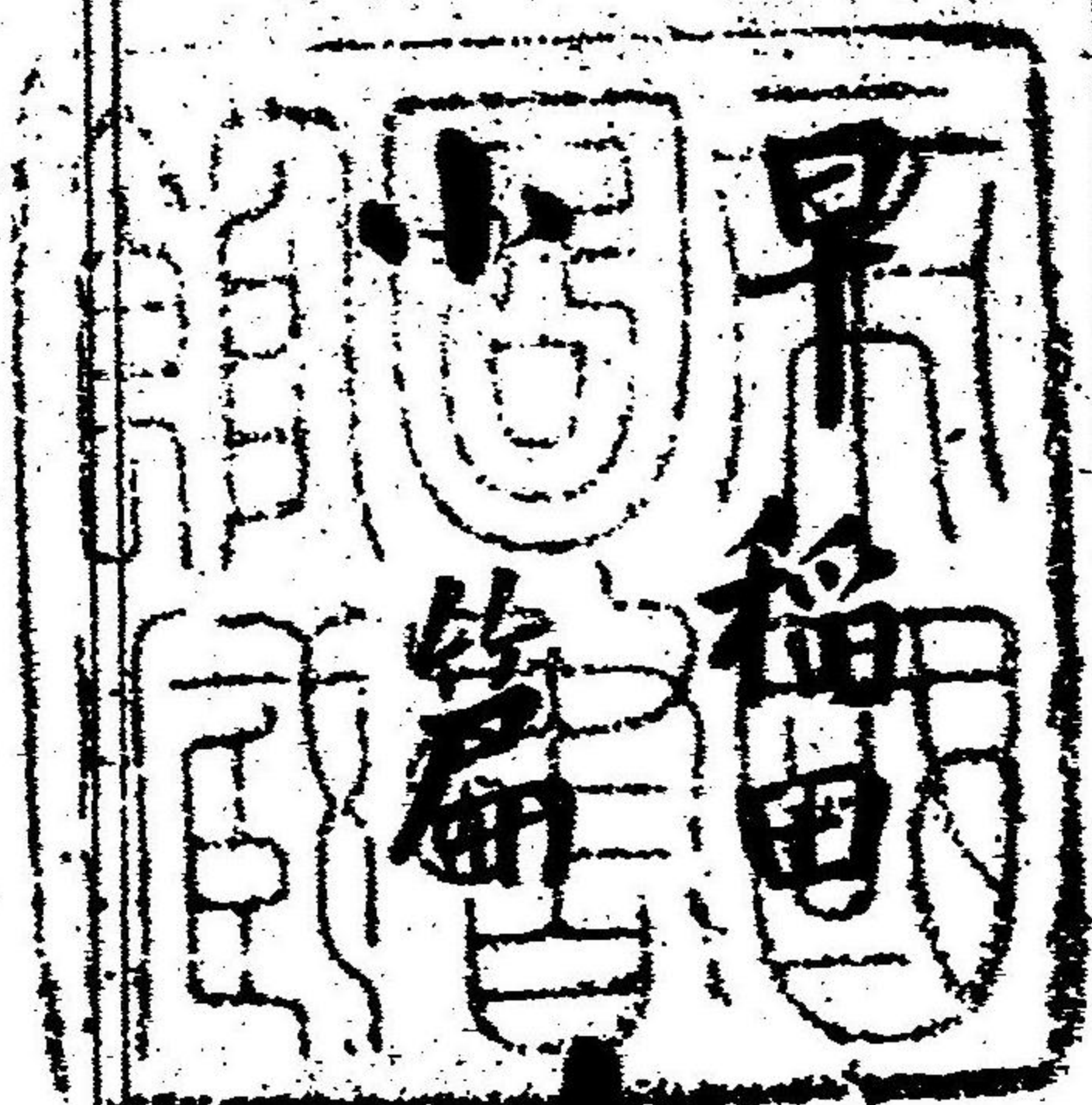


小山松壽著



南清貿易

東京專門學校出版部藏版



## 凡例

一本書は南清地方の各開港場に於ける外國貿易の狀況、支那の人情風俗、貨幣制度、交通機關等を論じたるものにして、主として我國外國貿易業に従事するもの、參考に資し、且つ我對清貿易政策を講ずるもの、資料たらしめんと欲するものなり。

一本書に引用したる貿易統計は主として清國上海稅關統計局刊行に係る清國貿易年報に據れるものとす。

一本書使用する兩は總へて海關兩にして、之を本邦貨幣に換算するときは大約一圓四十錢位に相當するものなり。

明治三十四年五月



# 南清貿易目次

第一章	緒言	一
第二章	開港場(上)	一
第一節	總論	一三
第二節	專管居留地	一八
第三章	開港場(下)	三六
上海		三六
寧波港		五七
廈門港		八〇
汕頭港		九四
廣東港		一〇九
第四章	貿易品	一二一
第一節	總論	一三〇

目次





南清貿易目次終

第二章	輸出品	一四八
第三章	輸入品	一六九
第四章	臺灣貿易	一九四
第五章	商業組織	一九九
第六章	貨幣及金融	二二〇
第七章	運輸及交通	二二八
第一節	陸上交通	二二八
第二節	海上交通	二三九
第八章	結論	二五一

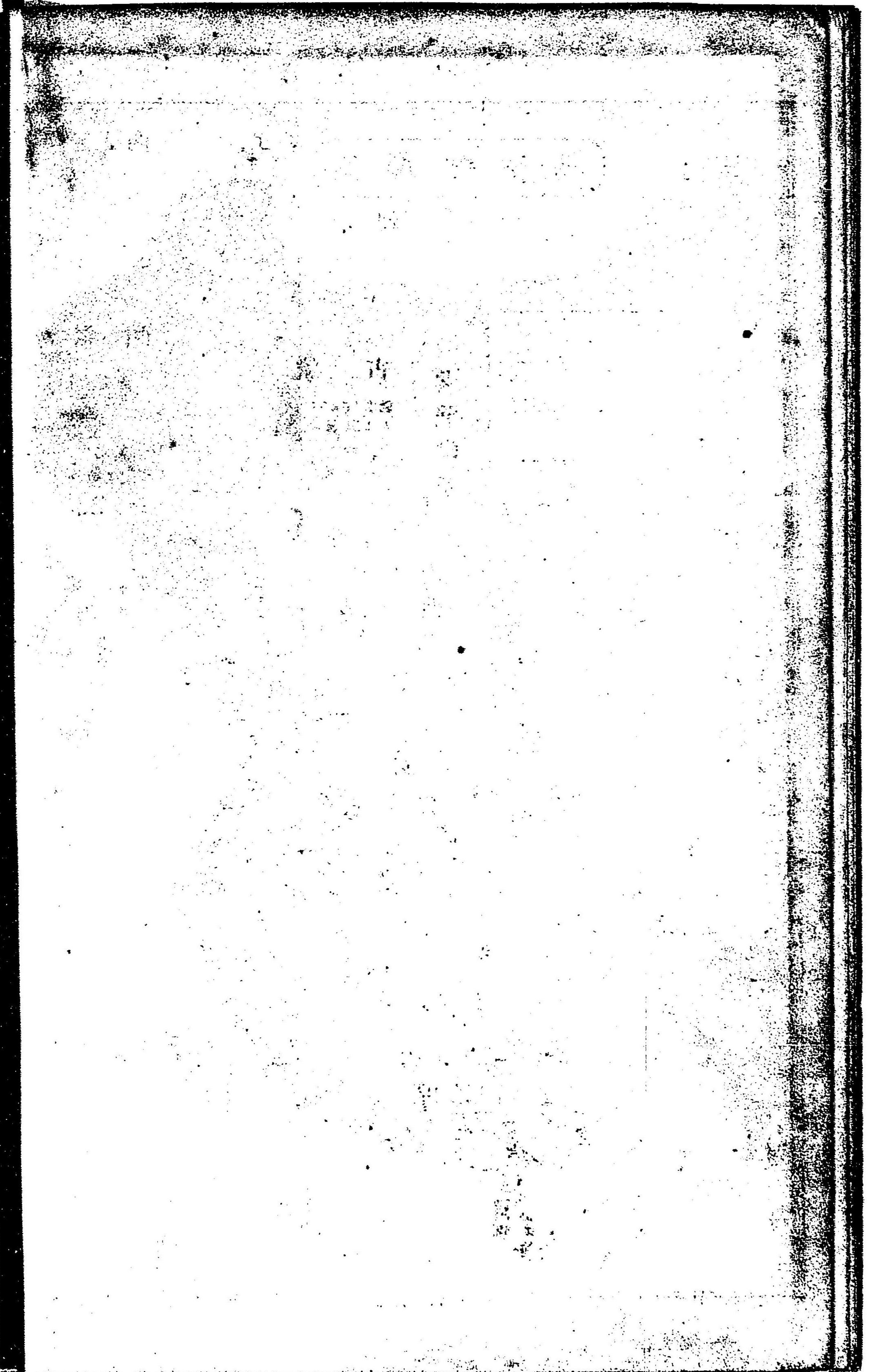
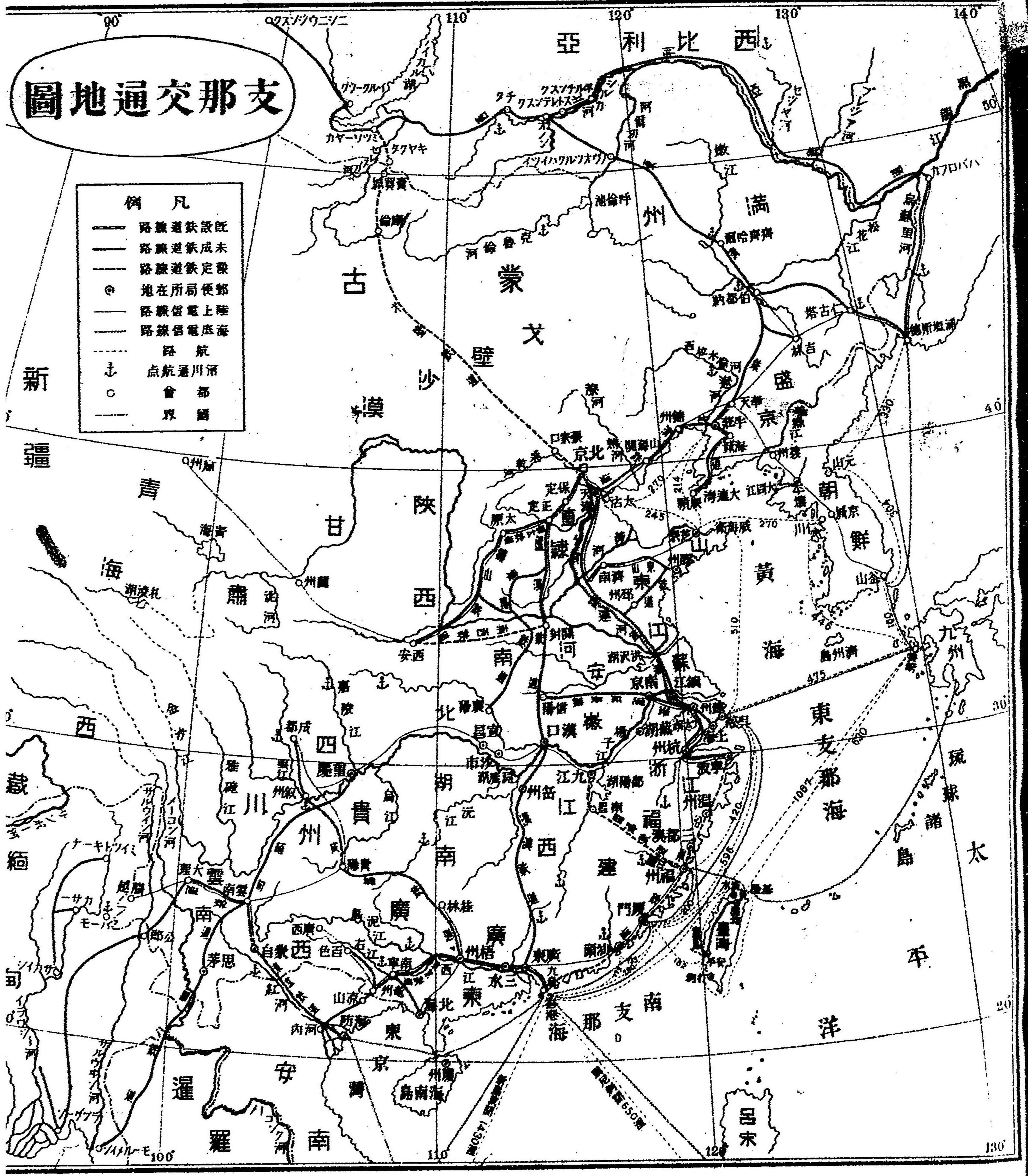






# 支那交通地圖

- 例 凡
- 路線道鉄既
  - 路線道鉄成未
  - 路線道鉄定豫
  - 地在所局便郵
  - 路線信電上陸
  - 路線信電底海
  - 路航
  - ⚓ 点航通川河
  - 會都
  - 界國





# 南洋貿易

## 第一章 緒言

小山 松壽 著

日本と南洋との關係

我國が南洋に對するの關係約言せば、我國が福建に對する關係の接近せるは言ふ迄もなく二十七八年戦争の結果臺灣を我新版圖としたるに基く者にして臺灣にして既に帝國領土の一部たり、彼我の關係密接ならざらんとするも豈に得べけんや。臺灣と福建とは恰も頭髮の如く、福建にして臺灣を失はんか毛髮なき禿頭となるに異らず。福建と臺灣とは唇齒の關係あり、故に臺灣にして福建の包圍するなくんば齒の唇を失ふたるに等し。其關係の重且大概ね之を想像するに難からず。之か爲め其臺灣經營上吾人か先づ福建との關係を顧慮するの要あるは固より當然なり。試に之を地理上の事實に徴せんか海上僅に百二十哩(福州基隆間)を距つるに過ぎされは、ジャンクの如き帆船も僅々一晝夜を以て達し、汽船の如きは



僅々十五六時間を費すのみ。又歴史上の事實に見るに、古昔に於て臺灣は福建の一部たりき。去れば彼我の人種相等しく言語又相似たり。切言せば臺灣に於ける支那人は素其大半は福建の移住者たり。従て之を一家族に譬ふれば、養子縁組に非ずして血統を通したる親子の間柄たり、兄弟の關係を有す。夫れ然り、今日我國が臺灣を統御するに當り、其最も困難なる問題として當局者が苦心慘憺の勞を費すと雖も、容易に殺撫し能はざる臺灣土匪蜂起か、又此兩者の間の相闘し相闘する者ある決して怪むべからざるなり。既に臺灣土匪が福建と關係を有して愈困難を加ふとせば、徒に臺灣内地に於てのみ成巧を必し畫策すと雖も、遂に勞して益あらざらん。

馬を射んと欲せば、足を射よ。臺灣土匪の鎮撫又此外に出るなし。從來吾人は此間の消息を審にせるか、故我政府の無策なるに驚けり。詳言せば、臺灣の行政官は南清に於ける我外交當局者と氣脈を通し、此間に施設する處あらんか、其禍害を未發に防ぎ、慘毒を大ならしめざるの功は、確に之を収むるを得るは多く疑を入れざる處にして、此點に於て福建は實に彼等土匪の避難處と言はざるを得ず。何者彼

等無頼の暴民たる一旦徒黨を糾合して叛亂を謀るも、中途目的を達し能はる時は逃れて對岸の地に潜匿し、機至るを見ては再舉に及び、或は其配下を遠く海を隔て、指揮し、兵器食糧は之を南清の地より密輸す。福建は實に叛黨の大本營となり、兵站部となり、庇難場となると稱するも決して誣言に非ず。

現に昨年八月廿三日、廈門暴動事件に關する根源を推究する時は、此關係を一層詳細にするを得。當時此問題を以て、單に我國が同地に於ける專管居留地取極の要求に對し、無智なる清國官吏私心を抱藏して、暴民を煽動し、其結果事の茲に及びしか如く、思惟し國內の新聞雜誌等先づ之を唱へ、世人の多くか之に雷同附和するを免れさりしと雖も、熟ら其前後の事情を案するに、未だ單に以上の原因を以て同事件の眞髓とするを得ず。要するに是れ前陳せるか如く、土匪の會々逃れて同地にありし者の斯る煽動を機とし、暴動を企てし者なるは當時の實際に通ずる者の等しく容認する處、臺灣の土匪を一日も速かに平定するの策は、必竟以上述べし所の方法に基くの他あらざる事、敢て余輩の喋々を待たざらん。従て今日は我政府部内にも南清に駐在せる帝國領事をして、臺灣總督府と直接諸般の職務に關する交



涉を爲さしむべしとの議起りし程にて、是れ從來臺灣及南清に對し我外務省と臺灣總督府との間に見解を異にするか故に生ずる種々の障礙を避けんとするは、蓋し兩者の關係上より不得止の策と云はざるを得ず。若し其れ國防上より觀察せる彼我の關係の密接は、更に前者に譲らざるものあり。即ち、一旦他國の爲に福建に於て海軍の根據地を得らるゝに至らんか、臺灣の安危は實に累卵の危きを以て假ふべし。既に今日に於ても、臺灣の警備及南清の各所に散在せる日本の軍艦は石炭積入れの爲には特に澎湖島に於てせざるべからざるの不便ありて、一朝有事の日に際せば其不利や推して知るべきのみ。去れば其萬一に處するか爲に、特に福建に海軍根據地を得るの一日も忽にすべからざるの急務たるや、何人も疑を容れざるの事なりとす。更に經濟上吾人は亦臺灣と福建との關係の極めて重要なるを認むる者にして、臺灣産業の發育は福建を待て始めて望むべく、現に臺灣輸入の大半は殆んど福建省を煩はざる可からざる事情の下に存するにあらずや。以上に於て略ぼ臺灣と福建との關係を概述せり。請ふ更に進んで、其琉球との關係に就き説明を試みん。

琉球の我版圖に歸する以前は、福建省總督の管轄に屬したるものにして、其年々歲々琉球國王より支那皇帝に對する貢獻物は、福建總督の手を経るものなりき。若し福建に至り琉球會館會館とは同國人の商業俱樂部の如きものを云ふと稱する大なる建築物を見、嘗て相互貿易の盛なりし事を知り。且琉球人の共同墓地に至りて其宏大なるを見、益々兩者の關係の密なりしを知るを得べし。現に福州の東門外に在る琉球館なるものは、當に清國に對する國際問題として講究するの價値ある問題なるべし。今其琉球館の如何なる性質なるやを問へば、日本の國籍を有するものにもあらず、去りとして清國に歸化せしにもあらず、其何れの國籍を有するか判然せざるもの、四五十人か茲に寄食するものにして、琉球の内亂に關したる國事犯罪人の遁れて同地に至り、爲に明治十七年中大赦令恩澤に浴せざる亡命者なるべしとは、此等に對する想像なり。而して其費用は福建總督の支出に係るもの、如し。琉球館長と稱すべきは、前琉球國王現尙泰の姻族にして、辨髮に支那服を着け一見支那人と琉球人との判別に苦む。斯る次第にて琉球館は、常に琉球と氣脈を通し其間の消息を齎して相往來す。故に是れ亦琉球統御上臺灣土匪



に對すると同一問題の起るは明かなり。更に琉球と福州との貿易は目今非常に衰微したれ共尙從來の關係上琉球の特産物たる漆器海産物等を以て福州に渡航せる時日本の領事を経すして直接琉球館に至り會々税關若くは領事館を経る問題起る時は日本領事の保護を出願す。

過去に於て既に右記の如き重大なる關係を有する我國は亦將に今後に於て從來の關係を維持するに勉むる消極的態度を緊要とするのみならず更に益々其積極的方針に出るの緊要事たるは敢て吾人の提言を待たんや。而して此進路を取るに當り吾人の先づ經營せざるべからざるは夫れ南清貿易を措て他に何れの道を加求むべき。乞ふ以下吾人は其今日迄の實地上の經驗及調査に屬する卑見を陳辯し以て江湖に問ふ處あらんとす。

今茲に南清と稱するは浙江省の南部より福建省を中心として其以南一帯の地を謂ひ此區分は長江以北を以て北清とし揚子江の沿岸を以て中部支那とし以南を南清とせるに由るものなり。氣候最低温度五十度にして福建省の如きは寒中猶我國の初春の氣候に髣髴たり。最高温度百五六度に至り試に寒暖計を日中に曝

所謂南清地

氣候

せば百三十度内外に達す。去れば午下一時頃より三時頃に至る迄交通全く杜絶の有様となり(夜間尙八十七八度を下らず)此間則ち支那人の阿片喫煙の時にして小賣商店の如きは客足全く絶へ唯徒に晝眠を貪るの時なり。故に支那銀行等の風習として午前十一時頃漸く其業を始め夜は深更午前一二時頃に至るを以て銀行家應接の間は全く夜中にあり。

人情風俗

南方支那人種は濶達にして敏捷慍悍にして堅忍事に當りて躊躇なく其決斷に當み所謂思ひ切りの能き蓋し商人として天下の魁首なるべし。宜なる哉廣東若くは寧波商人の東洋は勿論全世界に雄飛して常に商機を制し緩急事に處して誤るもの多からざるや。其適々損失を招く事あるも敢て意に介せざる者の如く直に之か挽回の策を講して亦餘念ある事なきは實に彼等の長所とすれ共之より次第に中央に進むに伴れ柔弱となり更に北清に及びては其中部支那に於ける柔弱の風漸く薄きか如きも之と共に遲鈍の誹は免れず。即ち事に處して緩慢殆んど別人種の感あり。而して純粹支那人の風俗は北方に於て之を見るべく南方に至ては居住應對等多少泰西の風に近く例へば婦女子の如き北方に在りては一般に其



地味

海外出稼人

足小なれ共南に至るに従ひ足の大なるもの多く、遂に廣東に至りては纏足の婦女を見る事稀なり。是れ廣東婦人の多く外人に妾たる所以なりとす。其服装の如きも南方人は北方人に比し輕装を喜ぶ等又以て兩者の相違を窺ふべきなり。由來南清の土地は北部及中部支那の豊穰に似ず荒蕪にして殊に福建省の如きは到底其人口二千八百餘万と云へる多數を養ふに足らざるより、其年々海外出稼を企つる人員頗る多く、夫の英領印度南洋諸島及北米合衆國等の支那人労働者の大部分は皆是れ同地方より出るものにして、就中省中出稼人の産地とも云ふべきは泉州厦門并に漳州の諸地とす。而して彼等が故山を辭して海外に航するや、身に纏ふものとしては僅に一個の破傘、蓆のみ、瓢然外國に出て、多年一日の如く能く苦役に耐へ、夜々蓄財を勉め、懐中を肥し、美服を着け、又歐米の俗習に感染して郷里に歸るか故に、同地方は年々其住居生活に要する日用品等漸次西洋風貨物の需要増加するの傾向を見る。即ち支那靴は化して西洋靴となり、支那帽は化して西洋帽となり、長袖は短袖となり、其他洋傘香水石鹼齒磨靴足袋ハンカチーフ、シガレット等の需要せらるゝもの年々其數を加ふるも、蓋しこれか爲めなり。

海上の事業

開港場

又閩浙兩者の人民は、特に海軍思想に富み、海上の漁業に熟し、航海術に長せり。去れは支那沿岸の大小漁船よりヂャンク(支那形帆船)に至る迄之を操縦する者は概ね此地方より出て、其他外國船舶に雇傭せらるゝ者の數又尠からず。殊に福建は清國南洋艦隊根據地の一にして、福建艦隊は全く同地方人を以て組織せり。南清の開港場は支那に於て最も早く開かれたるものにして、西曆一千八百四十年彼有名なり、英清阿片戦争の結果、同四十二年南京條約に因り、廣東省の廣東、江蘇省の上海、浙江省の寧波、福建省の厦門及福州を條約港とし、其他汕頭は一千八百六十年英佛聯合軍侵入の結果、天津條約に因り、北清及長江沿岸の各要港牛莊、天津、芝罘、鎮江、九江、漢口と共に海南島の瓊州を合せて開港せられ、降て一千八百九十七年英國は西河岸に於て梧州、三水の二市を以て開港場とせしめ、更に明治三十二年に獨乙の要求に遇ひて清廷の狼狽せし三都灣も、我政府の忠言に因りて同年五月清國自ら開港するに至れり。去れば今日南清には上海を始めとし、寧波、温州、三都、福州、厦門、汕頭、廣東、三水、梧州、瓊州の十一港を存す。支那に於ける産業中心點は長江沿岸一帯の地に存し、漢口、九江、宜昌、重慶、南京、蘇州



抗州等の地方には其製造工業に將た農産業に見るべきもの少からずして支那全土中最も殷富なる地方とす。之に反し、南清諸方は何れも土地瘠瘦産業未だ大に盛大ならずと雖も稀に茶、砂糖の如き有名なるものなきに非ず。今各地方に於ける所産の概要を擧ぐれば福州、厦門地方の茶業は臺灣産茶と共に其名宇内に高く又汕頭、厦門地方の糖業は前者に次きて有名なるものなり。西江地方に至りては桂皮、桂皮油、藍米穀等の少額を産するに過ぎず。中に就き桂皮、桂油は薬用として内地諸方に供給し又桂皮は香料として北海及廣東の兩港より諸外國に輸出す。更に廣東は古來商工業の發達せる南清の最大都市なり、從て同地方の製出品には絹布、絹糸を始とし唐木、細工、陶磁器等其名夙に顯はる。尙西洋諸國に輸出するが爲に近來急劇なる進歩を爲せしものは花筵製造なり。以上の外南清の産出物中稍記載するに足るべきは夏布、土布等支那固有の綿布類、麻、漆、樟腦、木材、紙、扇子、傘、獸皮、落花生、油、煙草、果物等とす。

## 第二章 開港場 (上)

開港場と治外法權

治外法權の撤回は領事裁判權の消滅を來し、外人居留地の廢滅は其自然の關係上自由に内地に往來し、居住し且つ營業するの權を歐米の條約國臣民に許與せるは内地を開放したる日本今日の狀態なりと雖とも、昔年の迷夢未だ醒めず國民の智識未だ發達せざる清國との通商貿易は之を條約に規定したる開港場の一定區域内に於て營業するに過ぎざる不便を免れず。

茲に開港場と稱するは所謂條約港の義にして各通商國臣民は自由に住居を構ひ建築を爲し、自國の國旗の下に船舶を出入せしめて商業を營むを得るものたり。而して其開港場たる既に緒言に於て述たる如く、西曆一千八百四十二年以來英佛の爲に開港せられたるもの、通くは明治三十二年清國の自ら開放したる三都澳の如き孰れも皆南清に於ける條約港と稱するものにして、各締盟國は其開港場に領事館を開設し、治外法權の下に自國人民に對する自國の法律、命令、規則を執行するを得るものとす。故に居留外人に對し、清國政府は特に保護干涉の任に當らずと



雖とも一度外人にして支那内地を旅行せんと欲せば清國政府の内地遊歴免狀を所持せざるべからず。若し此免狀を有せずして内地に入る事あらんか萬一の場合に處し其保護を受ける事能はざるは勿論二百兩の罰金を課せらるゝの不得止るものあり。尤も條約港の周圍清里百里以内の地に於て五日の期限を以て内地を遊歴するは此限りに非ず。

清國政府の内地遊歴免狀は之を護照と稱し外人の内地を旅行せんとするに當りては其身分旅行の目的及び其到達地を明記したる書面を以て先づ自國領事館に出願するものとす。領事は此願書に基き清國政府に該免狀の交附を請求し之を出願人に下附するの規定にして此手数料は銀二圓なり。而して其期限は免狀に明記せる如く四百日間即ち十三ヶ月を以て終了するものとす。左に護照なるものを掲ぐ

大日本欽命  
給發護照事照得北京條約第六款內載日本臣民准聽持照前往  
中國内地各處遊歴通商執照由日本領事發給由中國地方官蓋

護	照
<p>印經過地方如筋交出執照應隨時呈驗無訛放行所有備用車船 人夫牲口裝運行李貨物不得攔阻如查無執照或有不法情事就 近送交領事官憑辦沿途只可拘禁不可凌虐等因現據 稟稱欲由福州前赴 請領</p> <p>護照前來據此本領事查該素稱妥練合行發給護照應請 大清各處地方文武員弁驗照放行務須隨時保衛以禮相待經過關 律局卡幸毋留難攔阻爲此給與護照須至護照者 右照給 收執</p> <p>明治 年 月 日 給 光緒 年 月 日 給 加印</p> <p>大清欽命福建福州府正堂徐 限十三個月繳銷</p>	

### 第一節 總論

居留地と雜  
各開港場中未だ外人の居住するもの多からず又自國の專管居留地を有せざる港  
にありては此等居留外人は別に一區域を爲し能はざるより勢ひ支那街に雜居す



るの不得止る事情存すれ共上海天津漢口廣東の如きは居留外人の數も頗る多く加ふるに外國專有の居留地存するありて例へば上海に於ける英租界米租界佛租界等の外人居留地の如きは各別に一區域を爲し特に居留民議會等の設立せられ此議會に於て各國居留民中より選出せられたる議員參集し道路衛生警察教育其他通商上に關する時事問題等を審議す。故に各國の領事は其の議決に基き通商上若くは其他の便宜を與ふると同時に居留地に對する種々の施設を行ふものなり。請ふ試に上海に上陸するの士よ其第一降底に入るは巍然として聳ゆる洋風の建築物と坦々たる道路清潔なる街衢と六尺に餘れる軀幹頭邊黃色或は赤色の布片を卷纏せる印度巡查(居留地の雇警察官)とならん。此等は何れも其居留地設備の整理せる状態を窺ふの餘師たらざらんや。然るに今若し寧波温州三都福州廈門汕頭梧州三水等の南清諸港に至らんか只一の雜居地あるのみにして之を前者に比し諸般の設備の不完全なる恰も別天地の感あるべし。

上海に於ける居留民議會は英米兩租界佛租界は加人せずに住居を有し賃貸價格五百圓以上の家屋に對する家屋税を拂ひ又は同價格の土地に對する地稅を

納むる者より選舉するものにして日本人の此か議員となりたるは明治卅二年に於けるを始めとす。開會は年二回なれ共必要に迫り臨時に開く事あり。

福州に於ける南臺と稱する場所は之を雜居地と稱へ居留外人并に支那人の混然茲に雜居するものなり。今若し閩江を遡りて遠望せば福州の市街を連絡せる萬壽橋左側の丘上巖々たる洋風の建築物の衝天の狀を見ると同時に右側には城廓内に支那住屋の櫛比するを見ん。前者(城外)は即ち南臺の雜居地なるに對して後者(城内)は福州の純ら支那人市街なり。

更に廈門に至り港内に繋留せる漁船の甲板に佇立して右側を望まんか海岸に沿ふて蜿蜒たる市街を爲せるを見ん。是れ即ち廈門市にして其狹隘なる市街の内部に尙一團の區劃を爲せるものは其城内と稱すべき地なり。次に眼を左方に轉すれば海岸より凡そ七八百ヤードを隔て、一小島の在るあり樹木鬱蒼奇巖怪石の突兀たる間の歐風建築物は固有の支那家屋と交錯すると共に各國々旗の各所に翺躩たるを見るなるべし。是れ即ち鼓浪嶼と稱する外人の雜居地なり。而して城内亦一外人の住居をも發見する能はず。其他の諸港に於て又然り。是に於

條約港と外  
人の住居及  
び營業



てか當然生ずべき疑問は、外人の其支那各地に於ける開港場の居留地若くは雑居地に非ずんば、假令同一條約港の區域内と雖も、外人は其住居を構ひ營業に従事し能はざるものなるや否や是れなり。即ち城内に於ては、其同一都市同一開港場なるに關せず外人の居住する事能はざる者とせば、條約港と稱するものは單に所謂居留地若くは雑居地の一小區域内に限定せられたるものと云ふを得べし。若し果して開港場中斯る一小部分を以て條約港なりとせば、支那人を目的として種々の零賣商を營まんとする外人に取りては、甚だ迷惑なる事柄と云はざるを得ず。何となれば、雑居地と稱する城外の市街は、之を城内の純ら支那人の住居する市街に比し人口僅少にして多數の花客は城内に住居するの事情あればなり。然るに南清開港場の一たる福州に於て、廿七八年戰役前日本人某適々城内に其商店を開始したるに當時の通商道臺は、條約港以外の地に於て外人の營業に従事するものなりとし、日本領事上野專一氏に交渉を開始したる事ありしか、未だ居留歐米人の數も多からず、殊に日本臣民の在留する數至て僅少なるより、其影響する處の大きなるを見、其後談判を中止せるか爲め、今尙依然として營業を繼承しつゝあり。

去れば今日に於ても、尙此問題は未決の間に道ふものにして、其城内の商店を開設するも之に異議を唱ふるや否やは明かならず。

以上は單に小賣商の營業上より觀察せる論に過ぎされ共、更に一層緊要なるは通過税の問題なり。凡て外人が商品を輸入するに當りては、洋海關の規定に基き一定の税率により納税せば、他に一毫の課税を蒙る事なく、物品の賣買を爲す事を得れども、是れ開港場内に限られし事柄たるや論を俟たず。從て條約港外に輸送する場合には、更に定率税の半額を其通過税として支拂ふを要す。之を我國大阪の例に援引せば、大阪市を以て條約港と定め、梅田以北の地を以て條約港外とせんか、其大阪の市内に於て賣買するには、最初税關に支拂たる外一厘一毛の課税を受くる事なきも、若し一度梅田以北に輸送して賣買するとせば、其關税の二分の一を通過税として支拂はざるを得ず。由是觀之、條約港範圍の解釋如何は、直に以て其貨物に對する課税有無の分るゝ處なるが故に、極めて其解釋を嚴密にするを要す。今前出の雑居地若くは居留地(外國專有)のみを以て條約港なりとせば、淀川を隔てたる北區と稱する一部分のみを以て條約港の範圍なりとし、東西南の三區を以て

條約港内に  
於ける通過  
税



條約港外とするに等しく、北區に於て賣買するには通過税の關係なきに反し、其以外に送りて賣買するには直に以て通過税の負擔を蒙らざるも之を拒否すべからずとす。されど、此解釋の不法不理なるは、彼條約の文面に照し極めて明瞭の事實にして、之か爲め相互の取引を阻害する事其幾許なるやを知らず。殊に清國には彼有名なる長髮賊征討費として收集せし以來、尙今日に於ても存する處の釐金税なるものありて、貨物の轉送に際し其行先々の各釐金分局によりて苛酷なる請求を行ふか爲め、其商業取引上に於て實際非常なる障礙の之あるは、敢て吾人の嗷々を俟たざるべし。

### 第二節 專管居留地

抑專管居留地を確定するは、國際上の軀面に價值あると同時に其利益渺小ならざるは、今更辯明を要せざらん。我國が清國と此取極を爲せしは、實に去る明治廿九年十一月十日、日清兩國間に締結したる條約の議定書に基くものにして、即ち南清に於ては福州并に厦門に於ける日本專有居留地なるものは是れなり。今日歐米各

國が種々の手段を用ひ、種々の口實を設けて、支那に於ける利益線擴張に汲々たるの際、我國は早く既に其樞要の地に於て、他國に卒先して專管居留地を確定したるは、當局者の勞多しとせざるべからず。福州及厦門の專管居留地取極に關しては、前憲政黨内閣時代大隈伯の外務大臣たりし際、其位置區劃等に關する事は、領事の報告に基き外務省内の議一決し、直に清國官廳に向てその交渉を開始せしめんとせしむ。時に福州には未だ正式の領事を置かず、厦門帝國領事館の分館にして上野專一氏が監督を爲せり。故に同地の專管居留地も上野領事の選擇に係り、夫れか談判は分館領事代理豊島捨松氏其衝に當り、明治三十二年四月廿八日を以て兩國委員の調印を見るに及び、同年九月廿日を以て彼我兩國間に其取極書を交換發表せり。

### 福州日本專管居留地取極書

大日本帝國、福州在勸領事代理豊島捨松大清國欽命二品頂戴辦理通商事務署福建分巡海防督兵糧兵備道世襲一等輕車都尉兼一雲騎尉揚正儀大清國欽命三品頂戴鹽運使銜會辦通商事務福建前先用道陳同書、福口ニ於テ專管居留



地開創ノ爲メ約ヲ立ツ現ニ日本臺灣ノ商務日ニ盛ナルニヨリ福州ニ在新テ  
 ニ居留地ノ設立ヲ請求セシカ爲メ鎮關將軍增祺及閩浙總督部堂許應駿ハ本通  
 高道臺ヲ派シテ本領事代理立會土地ヲ實檢シテ境界ヲ定メタル上左ノ通條款  
 ヲ議定ス

第一條 日本專管居留地ハ福州江岸天主堂碼頭ノ東界ヨリ起リ尾墩村ノ東方ニ  
 至リ前部ハ閩江ニ浴ヒ後部ハ田地ヲ包有セル一帶ノ地ニシテ水廠及尾墩村ヲ  
 除キタル十七万坪別ニ新州一派水廠ノ界ヲ除キ約四万坪ヲ合セテ之ニ充ツル  
 モノトス地圖ニ掲クル居留地ニ於テ土地ヲ借用スルコトヲ得ベシ此取極書ヲ  
 臣民ハ此地圖ニ掲クル居留地ニ於テ土地ヲ借用スルコトヲ得ベシ此取極書ヲ  
 定メタル後員ヲ派シテ立會ヒ清國地方官目撃ノ上界標ヲ設立ス可シ

第二條 居留地内ノ道路管轄警察權其他居留地内諸般ノ行政權ハ一切日本帝國  
 政府ノ管理ニ歸スベシ居留地内ノ道路橋梁溝渠碼頭等ハ日本帝國領事ニ於テ  
 法ヲ設クテ修築スルモノトス其管轄權ハ日本帝國領事ニ屬ス  
 右道路橋梁溝渠碼頭等公共需用ノ地内若官衙ナレハ借料租稅ヲ免除シ又該地

ナレハ借料ノミヲ交附シ租稅ヲ納ムルニ及バズ

第三條 居留地地基ノ地券ハ其効力應ニ三十年ヲ以テ期限トス滿期ノ後モ借繼  
 クコトヲ得ベシ地價ハ之ヲ上中下三等ニ區別シ每每畝ノ地價ハ前三年ノ平均  
 地價ヲ標準トシテ公平ニ之ヲ定メ清國地方官ハ清國地主ノ其時相場ヲ高ク騰  
 クルヲ許サス日本人民モ亦無理ニ直切ルヲ得サルモノトス日本人民ヨリ土地  
 ヲ借用セントスル時ハ日本帝國領事ニ出願シ地方官ニ照會シテ土地ヲ實檢シ  
 テ借用ヲ許可ス若シ地所内ニ官有地アル時ハ別ニ商議ノ上其借地料ヲ稍低廉  
 ナラシメ以テ惠郵ノ意ヲ示ス日本人民ニ於テ其借地料ヲ交附セシ後ハ直ニ地  
 所ヲ引渡ス可シ其引渡前ニ清國所有主ニ於テ土地ヲ使用スル場合ニハ本人并  
 ニ其家屬ニ限り居住耕作スルヲ得ベシ又清國地方官ハ告示ヲ出シテ界内ニ新  
 ニ墳墓ヲ作り棺柩ヲ置クコトヲ禁止ス可シ將來別ニ地區ヲ撰ミ日本人民ノ墓地  
 ヲ設ント欲ヤハ日本帝國領事ヨリ清國地方官ニ照會シテ相談ノ上取計フ可シ

第四條 日本商人カ地所借用ノ時ハ日本帝國領事ニ願出テ清國地方官ニ照會シ  
 テ實地檢査ノ上地券三枚ヲ造リ日本帝國領事ハ之ニ加印シ一枚ハ地所借用者



ニ與ヘ一枚ハ日本領事館ニ又一枚ハ清國地方衙門ニ取置クモノトス一度借用  
セシ地所ハ此取極書ニヨリ借用者ニ於テ永代借用スルモノニシテ何國何人ト  
雖ハ強テ立退キ讓渡シテ行ハシムルヲ得ス地券ノ式ハ日本帝國領事ト清國地  
方官ト協議ノ上之ヲ定ム可シ

第五條 地租ハ地基ヲ上中下三等ニ分チ每畝ニ付キ之ヲ定メ日本帝國領事ニ於  
テ各地主ヨリ徵收シテ閩縣ニ交附シ閩縣ヨリ地稅ノ受取書ヲ回送ス可シ日本  
人民ノ未ダ租用セサル地區ハ清國地主自ラ租稅ヲ納付ス可シ

第六條 借用ノ地所ハ其借用者ニ限リ居住スルヲ許ス若シ借用者事故アリテ自  
身ニ居住スル能ハサル時ハ親戚朋友店員同業者等自元アルモノニ托シテ管理  
セシム可シ若シ已ムヲ得サルノ事故アリテ借地權ノ移轉ヲ要スル場合ニハ其  
移轉前ニ於テ日本領事ヨリ清國地方官ニ照會シテ地券ヲ書替フ可シ

第七條 居留地内ニ借地權ヲ有スル者ハ專ラ帝國人民ニ限ルト雖ハ居留地内ニ  
居住營業スルハ清國人民其他外國人ノ自由ニ任ス可シ但シ清國人ノ身分ナキ  
者私ニ居留地内ニ住居シ若クハ商店行機ヲ開設スルヲ得ス違及スルモノハ夫

々處分セラル可シ

第八條 居留地内清國人ニシテ行跡疑フ可ク身分ヲ辨ヘス若クハ法款ニ背反ス  
ルモノアラハ清國地方官ヨリ日本帝國領事館ニ又日本帝國領事ヨリ清國地方  
官ニ通知シ立會取調ノ上清國地方官ヨリ處罰ス可シ勝手ニ庇護德慝スルコト  
ヲ得ス又居留地内ニアル清國領事ヲ派駐セサル外國人民若クハ清國人民ノ訴  
訟ハ清國官吏ヨリ取扱員ヲ派シテ居留地内ニ於テ取捌クベシ若シ領事ヲ派遣  
セサル外國ノ人民并ニ日本人民若クハ其他ノ外國人ニシテ清國人民ヨリ受ケ  
タル不法ノ行爲ニ對シテ告訴スル場合又ハ清國人民ノ居留地内ニ於テ規則ニ  
違反セシ場合ニハ清國官吏ハ日本帝國領事若クハ領事ノ派出セル官吏ト立會  
シ取調フベシ若シ清國審判官ノ判決不條理ナル時ハ日本帝國領事ヨリ辦理洋  
務道臺ニ照會シテ覆審ス可シ兩國交渉事件ハ條約ニ由リ處分ス可シ立會裁判  
所ハ清國政府ヨリ何時タリトモ之ヲ建設スルコトヲ得ベシ未ダ立會裁判所ヲ設  
ケサル以前ノ訴訟事件ハ猶日本帝國領事ヨリ地方官ニ通知シテ審判スルカ或  
ハ領事ヨリ期日ヲ定メ地方官衙ニ立會審判ス可シ若シ地方官ヨリ差檢ヲ派出



シテ居留地ニ赴キ犯罪者ヲ捕縛セントスル時ハ證票ヲ領事ニ示シ領事ノ檢印ヲ得テ領事ノ派出セル巡查ト共同捕縛ス可シ日本人犯罪者ヲ勝手ニ庇護隱匿スルコトヲ得ス追テ立會裁判所設置ノ後ハ別ニ居留地立會裁判規則ヲ制定シテ審判スベシ

第九條 大橋以下馬江ニ至ル間一帯河道水利ノ事ハ清國地方官ノ管理ニ歸スルヲ以テ日本居留地撰定ノ後若シ日本商人ニシテ居留地ノ北方河岸及新州岸ニ於テ波止場若クハ道路ヲ修築スルモ河外ヲ填立テ河道ヲ填塞シ水利ノ妨害ヲ爲スヲ得ス且大橋以下ヨリ沙洲甚タ多キヲ以テ居留地地區測量ノ後現在ノ河岸洲外更ニ岸州ヲ加現スルコトアルモ此岸州ハ猶清國政府ノ管理ニ歸スベシ若シ日本官民ニシテ北方河岸ヨリ新州ニ交通セントスル時ハ如何ナル方法ヲ設クルモ勝手タル可シ但船舶來往ノ妨害ヲ爲シ或ハ土砂ヲ以テ河身ヲ填塞スルコトヲ許サス

第十條 居留地内ニ於テ火藥爆燃物及生命財産ヲ危害スル一切ノ物品ヲ貯藏スルヲ許サス違反者アリテ官ヨリ探知スルカ或ハ他人ニ告訴セラレタルモノハ

各自國律ヲ按シテ處分ス可シ

第十一條 日本租界ノ設立以前ニ外國人ノ清國地主ヨリ借用セル地所ハ別ニ差支ヘナシ他國居留地ノ例ニヨリ之ヲ取扱フ可シ但シ日本ノ居留地ニ歸セル地基ハ清國地主ノ外國人ニ對シテ地所ヲ抵當ニ充テ又ハ讓與スルヲ許サス違反スルモノハ清國地方官ヨリ嚴罰ス可シ

第十二條 外國居留地及將來開ク可キ外國居留地ノ施設事宜ニシテ別ニ優處アレハ日本居留地モ亦シク均霑ス可シ

以上ノ條款ヲ以テ借地取極書日本文清文各二通ヲ作り華押ヲ書キ兩國上役ノ批准ヲ俟チテ加印ノ上證據トス可シ

大日本帝國福州在勤領事代理

豐島拾松 華押

大清國欽命 二品頂戴辦理通商事務福建分巡甯波福州  
兼提督兵備道世襲一等輕車都尉附一級封典

楊正儀 華押

大清國欽命 二品頂戴運使銜會辦通商事務福建  
前光緒補用道

陳同書 華押

明治三十二年四月廿八日

光緒二十五年三月十九日



福州日本帝國專管居留地別約書

第一條 日本居留地内ニアル港頭中墩兩村内ノ清國人民ニシテ居留地撰定以前ヨリ住居スルモノ、家屋ニシテ賣却ヲ願ハサルモノハ日本帝國政府ニ於テ強テ之ヲ買收若クハ移轉セシメサル可ク其賣却ヲ願フモノハ勿論隨意タル可シ然レモ只日本國人ニ賣與スルヲ許シ他外國人ニ賣却若クハ租與スルヲ得ス違反スルモノハ清國地方官ヨリ嚴重ニ處罰ス可シ但該兩村ノ閩江ニ沿ヒタル一帶地面ニシテ日本帝國領事ニ於テ溝渠碼頭等ノ用ニ充テントスル時ハ清國地方官ヨリ勸令シテ租給セシム可シ

第二條 清國人民ニシテ移轉ヲ願ハサル者モ居留地内道路ハ自由ニ往來スルヲ許シ又其北方洲岸ニモ一條ノ道路ヲ保存シ他ノ清國人民ト同シク利益ヲ受ク可シ

第三條 港頭中墩兩村ノ清國人民ニシテ日本居留地撰定以前ヨリ住居スルモノハ將來道路ヲ修築シ警察署ヲ設置ノ必要スル費用ヲ賦課セサル可シ但出費ヲ望ム事ハ隨意タル可シ

第四條 居留地内ニ現在セル人民ノ宗祠祖廟ハ其所有主ニ於テ賣却ヲ欲セサル時ハ日本官民ニ於テ強テ之ヲ租用スルヲ得ス但賣却ヲ願フモハ勝手タル可シ又現存ノ墳墓ハ清國人民ノ子孫ヨリ何時ニテモ見回リ祭掃スル事ヲ得ベシ若シ詞廟墳墓ニシテ道路碼頭ヲ修築スルニ差支アレハ各所有主ト協議ノ後買收シテ移轉セシム可シ

第五條 尾墩村内ノ清國人民ノ土地家屋ハ一切清國人民相互ノ賣買ニ任ス可シ但日本人民ニ賣與スルコトハ隨意タルモ他外國人ハ賣與抵當若クハ租讓スルヲ得ス違反スルモノハ清國地方官ヨリ嚴罰ス可シ

以上ノ條款ヲ以テ借地別約別書日本文清文各二通ヲ作り華押ヲ書キ兩國上役ノ批准ヲ俟チテ加印ノ上證據トナス可シ  
爾來福州の居留地は我豊島領事(明治三十二年領事となる)と彼地通商道臺との間に土地買上の交渉を爲しつゝあり。

次に厦門居留地に就ては時の厦門駐在帝國領事上野專一氏をして清國官廳に其交渉を開始せしめしは恰も周蓮氏か厦門道臺たりし當時に起れり。後周氏の福



建按察使となるや、暉祖所氏次で其任に就く。外務省即ち談判の繼續を領事に訓令して其決定を促せり。是より先き我政府の要求せし居留地の所在は、厦門島虎頭山の一帶、草仔庵の附近にありしか、清國政府は此要求に對し異議を申出で、其厦門の外港に沿ふたる沙浦尾の一面を之に充てしめんとせしも、領事は政府の指令を固執して動かす、遂に其要請を拒絶するの不得已るに及べり。然るに新任暉道臺は就官匆々たる際に屬せしかば、一方北京政府の鼻息を窺ひ、他方民望を博せんとの點より專管居留地の件に關しては、全然反對の態度を以て故らに其談判を遅延し、言を左右に托し、曠日彌久の慣用手段に出づるや、上野領事は此形勢を見て政府に具申せしかば、政府は矢野公使に訓令を發し、談判の速了に盡力せしめたり。其結果矢野公使は清廷と謀り、前道臺周按察使の厦門事情に精通するの故を以て、更に居留地の協定委員と爲り、爾來双方の間に數回の交渉を重ね、事の將に落着せんとしたる當時、即明治卅二年八月廿三日、日清兩國委員の區劃決定の爲め立合をなしたる日に於て、端なく暴徒蜂起の一珍事を惹起し、我領事館員松本書記生及日吉警部の二人は之か爲めに負傷し、剩へ身を以て海に投し、僅かに難を逃れ、其他日

本人の店舖住居に襲來し、暴行を加へ、人心恟々の有様なりしかば、領事は事情を具して居留民保護の爲め軍艦の派遣を政府に要求せり。政府即ち高千穂艦を派遣するや、暴徒爲に辟易して雲散霧消し、漸く鎮靜に歸するを得たり。而して其原因は、全く暉道臺か自己の協定委員たる資格の消滅に對する不平を慰せんか爲め、及び人心收攬の目的より、臺灣土匪の關係者某を煽動して其談判を障礙せんと謀りしものなる事は、緒言に於て述たる如くなり。其後兩國委員は更に會商する所ありて、同年十月廿六日に及び兩國委員の調印を終へて其取極書を交換せり。

### 厦門日本專管居留地取極書

清國政府ハ光緒二十五年北京總理衙門ト日本公使ト協定セシ議定書第三條ニ照シ日本ニ厦門ニ於テ專管居留地ヲ設立スルコトヲ允シ茲ニ北京駐劄日本特命全權公使ハ總理衙門ニ照會シテ居留地設立ヲ請求セリ總理衙門ハ閩浙總督ニ訓令シテ署理福建布政使司周ヲ以テ委員トシ日本全權公使ハ厦門駐在領事上野ヲ以テ委員トシ會同議定シタリ左ニ其議定セシ各條ヲ列記ス

第一條 清國政府ハ議定書第三條ニ照シ日本ニ厦門ニ於テ專管居留地ヲ設立ス



ルヲ允シ茲ニ居留地四方ノ境界ヲ劃定シ即チ虎頭山脚下ヨリ起テ西ハ瑞記行面前海灘ニ至リ東ハ洗布河西邊ノ大路ニ至リ南ハ瑞記棧面前ノ海灘ニ至リ北ハ更樓尾市仔街殿後街ヨリ直ニ溝古脚ニ至ルヲ界ト爲シ西南ハ海南ノ地一帶東南ハ虎頭山ノ山脚ニ沿ヒ東北ハ金燈山脚ヲ限リ西北ハ龍泉宮ノ背後ノ山脚ヲ以テ界トシ西南沿岸ノ海灘官有地及草仔按ノ民屋アル街道ハ均シク居留地ニ組入シ日本ノ約四万坪トシ將來碼頭ヲ築建シ通商貿易ノ便ニ供スルモノトス又居留地地圖二枚ヲ調製シ其一枚ヲ清國地方官ニ一枚ヲ日本領事館ニ備置クベシ此取極書ヲ定メタル後直ニ雙方委員ヲ派シ會同シテ清國地方官ヨリ見分ノ上界石ヲ設置ス可シ

第二條 居留地内ニ於ケル道路開通ノ權警察ノ權及諸般行政ノ權ハ總テ日本政府ノ管轄ニ屬ス可シ居留地内ノ道路橋梁碼頭等ハ日本領事ニ於テ法ヲ設ケテ修造シ其管轄權ハ日本領事ニ專屬ス

第三條 各居留地内ニ於ケル墳墓ハ其儘ニ爲シ置キ移轉セシメサルモ新ニ墳墓ヲ設ケルヲ許サス持主アル墳墓ヲ移轉セシムル場合ニハ外國人ノ墳墓買上

ケノ例ニ照シ取扱フモノトス持主ナキモノハ適當ノ地方ヲ撰ミ妥善ノ方法ヲ設ケテ改葬セシム可シ

第四條 居留地四方ノ境界議定ノ後地方官ハ早速日本領事ト會同シ居留地内ニ在ル家屋及地面ヲ詳細ニ調査シ帳簿ヲ製ス可シ其家屋地所ノ借用買上評價ノ方法ハ兩國官吏ヨリ評價人ヲ撰出シ時價ニ照シテ公平ノ價格ヲ議定シ家主地主ニ於テ任意ノ價格ヲ要求スルヲ得ス借主買主モ亦勝手ニ取定ムルヲ得

第五條 以上各條ノ外一切ノ居留地規則ハ早速日本領事ト地方官ト商議シテ別ニ續約ヲ定ム可シ  
以上ノ條款ハ日本文漢文各二通ヲ作り花押ヲ畫キ兩國上役ノ批准ヲ得テ關印ノ上證據トスベシ

大日本明治三十二年十月廿五日  
大清光緒二十五年九月廿一日

廈門駐在大日本帝國領事

上野 專 一花押



大清國欽加二品銜署福建布政使按察使

司

周

蓮花印

大清國欽加布政使延建邵道調署與泉永海防兵備道

延

年花印

右の如くにして、南清の港灣中我邦と最も密接の關係を有する福州及廈門の專管居留地は確定せらるゝに至れり。去れば從來其雜居地に於て清人と混住し、衛生警察等不完全極まる制度の下にありて其支配を蒙り、之より生ずる不便利は擧げて數ふべからざりしも、一度專管居留地の確定せられたる今後は、衛生警察上の問題より宗教教育に關する一切の居留地行政は之を自治とするが故に、其内地に在ると等しき便宜を享有するを得るや必せり。

然れ共、茲に特に一言せざるべからざるものは、所謂居留地に伴ふ弊害是れなり。即ち其專管居留地内に於ては、固より他國臣民は自由に住居を定め營業に従來する能はざるにより勢ひ純ら邦人のみの住居たるは、蓋し甚だ當然の事理に屬す。從て未だ人烟稀薄にして、殆んど直接取引の商業を營むに足らず。殊に商業の種類主として清人若くは其他の外國人を得意として營業する能はざるは、極めて見易きの道理なり。以上は單に貨物を店前に陳列しての零賣取引に關する不便利

居留地に伴ふ弊害

居留地繁榮策

りと雖とも、彼我貨物の輸出入に従事する貿易商と雖ども、亦前者と客相似たる不便利に遭遇するを免れず。而して此不利不便を避けんとせば、自然其居を居留地外の雜居地に移すの要あり。若し如此く邦人は其店舗を構へず、支那人の來住せんと欲するものあるも之を拒絶して過きんか、居留地は依然草莽々たる原野と擇ぶなく、商業の繁盛の如きは、夫れ何時に於て之を期するを得んや。  
翻て思ふに不潔なる彼が如く、頑迷なる彼が如き、支那人種と混住するの堪へ難きは、臺灣の現狀に徴しても之を知ることを得ん。例令ば彼我軒を並べて居住するに當り、邦人は能く衛生等の點に付きても注意密なれ共、一步出て、隣家の状態を見れば、一種異様の臭氣鼻を衝く其汚穢不淨なる言語に絶せり。此時に當りて其不潔を厭は、先づ以つて自ら之を去るの已むを得ざるの事情に立至るものなり。然れ共其排他主義の到底居留地をして完全なる繁榮を期す可からざるを以て勢ひ雜居主義を取り、他外人は勿論支那人をして一定の規則の下に自由に來住せしむるは、蓋し其繁榮策として不得止なり。夫の上海居留地今日の盛大を來せし所以のものは、全く前陳の事情よりして其支那人雜居を許容せしに基くと云ふ。若



し夫き居留地内土地占有の問題に關しては、大に深思熟慮を費さざる可からず。而して特に其地の臺灣に接近せるか爲め未だ何等制裁を附せざる新日本人は、更に憚る處なく其對岸に於ける帝國專管居留地内の土地占有を謀るの自由を有するは是れ取りも直さず無制限に支那人の來住を誘引すると擇ふ處なきに非ずや。従て生ずる困難は、先づ之か爲に少からず居留地内の風俗衛生上の秩序を壞亂せしめらるゝの恐れある事なり。且つや臺灣、福建省の錯綜せる關係は、愈々此問題を難解ならしむる事情存す。試に思へ、嘗て臺灣に居住せし支那の親子關係者中、其何れかの一方は同地の日本の領土となるに及びても、其住居を依然本國に移さるゝの結果、遂に日本の國籍に入りしに、他の一方は前者に先ち本國福建省に居を轉せしとせば、其兩者の今日は互に異國臣民たるを防けず。之を以て前者の日本臣民たるに拘らず、後者は清國臣民として雙方其國籍を異にする者あるは當時の實際に徴して敢て珍しからざるの事例なりとす。然るに我國が既に南滿に於て福州、廈門の專管居留地を擡得せし場合に、我國臣民たる前記歸化支那人の借地を其領事館に出願せしとせば、我領事は其歸化人たるの故を以て之を許容せざる道

理あることなし。何者其帝國臣民たる法律上の資格に於て今日は既に缺くる處なければなり。今姑らく此等の歸化人の土地占有を企つるとせんか。自然に其緣族關係を有する支那人をして、無條件の下に居留地内に來住せしむるの端緒を開くの結果となるべきは免れざる處なり。如斯なれば遂に此專管居留地なるものが、其表面上は日本國旗の下に在るものとするも、其實に於ては從來の儘なる夫の雜居地と敢て異なる處なきに終るの恐れなきに非ず。蓋し此事たる居留地設備の整理すると共に當然起らざるを得されば、之を決して遠き將來に屬せる問題とせず、宜しく今日に於て講究する處なくんば、噬臍の悔を胎すも及ばざるべし。



### 第三章 開港場 (下)

前章にて既に開港場の區域問題より、遡く明治三十二年我國が清國政府と審議協商を重ねて福州厦門の兩地に專管居留地確定の次第、及び將來居留地に對する施設に關し、吾人の懷抱を讀者に披瀝する所ありたれば、更に進んで南清各開港場中主なるもの四港福州厦門仙頭廣東并に密接の關係を有する上海寧波兩港の其所在は中部支那に屬するも、前記諸港と輸出入狀況を記して其將來を卜せんとす。

#### 上海

總説 東洋隨一の互市場たる上海港は、清國沿岸中當初の開港場にして阿片戰爭(千八百四十年)の結果千八百四十二年九月我天保十三年八月南京條約に基き英國の開港を約したる處なり。上海は又の名を滬江若くは中江と云ふ。蘇江浙江兩省の境界に當りて松江府上海縣に屬し、北緯三十一度十四分東經二十一度二十分、揚子江の沿岸に臨める吳淞より更に黃浦江揚子江の支流の上流十五哩の地にあり。然るに惜む可し、黃浦河口に存する淺瀬の爲に高潮の時に非されば、吳淞、上海

沿革

位置及び人口

風土

市街

交通

を自由に航行する能はず。之を以て目下同地居留外人間には、同河浚渫の議を唱ふるものあり。現今は鐵道の兩地間に開通せるものあれば、稍此不便を免るゝを得。人口約六十五万、氣候は我東京と大差なしと雖も、夏冬季の寒暑は一層激甚なるものあり。四方山嶺の圍繞せるなきを以て風烈しく殊に、其地雨多き故に健康に適したるの地と云ふ可からず。元來此地は揚子江の流末に瀕せる沖積層に建設し、漸次水面の埋立を行ふて市街を擴張し、遂に今日の繁榮をなすに至れり。居留地は吳淞江の西岸に沿ひ米租界英租界佛租界と相連繫し、大廈高樓市街の兩側に充ち宛然西洋の一都市を見るが如し。本市街城内は居留地の上方に在りて、其外部の城壁は高さ一丈五六尺に達し、延長凡そ日本里程二里に及べり。東西南北に城門を設く、廓内は人家稠密熱鬧を極むれ共、道路幅狭くして不潔なる事前者の比に非ず。上海附近は地質良好土地平坦沃野數十里に亘り、此間に於て無數の産物を出せり。加之溝渠四通八達交通に便なる事十八省中稀に見る處なり。殊に此地支那沿岸の中腹に當り交通の要地を占め、前面は黃海支那海を隔て、日本及朝鮮に對し、北方遙かに西北利亞の富原と連なり、南は近く我臺灣を始めとし香



港比律賓諸島に包圍せらる。其海外貿易上如何に樞要の地にあるや思ふ可し。若し夫れ内地の交通に至りては、四百餘州中最も天恵に厚き中部支那を貫通せる楊子江に據る時は往來頗る自在なり。既に斯る自然の地利を有す、上海加内外貨物の媒介場として繁榮を極むる、蓋し偶爾なりとせず。

去れば、既に千八百八十五年の當時に於て、同港より外國品を輸入せし金額は、千五百七十七万七千〇四十二海關兩、同内國品七百六十一万五千五百〇一海關兩に上り、其輸出金額は二千六百八十八万〇三百九十五海關兩に達し、共計五千〇二十六万二千九百三十八海關兩の多額に及べり。而して輸出品には生糸、茶、米、棉花を以て大宗とし、其他麻、煙草、藍及其他支那雜貨なり。又其輸入品には阿片、石油、砂糖、外國粉、綿糸、綿布、毛織物、鐵石炭、其他の礦物、鮑魚、海鼠、干蛤、揚卷貝、伊多貝、貝、鹽魚、寒天、干海老、海帶、魚鱗、生貝、海老、木材、木皮、硬板、軟板、丸太、木炭、薪、樟腦、蜂蜜、馬鈴薯、椎茸、硫黃、獸皮、銅、鹿角、人參、團扇、手拭、漆器、摺附木、藥種、廣巾紙、陶器、煙草、硫酸、茶蠟、傘、洋傘、小麥、其他の雜貨、一々之を枚舉すべからず。要するに上海は支那隨一の中心市場たるが故に、同國の外國貿易は殆んど同港の代表する處とするも大過なきものなり。

外國貿易 今説明に便宜ならしめんか爲めに、既往三年間に於ける同港輸出入比較表を左に示さん。

外國品	千八百九十六年		千八百九十七年		千八百九十八年	
	價格	合計	價格	合計	價格	合計
外國及香港ヨリ輸入	一三九、六五五、八三三	一三〇、〇九八、三〇四	一三三、二一九、八五五	一三三、七〇八、二七四	一二六、六三三、六八一	一二七、一五六、八九七
支那諸港ヨリ輸入	四四二、四七一		四八九、〇八九		五二五、二一六	
外國輸入通計						
外國及香港へ再輸出	三、六二九、八〇六		五、一九五、五五八		四、九六六、六六六	
支那諸港へ再輸出	八四、〇〇二、二八八		九五、八六三、三三三		九二、七六三、七二二	
外國再輸出通計	八七、六三三、〇九四		一〇〇、九八二、八八一		九五、七三〇、三八七	
外國品輸入總計	四二、四六六、二一〇		三、七二五、三九三		二九、四二六、五二〇	
内國品						
外國へ輸出	二五、七二二、二七七		三八、〇〇七、八二七		三一、一七七、八三一	
支那諸港へ輸出	一六、一〇九、九三六		二一、一五八、五四九		一六、七八〇、一九四	
通計						
大計						
輸出		四一、八三二、二二三		五九、一六六、三七六		四七、九五八、〇二五
輸入	九五、〇三五、二九六	二二六、九二二、五一六	一〇一、八三二、九六二	二六五、六七八、九九〇	八八、六四四、二九五	二五、二〇五、八三七
(再輸出ヲ含マズ)						



千八百九十  
八年に於け  
る貿易

四〇

右の統計に徴するに最後の千八百九十八年は、之を前兩年に比し著しく其額を減少せるものあり。而して其原因に就ては種々の理由存すべしと雖も、要するに同國に於ける政治上の變亂、米西戦争の影響、其他黃河の氾濫により沿岸地方の農作物被害、漢口の大火の爲め多數の生命財産を失ひ、殊に内地連年の不作は米價の暴騰を來し、之が爲め金融は非常の逼迫を告げ、外國との取引に大打撃を蒙らするに至りしものなり。

勢ひ斯の如くなれば、昔に外國貿易か以上の衰微を致せしに止まらず。同地方に於ける諸種の産業も亦尠からず其波動を受け、現今漸く隆昌の域に達せんとする綿糸紡績の如きも、一時其事業を中止するの悲運に沈倫せり。

千八百九十七年の上海貿易總額は、二億六千五百六十七万八千九百九十兩。千八百九十八年には二億五千二百二十五万五千八百三十七兩となれり。而して同年の外國輸入中一億二千二百萬餘圓の再輸出を控除せる純輸入高は千八百九十六年より四百萬兩を減し、同九十七年より五百萬兩を減少せり。此現象たる英國及び其附屬地との取引の衰頽に基くか如し。輸入に於て最も多額を占めしは、合衆國及び日

紡績綿糸

本とす。(北支那に於て米國か其販路を擴張せしは注意すべき事柄なり)

紡績綿糸は、日本及印度よりの輸入の増進せると新に同地紡績業の勃興し外國輸入品と競争するに至りし爲め、供給過大を告ぐるに及び糸價は著しく下落の傾きを呈せり。綿糸の輸入價格は千八百九十七年に六千百萬兩なりしもの、其翌年には五千五百萬兩となれり。

毛織物

毛織物(Woolen)は、毛布を除く外著しく其額を減せり。(上海に輸入せる毛布の三分の二は露領滿州に輸送せらるゝものなり)即ち千八百九十七年には殆んど四百萬兩に達せしに對し、同九十八年には二百三十萬餘兩に減退せり。同年中鐵類の停滞は一時頗る巨額に達せしと雖も、年末に近づくに従ひ漸く其額を減するに至れり。輸入總額は七百萬兩にして前年に比すれば百二十五萬兩の増加なりとす。

石炭

石炭は五十五萬噸の巨額に達し、此價四百萬兩を越へたり。(千八百八十五年には二十四萬六千噸百三十八萬八千兩又同年中内地石炭の上海輸入高は三十一萬噸十萬九千兩、輸入地方別を擧ぐれば、日本より四十七萬六千噸、此價格三百五十萬兩、千八百九十七年に日本炭の輸入額は十萬五千噸、此價九十七萬五千兩なり)東京



石油  
砂糖

より二万二千噸此價格十六万四千兩英國より二萬八千噸此價格三十萬八千兩尙他に濠州産の輸入せしもの少許あり。而して日本炭の劣等品は上海より更に内地に輸送せらるゝもの多し。千八百九十七年に米國及ひスマトラより輸入せし石油は千三百萬瓦以上に達し尙千百萬瓦の露油其他合計四百三十餘萬瓦に及び其價格八百五十萬兩内外にして内米國百四十三万兩露國百十四万兩スマトラス九十七万兩之を前年に比すれば殆んど二倍の額に達せり。斯く輸入の盛んなる結果其價格は稍下落の傾向を見る。砂糖就中白砂糖は頗る好況にして其増進の割合は價格に於て千八百九十六年に對し同九十七年には五分九十八年には一分五分の増進を致せり。更に數量に於て千八百九十六年に對し同九十七年には九分同九十八年には五割の増進をなせり。尙白砂糖を以て其他の輸入糖と對照し來る時は千八百九十一年頃迄は前者は後者に對し僅々一部の割合に過ぎざりしか八年後の同九十八年には三割に劇増せり。反之赤砂糖は前年に比し二十万担即ち三割八分の減退を生ぜり。而して此變動を來せる所以の者は從來鎮江にて仙頭附近に産せる砂糖の多くが外國品同様香港を經由せしより總て之を外國品

と見做せしに基く。内地に於ける米の不作なりし爲め千八百九十八年の外國米輸入額は二十一萬三千担に達せり。更に千八百九十八年輸入狀況の一斑を窺ふ資料として、同地倉庫の貨物出入統計を掲げん。

自千八百九十八年 年十二月 上海倉庫入荷統計表

品名	數量單位	入			出			年末殘荷
		年初在荷	年内在荷	合計	内地仕向	再載船	合計	
生金市	担	三,〇〇〇	三,三八〇	五,三八〇	三,八八〇		三,八八〇	一,五〇〇
色金市	担	二〇一	三七八	三七八	三七八		三七八	
銀幣(米國)	担	七五,八七〇	一三,七二五	八九,五九五	八九,五九五		八九,五九五	
臥布(米國)	担	一一,三〇〇	六三,四四〇	一七六,四四〇	一七六,四四〇		一七六,四四〇	二八二
臥布(米國)	担	八三三	六〇	八八二	六〇〇		六〇〇	
臥布(米國)	担	一,七五九	一,七五九	一,七五九	一,七五九		一,七五九	
臥布(米國)	担	五九五	五九五	五九五	五九五		五九五	
形付木綿	担	三三二	七八〇	一一一二	七八〇		一一一二	
形付木綿	担	三三二	七八〇	一一一二	七八〇		一一一二	
印花布	担	四,〇〇九	四,〇〇九	四,〇〇九	四,〇〇九		四,〇〇九	
白木綿	担	一七八	一〇,一八	一〇,一八	一〇,一八		一〇,一八	
天竺布(形付)	担	二,三七二	二,九六七	二,九六七	二,九六七		二,九六七	







生絲機械絲を除く)の輸出總額は千八百九十七年に六万三千九百七十九担二千九万九千七百七十九兩、同九十八年に六万五千三百三十三担二千七十九万七千八百四十四兩、屑物四万四千三百二十八担二百十八万餘兩、機械製絲は一万一千五百二十六担(千八百九十七年)に對し八千五百〇七担(同九十八年)の不況に陥れり。殊に糸價の比較的良好なりし爲、生繭購入に際し互に競争の狀を呈せしかば、其初め一担四十弗(平價三十二弗)内外に過ぎざりしが、數日の間に四十五弗に騰貴するに及び、高價なる原料を仕入れし結果は一般に製絲家の損失に歸せり。况んや、其繭質は之を數年前に比し著しく粗悪となりし傾きあるに於てをや。曾て五六年以前に在りて一担の生絲を製造するに費せし乾繭の量は平均四担半を普通とせしに千八百九十七年より同九十八年に及ては一担の生絲の爲に五担半の繭を要するに至れり。而して更に驚くべきは卅二年の經驗に由るに六担の繭を以てせされば一担の生糸を得る能はざるに至れるの事實とす。同地方の養蠶業は、今や前肥の如く著明なる衰頹の狀を呈するに及び、將來之か改良策に關し熱心經營するに非ずんば、其頹勢を挽回し同地重要産物たるの地位を維持し能はざるに至るや、瞭

々として火を賭るか如し。左に千八百九十八年に於ける繭糸輸出統計を掲げて同品の將來を卜せん。

生糸輸出數量表 (千八百九十八年末調査)

仕向地	粗絲	黃絲	裝斗絲	同切繭絲	屑	合	計	野粗絲
英吉利	三三三	一三三	二二			三三三	三三三	二六七
香港	一六	一三				一六	一六	
印度	五九	五三	三〇			一四二	一四二	
海峽殖民地	三	二				五	五	
合衆國	二四	二	四八			七四	七四	
奧大利								
白耳義	六	五				一一	一一	
埃及	六	五				一一	一一	
佛蘭西	三〇	二七	四			六一	六一	
獨逸	七〇	六三	七			一四〇	一四〇	
伊太利	七〇	六三	七			一四〇	一四〇	
日本	一七	一五	二			三四	三四	
日	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
佛蘭西	一七	一五	二			三四	三四	
獨逸	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
日本	一七	一五	二			三四	三四	
日	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
佛蘭西	一七	一五	二			三四	三四	
獨逸	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
日本	一七	一五	二			三四	三四	
日	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
佛蘭西	一七	一五	二			三四	三四	
獨逸	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
日本	一七	一五	二			三四	三四	
日	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
佛蘭西	一七	一五	二			三四	三四	
獨逸	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
日本	一七	一五	二			三四	三四	
日	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
佛蘭西	一七	一五	二			三四	三四	
獨逸	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
日本	一七	一五	二			三四	三四	
日	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
佛蘭西	一七	一五	二			三四	三四	
獨逸	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
日本	一七	一五	二			三四	三四	
日	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
佛蘭西	一七	一五	二			三四	三四	
獨逸	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
日本	一七	一五	二			三四	三四	
日	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
佛蘭西	一七	一五	二			三四	三四	
獨逸	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
日本	一七	一五	二			三四	三四	
日	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
佛蘭西	一七	一五	二			三四	三四	
獨逸	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
日本	一七	一五	二			三四	三四	
日	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
佛蘭西	一七	一五	二			三四	三四	
獨逸	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
日本	一七	一五	二			三四	三四	
日	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
佛蘭西	一七	一五	二			三四	三四	
獨逸	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
日本	一七	一五	二			三四	三四	
日	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
佛蘭西	一七	一五	二			三四	三四	
獨逸	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
日本	一七	一五	二			三四	三四	
日	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
佛蘭西	一七	一五	二			三四	三四	
獨逸	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
日本	一七	一五	二			三四	三四	
日	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
佛蘭西	一七	一五	二			三四	三四	
獨逸	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
日本	一七	一五	二			三四	三四	
日	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
佛蘭西	一七	一五	二			三四	三四	
獨逸	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
日本	一七	一五	二			三四	三四	
日	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
佛蘭西	一七	一五	二			三四	三四	
獨逸	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
日本	一七	一五	二			三四	三四	
日	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
佛蘭西	一七	一五	二			三四	三四	
獨逸	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
日本	一七	一五	二			三四	三四	
日	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
佛蘭西	一七	一五	二			三四	三四	
獨逸	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
日本	一七	一五	二			三四	三四	
日	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
佛蘭西	一七	一五	二			三四	三四	
獨逸	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
日本	一七	一五	二			三四	三四	
日	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
佛蘭西	一七	一五	二			三四	三四	
獨逸	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
日本	一七	一五	二			三四	三四	
日	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
佛蘭西	一七	一五	二			三四	三四	
獨逸	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
日本	一七	一五	二			三四	三四	
日	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
佛蘭西	一七	一五	二			三四	三四	
獨逸	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
日本	一七	一五	二			三四	三四	
日	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
佛蘭西	一七	一五	二			三四	三四	
獨逸	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
日本	一七	一五	二			三四	三四	
日	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
佛蘭西	一七	一五	二			三四	三四	
獨逸	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
日本	一七	一五	二			三四	三四	
日	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
佛蘭西	一七	一五	二			三四	三四	
獨逸	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
日本	一七	一五	二			三四	三四	
日	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
佛蘭西	一七	一五	二			三四	三四	
獨逸	一七	一五	二			三四	三四	
伊太利	一七	一五	二			三四	三四	
日本	一七	一五	二			三四	三四	
日</								







仕向地	紅		茶		茶葉		茶末		磚		錫		日		茶種	
	工夫	其他	合計	茶葉	茶末	紅	綠	茶	板	茶	茶	茶	茶	茶	茶	茶
英吉利	3,000,000	1,500,000	4,500,000	1,700,000	2,800,000	3,500,000	1,000,000	2,500,000	1,500,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
香港	2,500,000	1,000,000	3,500,000	1,500,000	2,000,000	2,500,000	800,000	1,700,000	1,000,000	800,000	800,000	800,000	800,000	800,000	800,000	800,000
印度	1,500,000	500,000	2,000,000	800,000	1,200,000	1,500,000	500,000	1,000,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000
海峽殖民地	1,000,000	300,000	1,300,000	500,000	800,000	1,000,000	300,000	700,000	400,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000
英領亞米利加	800,000	200,000	1,000,000	400,000	600,000	800,000	200,000	600,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000
英領亞米利加	700,000	100,000	800,000	300,000	500,000	700,000	100,000	600,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000
合衆國	600,000	100,000	700,000	200,000	500,000	600,000	100,000	500,000	200,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000
朝鮮	500,000	0	500,000	100,000	400,000	500,000	0	500,000	100,000	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000
白耳太	400,000	0	400,000	0	400,000	400,000	0	400,000	0	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000
佛蘭西	300,000	0	300,000	0	300,000	300,000	0	300,000	0	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000
獨逸	200,000	0	200,000	0	200,000	200,000	0	200,000	0	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000
伊太利	100,000	0	100,000	0	100,000	100,000	0	100,000	0	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
日本	800,000	0	800,000	0	800,000	800,000	0	800,000	0	800,000	800,000	800,000	800,000	800,000	800,000	800,000
日西亞(海上)	600,000	0	600,000	0	600,000	600,000	0	600,000	0	600,000	600,000	600,000	600,000	600,000	600,000	600,000
魯西州	500,000	0	500,000	0	500,000	500,000	0	500,000	0	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000
總計	15,000,000	5,000,000	20,000,000	7,000,000	13,000,000	15,000,000	5,000,000	10,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000

五〇

仕向地	綠		茶		錫		日		茶種	
	小珠	大珠	前	後	茶	錫	日	茶	茶	茶
瑞典	3,000,000	1,000,000	4,000,000	1,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000
瑞西	2,500,000	800,000	3,300,000	800,000	2,500,000	2,500,000	2,500,000	2,500,000	2,500,000	2,500,000
歐羅巴	2,000,000	700,000	2,700,000	700,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000
亞細亞	1,500,000	500,000	2,000,000	500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000
土耳其	1,000,000	300,000	1,300,000	300,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
外國輸出	800,000	200,000	1,000,000	200,000	800,000	800,000	800,000	800,000	800,000	800,000
支那	700,000	100,000	800,000	100,000	700,000	700,000	700,000	700,000	700,000	700,000
總計	15,000,000	5,000,000	20,000,000	5,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000

第三章 開港場(下)

五







し著しく減少し之と同時に英國も亦稍減少せしを見る。

國別	出之部		入之部		出入合計	
	船數	噸數	船數	噸數	船數	噸數
英國	二,四九三	二,二四一,三九四	二,四九七	二,二五九,一八七	四,九九〇	四,五〇〇,五八二
米國	三三三	五八,〇七四	三三三	五八,〇七九	六六六	一三六,一五三
獨逸	一九三	二五,二八六	一九二	二五,二五三	三八五	五〇五,三九二
佛蘭西	五九	一一,一三三	五八	一一,九八五	一一七	二二六,一〇八
蘭國	二	三,二七八	二	三,二七八	四	六,五五六
丁國	一五	一一,六九四	一五	一一,五〇五	三〇	二四,一九九
瑞典	六七	六九,〇五〇	六六	六八,六六三	一三三	一三七,七二二
露國	二二	四一,六八六	二二	四一,六八六	四四	八三,三七二
奧國	八	二二,四六三	八	二二,四六八	一六	四四,九三六
日條約	三〇〇	二八,八九一	二九八	二八,六七五	五九八	五七五,六六三
無條約	九	一一,〇三七	九	一一,三三七	一八	二七,二七四
支那計	七八九	八七,九一四	七九一	八八,〇五三	一,五八〇	一,七五九,九八八
合計	二,九七七	三,八九六,二九一	二,九七九	三,九一一,六一四	五,九五六	七,八〇七,九〇五

金銀  
阿片

總計	出之部		入之部		合計	
	船數	噸數	船數	噸數	船數	噸數
英國	三,四〇〇	四,〇九四,三三〇	三,四一〇	四,一〇〇,七七八	六,八一〇	八,二〇五,一〇八
米國	三三三	六九,〇三三	三三三	七〇,五二〇	六六六	一三九,五五三
獨逸	一九三	二五,二八六	一九二	二五,二五三	三八五	五〇五,三九二
佛蘭西	五九	一一,一三三	五八	一一,三三七	一一七	二二六,一〇八
蘭國	二	三,二七八	二	三,二七八	四	六,五五六
丁國	一五	一一,六九四	一五	一一,五〇五	三〇	二四,一九九
瑞典	六七	六九,〇五〇	六六	六八,六六三	一三三	一三七,七二二
露國	二二	四一,六八六	二二	四一,六八六	四四	八三,三七二
奧國	八	二二,四六三	八	二二,四六八	一六	四四,九三六
日條約	三〇〇	二八,八九一	二九八	二八,六七五	五九八	五七五,六六三
無條約	九	一一,〇三七	九	一一,三三七	一八	二七,二七四
支那計	七八九	八七,九一四	七九一	八八,〇五三	一,五八〇	一,七五九,九八八
合計	三,四〇〇	四,〇九四,三三〇	三,四一〇	四,一〇〇,七七八	六,八一〇	八,二〇五,一〇八

金銀及阿片金の輸出が八百五十萬兩に上りしに反し、銀は輸入超過九百萬兩に及べり。内日本の輸入に係るもの(銀)無慮千万兩以上なりき。阿片は内地の供給少なりし爲め、自然其價格を騰貴し輸入に便利を與ふるの傾向を致せり。此形勢に伴はれ最も好況なりしはベングアル産にして、白皮(White)は前年に比し却て減退せり。内地四川産が千八百九十七年には八千八百五十一擔の輸入を爲せしか、同九十八年には六千二百九十三擔となり。雲南産は前年の九百六十七擔に對し千五百七擔に増進せり。元來内地産は同年中著しく其産出を防碍せられし結果、價格は一



割五分方の騰貴を示せり。  
 現今上海に存在する紡績事業中、外國人所有に屬するもの五會社十六万七千錘(運轉錘數は其六七割に過ぎず)支那所有に係るもの四社十四万六千錘にして將來同業の有望なるは照々たる事實なれ共、之に反して蠶糸業は頗る衰運に向へり。此他同地の産業としては二個の燐寸製造所あり。何れも支那人管理に屬し其産額は一日に百哥入八十箱を製造す。一哥の價普通二百九十文内外に賣買せらる。尙同地盛衰の詳細を窺はんとせば次の諸稅收入表を参照せよ。

年	輸入稅	輸出稅	海陸貿易稅	阿片稅	噸稅	通過稅	阿片釐金	合計
千八百八十九年	三、三三三、七三二	一、六五、五一六	二、三三、八四四	四、九六、六一一	一、七〇、六二二	四、四、五三九	一、三三三、一六二	五、六八、四六一
千八百九十年	三、六六〇、一八八	八、三九、三九二	三、七、五五六	五、二二、六九六	一、六六、九七三	五、四、四一八	一、三九三、六九八	五、八六、八五四
千八百九十一年	三、一四〇、九四七	一、二、四一、二三四	二、三九、四一〇	五、三二、三七八	二、二四、八四五	四、九、六六一	一、四一五、三九〇	六、八三三、八九八
千八百九十二年	二、九四二、六一四	一、九七、四四〇	二、二一、三四四	四、七、五二九	二、〇九、九八六	五、〇、一四三	一、三七二、四七四	六、五七、五三三
千八百九十三年	二、五七三、一九三	一、〇、五三、三四三	一、九〇、九五二	五、八、五〇八	三、〇七、五四七	六、八、四〇五	一、二九四、三三三	六、四七〇、〇〇八
千八百九十四年	二、九四二、一六七	一、二、一八、七七八	一、九〇、九五四	四、八、五九一	三、〇七、五四七	六、八、四〇五	一、二九四、三三三	六、四七〇、〇〇八
千八百九十五年	二、六四七、二五三	一、四、一一、二六〇	二、〇六、〇三六	四、二、三四〇	二、八二、九四〇	九、三、〇六〇	一、二二、七九四	六、八八、八九五
千八百九十六年	四、二〇二、五〇六	一、三、七、七二四	三、三、五三四	四、三三、二〇九	三、七六、七一五	一一、七、八五	一、二五〇、〇一〇	七、八九、四八六
千八百九十七年	三、八一、五一九	一、四、二、六四七	二、六三、六三七	四、三三、六二二	三、七四、五〇〇	七、二、三八九	一、二二五、四三三	七、四九、七七一

國別	輸入稅	輸出稅	沿岸貿易稅	噸稅	通過稅	阿片釐金	合計
英國	三、三八一、二六八	五、六四、〇九八	一、五、六九二	二、五六、三三三	二、三三〇	四、〇四、四四四	三、七四四、一五八
獨逸	四、九、八九七	一、三、三五五	一、六三	一、五、四九五	一、三九六	五、四〇、六四〇	七、六、二七八
佛蘭西	四、一三三、三三三	一、二七、三六二	二、九一二	三、五、九七六	五、七一一	一、〇三、三三三	一、二二五、八三三
米國	八〇、八六八	一、八四、八三七	四、一三	一、九、七〇〇	一、五、七〇一	五、〇三、三三三	四、〇四、五九一
丁國	一一、六四七	四、三	四、一三	二、八三三	一	五、四七二	二〇、三九九
瑞典	七三、〇六三	七、三〇六	六、四七	九、九二一	一	九〇、九三〇	九〇、九三〇
露國	一、三五五	一、八、九三三	六、四七	九、二一〇	五、九四〇	二、二四〇	三、五、三四八
埃國	三、四、八〇〇	一、四、六三三	六、四七	九、一七〇	一、三三三	二、二四〇	四、七、八〇七
伊國	二、五五、二五一	七、六、二六八	六、四〇	一、八、一五三	九八	二、二五八	三、七、九四〇
日國	一一、八九八	二、〇〇〇	六、四〇	三、一八〇	三、七五六〇	五、一一	一、七〇、七九
支那	一、八〇、七〇四	一、九三、八〇九	二、二二、一七七	二、〇、五六四	三、七五六〇	五、一一	五、五五、三二八
阿蘭	七六八	一、九〇、八九九	三、六	五、八三	九、九〇九八	一、〇七八、二八〇	四、〇五、九一一
合計	三、八九五、二一一	一、九〇、八九九	二、四二、六八三	四、〇二、〇二〇	九、九〇九八	一、〇七八、二八〇	六、九〇七、一九四

寧波港

第三章 開港場(下)



總説 清商中寧波商人として諸外國人に知られたるは即ち此地の産なり。寧波は往昔明朝の時代より外船の來りて交易を爲したる所なるを以て、夙に貿易繁盛を招き商人は一般に海外の思想に富める事、我國長崎港と酷似する處あり。其初め英國の要求により千八百四十二年に開港せられたるものなり。上海を距る南方六十里、北緯廿九度五十五分東經百廿一度廿二分の處にあり。浙江省寧波府鄞縣に屬し、一名四明と云ふ。海を隔つる十三里に達すれ共河川は舟楫の便を失はず。氣候は上海と大差なく、人口二十五万を有し、人情概ね柔和にして華美を好む。市内には豪商多く住し特に儒教の盛なるものあり。街衢は上海に比して宏濶にして清潔なり。土地肥え米麥等の穀物を産する外茶の栽培及び蠶蠶業大に拓け蠶學校の設けさへあり。昔時に於て同市は繁盛を極め中央支那の一大市場たりしか、彼の長髮賊の爲に一度其災に罹り又舊觀なしと雖も、内外の關係は能く其繁榮を持續し以て今日に至れり。

千八百八十五年の外國品輸入價格は五百六十五万五千八百五十四兩、内國品輸入百七十一万八千二百十五兩にして、内外に向て輸出せし金額は五百十萬七千〇廿

八兩、共計千二百四十八萬千〇九十七兩なりき。而して其輸出貨物には茶、綿花、生糸及水産物を主なるものとし輸入貨物には海參、魷魚、鹹魚、干魚、鮮果、乾果、蒜、落花生、水靛、龍眼、橄欖、橘子、蝦米、糖果、赤米、鞋子、漆、鹹菜、梅子、菜種、土茯苓、茯苓子、生姜、參、人參、煙葉、藥材、陳皮、粗磁器、衣服、土器、扇、粗細夏布、麻袋、麻皮、繩、蔗、糖密、紙類、砂糖、紅茶、綠茶、烟絲、麥麵、其他雜貨等の諸品なり

外國貿易 寧波の貿易額は千八百九十六年に千七百十二万三千四百四十四兩。同九十七年に千六百〇四萬二千三百三十六兩。次て去る九十八年には千四百四十一萬八千五百三十四兩に減せり。之か緣因は主として杭州の開港にあり。而して其關係は杭州と鎮江との取引の劇進に徴するも之を知るを得べし。即ち兩地の取引が此二年間に千七百萬兩より二千二萬兩に劇進せる事情に照る時は能く其間の關係を明にするを得ん。

同地方の鑛業には寧波の南十六哩の地に於て銀鑛の開掘を爲せり。去れとも石炭に乏しきは、産業の發達を防碍する事尠なりとせず。從て既存のものには唯一の紡績業あるのみ。其錘數一萬七千四十八を有し一日の製糸高は九十擔に達



すと云ふ。之か爲に千八百九十二年には一萬六千九百四十四擔の綿糸を輸入せしに、千八百九十八年には四千四擔に退減せり。

輸入品中石炭(日本産)を始めとし砂糖、米、人参、色箱(Colour)沙藤(Saffron)熟牛皮及雜貨等何れも前年に比して、幾分増進を告げ、其總價七十四萬七千六百六十二兩となれり。而して其取引地は日本及香港を以て其主なるものとす。

當港よりの純輸出額は一萬三千五百五十三兩にして内譯け品目は綿花、花生油(Cotton and Nuts Oil)等の貨物なり。左に同港重要輸出品數量十ヶ年比較統計を載す。

自千八百九十八年重要輸入品數量比較表

品名	數量單位	千八百九十一年	千八百九十二年	千八百九十三年	千八百九十四年	千八百九十五年	千八百九十六年	千八百九十七年	千八百九十八年
阿片(外國)	擔	六、〇七三	六、三二六	五、八四九	五、五八六	五、一八六	五、〇三八	三、八一	三、五八四
全(內國)	擔	—	—	—	—	—	—	—	—
全(外國)	擔	八〇、五〇〇	八八、九七五	六三、九八〇	五九、〇三三	七、七八四	九、一八五	八、九九九	八、五八一
綿布(外國)	段	六、四〇〇	四、七二六	四、〇五	四、〇	五、三八〇	一〇、六四三	一、一八九〇	六、五〇〇
全(內國)	擔	—	—	—	—	—	—	—	—
全(外國)	擔	三、一七五	一、六九四	七、七六一	九、九四三	二、五五〇	一、六八五	七、一三九	四、〇〇
毛織物	段	一、一三九	一、三、四五一	一、二、四一六	一、〇、一一一	三、九六三	一、一三八	一、一三九	四、九三三

第三章 開港場(下)

品名	數量單位	千八百九十一年	千八百九十二年	千八百九十三年	千八百九十四年	千八百九十五年	千八百九十六年	千八百九十七年	千八百九十八年
鐵棒鐵條	擔	三、五九〇	三、三九八	二、三八七	二、三九六	三、〇一〇	二、五五五	二、八八七	二、四九七
錫磚	擔	二、六九四	二、五九六	二、四、四四	二、八、七四	三、三、三三	三、六、三三	二、七、六〇〇	一、六、九五四
鉛塊	擔	一〇、一九三	一〇、九〇八	九、七四三	九、〇一六	一、九三二	三、五七八	六、六五六	七、三七五
海參	擔	一、七五六	一、六九七	一、八〇	一、七九七	一、九六九	一、二八九	二、一九六	三、〇七五
土茯苓	擔	一、五七七	一、七八一	二、〇二六	二、二四七	一、五九四	一、八六八	一、八九九	一、五五三
小麥粉(米國)	擔	五、四〇三	五、五四〇	七、〇三七	七、〇四二	九、一四八	三、三〇四	四、〇〇三	二、六九六
木參	擔	三、九四八	三、六四八	三、〇二二	二、五五一	一、六二二	二、八〇一	四、〇〇三	二、六九六
人參	擔	一、六七	一、九	一、六六	二、〇〇	一、〇〇	二、一〇	二、六二	二、五
石參	擔	二、六八〇	一、四、三七〇	一、五、〇四五	一、四、三三〇	一、四、二〇〇	一、四、二八〇	一、八〇〇	一、五、六〇
藍蔴	擔	一〇、八九二	一、二、五四八	一、二、八四五	一、二、六四三	一、一、八九七	一、五、六三三	一、三、二七五	七、二六九
藍蔴	擔	一、三、五三七	一、六、八二九	六、一八四	四、七二〇	一、八、八八四	一、五、六七一	一、〇、一九四	一、〇、一九四
龍眼	擔	四、三六六	一、三、九二九	二、五二八	四、四七八	五、二七四	三、九一五	七、四二九	四、七五五
榜皮	擔	五、六、九四一	四、七、一五八	四、〇、七、九	四、六、二六三	四、八、六八〇	五、二、一九七	六、二、四六〇	四、一、六六六
榜皮	擔	三、〇、七、〇七五	二、七、四、一〇一	三、五、七、一六五	二、八、八、二四五	三、六、一、二〇五	三、五、三、八三三	三、七、五、三三五	四、一、八、二七五
藥寸	擔	三、九、二、四七三	四、五、六、二九〇	四、〇、四、八〇	三、七、五、〇一七	三、九、八、五〇九	三、七、六、三〇六	四、五、〇、〇六〇	四、二、六、九一
石油(米國)	擔	一、八、七、七三〇	一、七、二、一、八八〇	二、〇、六、七、八七〇	一、四、八、九、二六〇	一、八、九、九、一五〇	一、二、八、八、四〇〇	一、五、四、〇、〇〇〇	一、三、九、一、四四五
全(魯國)	擔	五、七、九、四〇〇	四、〇、七、二八〇	三、三、五、〇〇	三、三、五、〇〇	六、一、四、四、三三五	一、一、三、三、三〇〇	一、〇、四、五、四〇〇	七、一、〇、〇〇〇
全(暹羅)	擔	—	—	—	—	—	—	—	—
桐油	擔	一、六、二、一八	一、四、五、三三	一、七、六、〇八	一、九、三、四六	一、二、一、九八	一、三、五、八一	六、三、三三	一、九、九、〇五
胡椒	擔	八、五〇	一、〇、三九	一、四、四六	七、六六	八、一八	一、〇、〇二	七、三三	五、九一
胡椒	擔	九、三、一一	八、五、五五	六、八、一六	九、一、三一	八、五、八四	九、一、六四	八、五、三六	六、三、九〇
米	擔	九、〇、一七	九、三、五九九	二、〇、四、三五五	二、八、九、六七	二、五、九、四	一、〇、八、四二	二、五、六一	一、二、四、二七七



茶 棉花

沿岸貿易 輸出は其額三百九十八万〇七百二十九兩にして、前年より九十四万一千七百四十二兩を減少せしは、全く百万兩以上の産出を見るべき棉化が六十七万五千七百九十兩、緑茶が三十九万四千六百五十五兩に減少せしか如き、蓋し其主因なるなからんや。事實に於て棉花の輸出は前年に劣らずと雖も、其輸出のシャンクに依りしものは前記の計算中に包含せられず。緑茶は過去三十年に比し其質良好なるを得、一擔三十一兩の高價を以て市場の賣買を開始せり。去れども米西戦争

第三章 開港場(下)

六三

品名	單位	千八百九十一年	千八百九十二年	千八百九十三年	千八百九十四年	千八百九十五年	千八百九十六年	千八百九十七年	千八百九十八年
魚肚	擔	六三〇	五二四	七〇〇	七七六	九一七	七八五	八八七	一、〇九二
魚膠	擔	一、〇八五	一、一五二	一、六〇五	一、三三三	七八二	一一一	一、七四三	一、三二八
魚肝油	擔	一、〇九六、二七二	一、〇六六、七九一	一、九三〇、七五五	一、二四〇、三八七	一、四八四、三三三	一、四九三、七一一	一、五〇七、四一九	一、六二二、六九三
魚品	擔	二五六、三三八	三〇八、六八六	二四八、二三〇	二七〇、九二二	二七五、三三四	二五九、五六〇	二五〇、四四九	二八三、六〇三
淡菜	擔	一五六	三四四	五二二	五八八	八三三	六一六	七九六	六八八
編笠	擔	一、六六二、三五〇	一、三九、五〇〇	二、六二四、〇〇〇	二、八〇〇、五二〇	二、四二二、三九〇	二、一八九、五七二	四、八一〇、八七〇	三、六二二、二六六
花生油	擔	二七、四三六	二二、七一一	一八、一四七	五〇二	四五〇	二一、八〇〇	四、八一〇、八七〇	三、六二二、二六六
酒	擔	六、四七七	八、四五六	六、七三六	八、三二六	四、八一〇、八七〇	一三、八三三	四、四六五	七、三七二
網總正頭	擔	三六二	三三五	四四八	四四〇	四二二	四三二	四四〇	三九四
紅茶	擔	一五九、二八三	一六二、四九三	一八三、七七五	一六〇、四三三	一八八、七三〇	一七五、五五七	七四、〇四七	五三、六四四
緑茶	擔	二二六	一〇三三	九九八	二〇四一	一、七〇三	二、四四七	一、三三二	三、八四五

品名	單位	千八百九十一年	千八百九十二年	千八百九十三年	千八百九十四年	千八百九十五年	千八百九十六年	千八百九十七年	千八百九十八年
蘇木	擔	五、六三七	六、四七二	四、八〇八	四、八五五	三、八八三	五、二七三	五、八二二	三、三三三
海菜(日本)	擔	九、二〇一	九、三二五	九、二一一	九、四六〇	一〇、〇一一	一三、四九一	一三、三三〇	一、七九二
砂糖	擔	一三三、九〇〇	一三四、八四四	一七六、二六五	一八七、九〇五	二二四、〇九三	一七四、三三三	三三三、三七一	三三九、七九四
冰糖	擔	九、八八四	九、七六七	九、四五四	一〇、七六九	一〇、三三六	九、四二四	一一、一三三	一〇、八八九
水油	擔	六、三三六	九、〇九五	二、〇二四	二、二九八	三、一八〇	六、二二三	五、五四五	五、八一五
柏油	擔	三、二二九	三、三〇二	三、七六一	四、六六九	七、五六六	六、二五九	四、八九八	三、四四五
葉草	擔	七、四一八	七、一四一	六、五九三	六、八〇八	六、七七四	七、〇三七	六、九九一	六、九九九
刻草	擔	七、七五	九、五九	九、五一	一、一四八	一、〇七六	一、〇九七	一、一四七	一、〇七九
白漆	擔	一、四六三	四、五二	一、二七六	八六二	八三三	一、〇三〇	九八二	八七〇
烏木	擔	一、七二五	一、四九九	一、八五〇	二、八一三	七八一	二、六五四	六八六	九一一

自千八百九十八年重要輸出品數量比較表

品名	單位	千八百九十一年	千八百九十二年	千八百九十三年	千八百九十四年	千八百九十五年	千八百九十六年	千八百九十七年	千八百九十八年
明鑾	擔	六六、七五〇	七九、三三一	九一、八五一	八四、五六五	七八、三二一	九五、七四一	八一、七二二	七九、七二九
銅貨	擔	六、〇九一	四九、八一	九九、六二六	一〇、二〇〇	五六、八三三	八三、八三四	一〇八、九六四	七〇、九九九
綿花	擔	二八、二四〇	四九、八一	九九、六二六	四四、二二九	九九、七三九	四、九〇四	七五	一、二〇
綿(寧波)	擔	八二、五六七	三五、五九九	一八、三三四	七、八〇六	三二、九〇〇	三七、三〇五	三七、五三二	三九、一〇〇
紙魚	擔	二、四七〇、〇九九	二、〇二二、八五三	二、四二〇、七二七	二、八七三、四〇三	二、九七八、九四八	三、二五九、八八四	二、二八八、〇二二	二、八二二、七五〇

六一



綿絲、棉布、  
鐵、砂、糖、米、銅

の爲め一方ならず其取引を障碍せられたり。又花生油は前年の五万六千八百四十四擔に對し三万三千二百四十一擔に減少せしむ、是れ只同品の不作なりし故にして南方に於ける需要は追年増加の狀顯著なり。輸入の方面に於て千八百九十七年には最高の額を顯はし、九十八年には前年に比較するに六十二万九千八百八十四兩を減せり。去れ共九十六年に比する時は尙大に優勝の地位を占めたり。外國品の輸入は前年より七十七万三千二百四十四兩を減し。内國品は十四万三千三百六十兩を加ひ。綿絲、棉布は前二年に及はざることを遠し。鐵類は二千擔、燐寸は四十一万八千二百七十五哥、桐油(Wood Oil)は一万九千九百〇五擔、砂糖は二十三万九千七百九十四擔、米は十二万四千二百七十七擔に進めり。

外國及香港ヨリ輸入 支那諸港ヨリ輸入	千八百九十六年		千八百九十七年		千八百九十八年	
	價格	合計	價格	合計	價格	合計
外國及香港ヨリ輸入	四三萬、三七六		七〇五、七五一		七四七、六六二	
支那諸港ヨリ輸入	八、六二〇、六四三		八、三三〇、五五五		七、五〇〇、六一〇	
外國品輸入總計	九〇、五五〇、〇一九		九〇、三三三、八〇六		八、二四八、二七三	
内國品輸入總計	九〇、五五〇、〇一九		九〇、三三三、八〇六		八、二四八、二七三	

外國輸入總計	千八百九十六年		千八百九十七年		千八百九十八年	
	數量	噸數	數量	噸數	數量	噸數
外國輸入總計	四二、三三二	六、一五五、四三〇	四四、六二四	四、九八六、四九五	一一、〇四八	三、九八〇、七三九
外國及香港へ再輸出	七二二	一七、二五五、一三七	四、九二一、八七一	一六、一九六、六八四	三、九八〇、七三九	三、九八〇、七三九
支那諸港へ再輸出	三七、七四七	一七、二五五、一三七	四、九二一、八七一	一六、一九六、六八四	三、九八〇、七三九	三、九八〇、七三九
外國再輸出總計	三八、四六八	一七、二五五、一三七	四、九二一、八七一	一六、一九六、六八四	三、九八〇、七三九	三、九八〇、七三九
外國品輸入總計	九〇、一六五、五五一	一七、二五五、一三七	八、九八〇、二五一	一六、一九六、六八四	八、二七〇、〇〇七	一、四、五四四、三六八
内國品輸入總計	九〇、一六五、五五一	一七、二五五、一三七	八、九八〇、二五一	一六、一九六、六八四	八、二七〇、〇〇七	一、四、五四四、三六八

船舶 出入總數に於て千八百九十八年は前年より三万六千九百六十九噸を増し、内英國船一万六千三百二噸、日本船九隻は香港及臺灣より砂糖輸入の爲め入港せり。其詳細なる統計は左の如し。

英國	入		出		出入合計	
	船數	噸數	船數	噸數	船數	噸數
英國	一、六九九	二〇六、三四九	一、六九九	二〇六、三四九	三、三三八	四二二、六九八
其他	一、六九九	二〇六、三四九	一、六九九	二〇六、三四九	三、三三八	四二二、六九八







位置及人口

人情

交通

氣候

地勢

總説 福州港は又榕城と云ふ。福州府閩縣に屬し、北緯二十六度二十四秒東經百十九度二十五分、閩江の上流三十四里の處にありて、人口百萬、福建省第一を以て稱せらる。人情慍悍なれ、其文を貴び武を賤むの風あり、是れ蓋し其地福建省の首府にして、總督將軍布政使按察使并に各道臺等の諸官衙を有し、官人豪商多く各地の輻輳の要地なるに依る。内地閩江沿岸には建寧興化邵武等の都會ありて、内外の交通盛んに、福州か同地方貨物の集散地たるは恰も上海か長江沿岸地方に於ける如く、閩江沿岸の需要供給は殆んど福州を待て始めて行はるゝものと云ふ可し。氣候は臺灣の北部と異なるなく、極寒三十八度以下に降る事罕れとす、故に平地には嘗て降雪ある事なし、此る温暖の地なるを以て、四季蚊虻を絶たず、極暑適々百度に達することあるも、通例九十五度とす、雨多からずして、空氣清淨頗る健康に適せり。地形險峻にして、閩江の流は屢々溢れて、近傍の民は水害に苦めり。居留地は閩江の右岸に位し、城内より二英里馬尾より約十三里を距つ、南臺と稱し、又江南とも呼ぶ。各國領事館のある所は別に天山と云ひ、遙かに城内の于山或は烏石山に對せり。外人の住居するもの總計六百餘人、商賈概ね茶の取引に従事す。日本人

馬尾

貿易

は僅に三十人内外とす。今上海より南に航する事四百餘哩、三十七八時間を費せば、閩江の口に到着するを得ん。之より屈曲進む事二十哩にして、馬尾に達す。西人之を呼てバゴダ或はアンカレーヨと稱す(バゴダとは塔の義にして、茲に有名の羅星塔建つ、從て此名あり)福州行の汽船は之より上流の河底淺き故總て此馬尾に碇泊す。茲には又洋海關の出張所あり、同所には亦有名なる造船所ありて、船政局の所轄に屬し、同治十年の設立に係る、夫の清國南洋艦隊を製造したる所にして、今日迄其製造艦數二十七八艘ありと云ふ。目下同造船所は佛國人の請負事業となり、六七十名の雇佛人専ら造船に従へり。又馬尾は光緒十一年(明治十七年)清佛兩軍の戰場たりし個所にして、當時佛軍の爲に撃沈せしめられたる南洋艦隊は、今尙河中に橋を表はし居れり。交通は上海より當地に來るものチャイナマゼンソソ及び招商局の汽船に因り、一週間に一度は殆んど定期の如く往來し、我郵船會社沿岸航路船博愛丸弘濟丸の二艘又月々往航に寄港せり。其他當地と臺灣とは支那人の「ジャンク」に因りて頻繁に往復す。輸出品には茶、竹竿、竹器、紙、木材及煙草等の諸品あり。輸入貨物には阿片、金巾、金屬を大宗とし、千八百八十五年の輸入外國品



物價

四百三十万七千二百八十六海關兩、同内國品百五十一萬八千九百九十八海關兩、輸出品價額九百二十七萬二千二百三十六海關兩、通計千五百〇九万七千七百二十海關兩なりき。而して日本より當地へ輸入する貨物は多く上海を經由するものにして、海産物を以て主とし之に次くは綿絲、綿布、摺附木其他の雜貨類外に石炭等なり。物價低廉牛肉一貫目七十錢、大根四十錢、青菜二十錢、鶏肉二十六七錢、其他の野菜は十斤凡そ二十錢より二十五六錢位、パンは一斤八錢内外とす。

外國貿易 千八百九十八年の福州貿易は過去十年間に比類なき繁盛を來せり。左に統計を掲ぐ。

外國及香港ヨリ輸入 支那諸港ヨリ輸入 外國輸入通計 外國及香港へ再輸出 支那諸港へ再輸出	千八百九十六年		千八百九十七年		千八百九十八年	
	價額	合計	價額	合計	價額	合計
外國及香港ヨリ輸入	四、二九三、四六四		四、三四二、一〇七		五、〇四〇、四三二	
支那諸港ヨリ輸入	九六五、七二〇		八九五、四一六		八一七、四三一	
外國輸入通計	一九、七三三	五、二五九、一八四	二七、九五七	五、二三七、五三三	二五、五九四	五、八五七、八六三
外國及香港へ再輸出	一九、七三三		二七、九五七		二五、五九四	
支那諸港へ再輸出	二九、一七九		一一、六八〇		一五、四〇六	

外國再輸出通計 外國品輸入總計	千八百九十六年		千八百九十七年		千八百九十八年	
	價額	合計	價額	合計	價額	合計
外國再輸出通計	四、八九一		四、〇、六三九		四、一〇〇	
外國品輸入總計	五、二二〇、二七三		五、一九六、八八四		五、八一六、八六二	
外國へ輸出	四、九一七、八七三		四、二九一、四四七		五、七四一、四六四	
支那諸港へ輸出	二、九四二、〇二八		二、五五九、八一九		二、五〇二、一〇九	
輸出總計	七、八五九、九〇一	一四、七九六、四〇六	六、八四一、二六六	一三、七〇七、七五五	八、二四三、五七三	一三、八八五、一六八
大計		一四、六六二、七六四		一三、五五六、四九四		一五、七二五、九〇八
(再輸出ヲ含マズ)						

即ち前年の同港輸出入總額は二百十六萬九千四百十四兩に過ぎざりしが、同年には千五百七十二萬五千九百〇八兩に劇進せり。而して同港を去る僅に數哩なる三都港は其三月廿四日の勅令を以て開港場に指定せられしが故に、將來多少の影響は免るゝ能はざる可し。比年米の減收は勢ひ外國米の輸入を仰くに至り、其價格も一米(百四十斤)七弗五十錢(平常四弗五十錢内外)に進み、貧困者は之か爲め非常に困難を來し、政府は不得已各地の倉廩を開き少量宛の粉を廉價に鬻きて窮民を救助する方針を取れり。

輸入は前年に比し六十萬兩の増加を告げしも其一割三分即八萬兩は阿片なり。



穀物  
麥粉  
砂糖  
燐寸  
石油

外國綿絲の輸入は年々増加の一方にて日本絲其七割八分を占め、印度絲殘餘の二割二分に居る。鐵類は前年に二千〇八十七擔、同年に一千八百五十二擔を輸入し、茶箱或は樟腦箱等の内張りに使用する鉛は一万六千六百二十四擔より二万九千三百五十擔に進み。又た外國の小麥粉は賣口宜しく前年の輸入七千二百九十四擔よりしか、次年は二万三千七百二十四擔となれり。之と同様に白砂糖も亦三千二百九十四擔(千八百九十七年)より二萬四千八百八十二擔(千八百九十八年)に劇進し。次に日本燐寸も次第に其需要を増し十八萬五千七百卅より二十三萬六千九百卅に進めり。石油は米同年の輸入四十六万七千瓦(露)九十万二千瓦の減退せるに對しスマトラ油は六十九万九千瓦に達せり。

輸出は前年より百四十萬千三百〇七兩を進めしか此増加額は殆んど茶の獨占する所なり。即ち磚茶か七千三百擔より二千五百擔に減少せしに係らず、紅茶は前年の輸出額より増加せし事一萬二千八百六十八擔なりき。其品質に於ても著しく前年に優れり。就中工夫コンダフの如きは米國輸入茶の標準に合格せざる爲め一時其輸入を禁遏せられしと雖も、同年は斯る患を除却するを得しは其品質の改良の顯

著なりしを證するに足る。現今濠洲の需要は衰へしも、亞米利加、歐羅巴(主に大陸諸國)に於ては依然其地位を保てり。然れ共印度茶と對抗するの餘力は未だし、去れば將來益其品位の改良を謀り、其價格の如き又大に注意する所あるなくんば(一)軀に稍高價に失するの傾きあり、遂に其名聲を持続し能はざるに至らん。小種茶コシュも例年より品質良好なりしが如きも、不幸にして夥多の劣等品の輸出を見しは、同地の製茶貿易の爲め憂ふ可き影響を及ぼすに至るは多言を要せず。白毫ハクモは舊に品質の良好なるのみならず、價格も亦恰好にして賣行良く曾て蒙りし評判を恢復せしに反し、福州の改良製茶會社は遂に其事業を中止するの悲運に沈淪せり。蓋し其製産費の過大にして價格の不廉に失するの傾きあるに由る。今若し同製造所の位置を更に福寧附近に轉するあらんか大に便利なるものある可し。鳥類の羽毛は五年間に其輸出額は二倍に達せり。

福州の外國貿易は始んと茶に依て維持せらるゝと稱するも失當に非ず。去れば左に統計を以て最近製茶輸出の狀況を示さん。

製茶輸出及再輸出統計表 (千八百九十八年末調査)







種別	仕向地		
	南亞米利加	外國再輸出	支那諸港再輸出
雨前			
熙			
春			
皮			
茶			
屯			
溪			
大			
珠			
小			
珠			
(合			
綠			
茶計)			
茶			
葉			
茶			
末			
總計			

沿岸貿易 同年中輸出額の減少せしは羽毛、橄欖、乾果、鹹果、紙、磚、茶、木材等なり。反之増加せし貨物には海味(乾蛤、香菌等)、馬鈴薯等にして同年新に輸出せしは石油箱なり(木材の減少せしは即ち石油箱に作り上げて輸出する結果なり)福州薯は多量に香港其他沿岸諸港に需要せらる。即ち同年中前者に九千三百二十四擔後者に六百九十四擔を供給せり。

輸入は前年より多き事十四万八千百廿九兩なり。而して其理由は小麥の輸入八千九百四十三擔に對し三万七千九百二十四擔に増加せしが爲にして米の減收か此動搖を招くに與て力ありしや必せり。外國粉の増進も亦頗る大なり、同品の將來有望なるは顯著なる事實とす。大豆は三千五百擔より二萬四千二百擔に進み。

豆餅は前年と大差なし。

船舶 同年中の出入船舶中汽船は之を前年に比し三十九艘四萬一千六百四十四噸を減し、之に反し帆船は前年の三十四艘に對し七十艘となり。一万八千五百二十二噸を増せり。尙船舶の所屬國別は日本船を始め(多くは臺灣貿易の關係による英國帆船(過半は木材を臺灣に輸送するもの也)の増加は其主因と目するを得ん。

國別	入		出		出入合計	
	船數	噸數	船數	噸數	船數	噸數
英國	一五三	二〇三,〇二二	一五三	二〇三,〇二二	三〇七	四〇七,〇四四
獨逸	三三	四三,〇三三	三三	四三,〇三三	六六	八六,〇六六
佛國	一	五〇九	一	五〇九	二	一,〇一八
丁本	三	三,四六九	三	三,四六九	六	六,九三八
日本	一〇	一一,一四五	九	一〇,三七七	一九	二一,五三二
支那	八九	三三,八二九	八九	三三,八二九	一七八	六五,六五八
通計	二七九	二九四,〇一六	二七九	二九四,〇三九	五五八	五八八,二五五







國別	輸入税	輸出税	沿岸貿易税	噸税	通過税	阿片釐金	合計
英國	九五,〇八五兩	五八〇,七三三兩	六,九九四兩	五,六〇五兩	四,六九四兩	二七六,四三三兩	九六八,八八四兩
米國	一〇〇	四四三	四六	四二〇	一六	八,六〇六	一,〇一〇
獨逸	九,四四一	七四,二三三	一七	二,〇四八	一六	八,六〇六	九四,四七四
日本	一,四一一	四,五一一	三	一七〇	一六	八,六〇六	六〇,九四四
支那	一,六五一	六,三一四	三	二七	一六	八,六〇六	七,三三三
阿片	一〇六,九四六	九六,三三四	二〇,一〇五	四一六	五,〇四三	二八六,〇三九	一,三〇八,二七五
合計	二二五,二七一	七六一,九〇三	二七,六一八	八,六八八	九,七五四	二八六,〇三九	一,三〇八,二七五

### 廈門港

總説 廈門は福建省漳州府同安縣に屬し千八百四十四年上海寧波福州と共に英國の要求に基き條約港と定めたるものにして北緯二十四度二十八分東經百十八度四分鷺江の出口にあり。廈門市街は素と鷺江中の島嶼に建設せしもの之を以て廈門を亦鷺島と稱すにして周圍二十五哩其附近には無數の小島基布せり。氣候は三伏の候百五六度に達し極寒尙四十度を下らず。人氣は勤儉汲々として蓄財に志すと雖も風俗野卑なり。人口總計三十五万支那沿岸中又得べからざる天

位置及氣候  
人情風土

土地  
交通  
貿易

然の良港なり風景開雅にして愛すべし土地は薄瘦岩石多く樹木は菓實を産せず居留地は廈門島と六七百ヤードを隔て、西方に當れる鼓浪嶼と云へる小島にあり周圍三哩眺望絶佳自然の公園を爲し各國の領事館は多く此に存す。江を遡れば漳州汀州等の都市あり。臺灣は目睫の間に位するを以て常にジャンクの往來織るか如く夫の大阪商船會社が三十二年四月南清航路を開始しダグラス會社と競争するに至るや兩地の交通は愈頻繁となれり。産出品の重要な者は茶砂糖紙綿布麻木材等にして輸入品には米阿片木綿毛布荳類を其主なるものとす。千八百八十五年の外國品輸入六百五十七万五千二百二十七兩内國品輸入額二百七十九萬二千五百十五兩に達し之に對する輸出價額は二百五十九萬六千四百七十八兩總計千九百九十六萬四千二百四十四兩なりき。而して從來此地に來れる我物産の多くは一度香港を經過せる後再輸入せらるゝものなりき。其消費力の如きも福州と大差なしと雖も將來日本製品の極めて需要の發達するは其臺灣の關係上恐らくは支那沿岸各開港場中第一に流行を來すの處なるや明かなり。外國貿易 千八百九十八年の貿易額は千三百二十五萬千三百六十兩にして前年







眞	九、三六四	二、八三九	一、二二〇三
海峽殖民地	四七、一一五	二、三三〇九	七〇、五二四
沿岸各地方	四、五四九	八、二五五	一、二八〇四
合計	七五、二八七	六一、二一七	一三六、五〇四

(備考) 右は千八百九十八年清國洋海關稅務局の調査に屬するものなり  
 惡疫流行は、一時單に廈門市街のみにて一日平均死亡者五十名を下らざるの有様  
 となり、人心恟々之か爲め太た取引の不振を誘ひ、特に廈門の上流二十哩の地に  
 石碼は病勢猖獗を極めり。而して此附近に於ける死亡者は六千名を下らざる  
 べしと云ふ。同年新に興りし航運會社は廈門石碼安海間に定期航路を開けり。  
 當地方にては銀の不足を感せざれ共、臺灣に於ける關稅の收受に非銀を以てせる  
 より、漸次同島に銀の流出を促し、幾分價格騰貴の傾向ありしも、後臺灣の關稅か日  
 本銀行の兌換紙幣に依り代納するを得るに及び、稍此状態を緩和するを得たり。  
 然るに銅貨の缺乏は、既往六年間銀一弗に對し銅貨平均一貫四十文内外の相場な  
 りしか、同年中九十文に騰貴するの珍事を惹起せり。

金融

綿糸

綿糸の輸入は印度糸八万三千三百三十七兩(前年より四割の増加とす)、日本糸八百  
 八十二擔(前年は五十一擔に過ぎず)に達し、前年來香港に停滯品の蓄みし爲め相場  
 も十弗乃至十五弗方の低落を招き、特に爲替の只管下降するに至り一方ならず取  
 扱商の困難を致せり。

石油

石油は逐年其需要を増し特に産出地方により輸入額劇變を生せり。則ち前年に  
 は米國産百七十二万八千六百九十瓦を輸入せしに拘はらず、同年は五十八万〇〇  
 九十瓦、魯國産は千八百九十五年以來年々減退一方にて同九十八年には百一  
 九百六十瓦となりしに對し、スマトラ産は百〇五万六千九百九十瓦を輸入するに及び、  
 前年に比し其増加額三十四万一千六百九十瓦に達せり。加之和蘭の石油會社は  
 同地に油槽を設け更に一層販路の擴張に盡力しつゝ、あれば終にスマトラ油獨占  
 に歸する状態に立到るやも未だ知るべからず。而して輸入合計の減少は價額の  
 騰貴せる結果なるべし(九十七年の相場より二割方の上騰なり)。

麥粉

米利堅粉は内地麥粉に比し其價格低廉なる爲め漸々需要増加し、前年の輸入五万  
 二千〇八十九擔に對し九万九千八百九十八擔にして殆んど其倍額となれり。米







品名	單位	千八百九十年	千八百九十一年	千八百九十二年	千八百九十三年	千八百九十四年	千八百九十五年	千八百九十六年	千八百九十七年	千八百九十八年
油	擔	一〇六三	一八三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三
乾米	擔	一三、四六九	一八、三二八	一三、七五七	一三、七五七	一三、四七九	二〇、〇〇八	一五、六九五	一三、三八六	一、五八六
內國雜貨	擔	三六、七五五	九、九六	四八、九七六	四八、九七六	二九、六六九	二七、六四六	四〇、二二六	四六、三七四	二六、七〇七
荳餅	擔	五〇、二八五	五、四七九	五九、三九五	五九、三九五	八七、六三八	三三、〇四二	五九、五八九	六三、四七一	四八、四三三
荳餅	擔	六二〇、九一三	六、二六二	六二、二四三	六二、二四三	六〇、五七三	一六、二七七	四三、八九一	四六、三九四	五六、二五三
棉花	擔	二五、六八五	一、四〇二	一、四〇二	一、四〇二	一、四〇二	一、四〇二	一、四〇二	一、四〇二	一、四〇二
鹽	擔	一六、一〇二	一、九一八	一、九一八	一、九一八	一、九一八	一、九一八	一、九一八	一、九一八	一、九一八
金針	擔	四、五七七	一、二四三	一、二四三	一、二四三	一、二四三	一、二四三	一、二四三	一、二四三	一、二四三
荳油	擔	三七、七五五	三、〇八五	三、〇八五	三、〇八五	三、〇八五	三、〇八五	三、〇八五	三、〇八五	三、〇八五
荳油	擔	一、一七〇	一、一八四	一、一八四	一、一八四	一、一八四	一、一八四	一、一八四	一、一八四	一、一八四
荳油	擔	二二、一三六	二、一〇八	二、一〇八	二、一〇八	二、一〇八	二、一〇八	二、一〇八	二、一〇八	二、一〇八
荳油	擔	三五、六一九	一、五二四	一、五二四	一、五二四	一、五二四	一、五二四	一、五二四	一、五二四	一、五二四
荳油	擔	四、四七一	六、二二三	六、二二三	六、二二三	六、二二三	六、二二三	六、二二三	六、二二三	六、二二三
荳油	擔	九、二九五	九、〇六七	九、〇六七	九、〇六七	九、〇六七	九、〇六七	九、〇六七	九、〇六七	九、〇六七
荳油	擔	一、二二六	一、四三七	一、四三七	一、四三七	一、四三七	一、四三七	一、四三七	一、四三七	一、四三七
荳油	擔	一八三、七六三	二二〇、六四〇	二七〇、六六七	一三、四一六	一八七、五一四	一五九、二〇〇	一三六、四八五	一九三、〇七	三二六、九八〇

自千八百九十八年重要輸出品比較統計表

品名	單位	千八百九十年	千八百九十一年	千八百九十二年	千八百九十三年	千八百九十四年	千八百九十五年	千八百九十六年	千八百九十七年	千八百九十八年
磚	個	六、四〇、〇三六	七、二六、五三〇	七、二二、一六五	七〇六、二七〇	五、一九、四二五	五〇三、一七五	四、二九、三〇七	三、二六、九八〇	三、二六、九八〇

品名	單位	千八百九十年	千八百九十一年	千八百九十二年	千八百九十三年	千八百九十四年	千八百九十五年	千八百九十六年	千八百九十七年	千八百九十八年
磚	個	三、三二、七九三	三、八五、五七三	四、三三、五七三	三、二九、六三三	四、一六、一三〇	三、四八、三九四	三、四四、〇三三	四、〇七、六八九	一、〇、一二五
粗磁	擔	一八、六七一	二〇、七三三	一七、八四〇	二二、一五〇	二五、五〇六	一八、三八六	二一、八六八	一〇、一二五	一〇、一二五
粗磁	擔	三、八四八	二、四八三	一、八二四	二、九二七	三、六五七	二、五二九	三、五九九	三、五九九	五、一六一
粗磁	擔	二八七、七〇〇	二八二、〇〇〇	二九六、九五〇	二七、一〇〇	三三、八二〇	三三、三五三	二八、一九八〇	二四、四〇〇	二四、四〇〇
粗磁	擔	八、三三三	八、八二六	一〇、六六二	八、八五七	六、二四五	五、四六八	三、四九五	三、五二〇	三、五二〇
粗磁	擔	八、四三五	一、〇六三	七、九四〇	八、八五七	九、八七二	七、九二二	一、八九七	九、五七八	九、五七八
粗磁	擔	一三、九七九	一四、三三三	一四、五〇〇	一四、五〇〇	一四、五〇〇	一四、五〇〇	一四、五〇〇	一四、五〇〇	一四、五〇〇
粗磁	擔	三〇、七七八	三三、〇九二	三六、九二二	三九、一八六	三八、七八四	三八、七八四	三六、九二二	三三、一〇〇	三三、一〇〇
粗磁	擔	五、三〇〇	五、八一〇	五、一〇一	六、四〇八	七、〇六一	八、八五五	五、九四六	五、八四〇	五、八四〇
粗磁	擔	一〇、二七一	九、三三九〇	八、一五〇四	八、七三三	八、八七二	一三、二五六	九、九五四	一〇、三六三	一〇、三六三
粗磁	擔	一六、五二一	九、七三三	五、五五一	一一、〇五四	一一、〇〇三	一三、三六六	九、七二七	九、七二七	九、七二七
粗磁	擔	九二、六五〇	八、四、七三五	六、九、二六八	八、二、三四	九、一、六六一	八、八、五三九	七、〇、八八	七、〇、八八	七、〇、八八
粗磁	擔	二二、九一〇	二六、九五四	二五、一〇八	二九、三三三	一五、八〇七	二八、〇九九	三、二〇一	三、二〇一	三、二〇一
粗磁	擔	七、一八八	八、九三四	八、七四六	一一、四七六	一三、五七三	一五、七三七	一八、七二六	二〇、八四四	二〇、八四四
粗磁	擔	三九五、〇七四	四一五、八〇三	六五一、一五六	六〇五、六八九	五九四、九一七	四七〇、四五五	五四一、三九八	五七〇、五五	五七〇、五五
粗磁	擔	二二、三五二	一五、九六三	一五、九七七	一三、九一六	一三、七六六	一一、〇一三	一一、〇一三	一一、〇一三	一一、〇一三

沿岸貿易 輸出總額九十四萬三千五百八十五兩にして前年より三萬兩を減せり  
 右の中赤砂糖は七千六百三十一擔に増進せしと雖も大麻麻袋(Gunny Bags)紙等は  
 共に衰微せり。又支那各地に對する再輸出額は千八百九十六年に二十五萬二千



豆 米

六百五十三兩、同九十七年には十四萬八千零三十三兩、九十八年には僅々九萬百十  
一兩に陥れり。

内地諸方よりの輸入品中大豆は五十六萬千二百五十三擔に増加せしも、豆餅は四  
十八萬四千四百三十二擔に減少せり。干蝦は一萬九千七百零一擔此價十七万六  
千五百六十六兩、米は只一萬六千四百三十六擔の輸入を見しのみ。小麦は前年に  
十三萬六千四百八十五擔なりしが一萬九千三百〇七擔に劇退せり。是れ蓋し米  
利堅粉輸入増加の結果とす。

船舶の出入が千八百九十八年に於て等しく衰微せしは、惡疫の流行と米西  
戦争の影響之を然らしめしものなり。而して其總數千六百四十四艘百六十三萬  
〇四百二十噸前年には千六百九十三艘百七十二萬七千二百五十一噸なりき。此  
減少たる從來太平洋を横斷して桑港に至る茶の輸入に従事せし船舶の數を減し  
たるか爲にして米國政府の軍用として徵發せるか爲なり此等は上海よりスエス  
運河を経由せる後ニユーヨークに到る便船に積載せしめたり。

流 船

國 別	入 之 部		出 之 部		出 入 合 計	
	船 數	噸 數	船 數	噸 數	船 數	噸 數
英 國	五九〇	六三〇,二七四	四	六二五,三四四	一,一七五	一,二五五,六一八
獨 逸	七〇	八,八七〇	七三	八,八七〇	一四三	一七,七四〇
佛 國	二	六四,〇四〇	二	六五,七四一	四	一三,七八一
蘭 國	二	五三三	二	五三三	四	一〇,四四四
丁 國	一	三三	一	三三	二	二七
西 國	一	一,〇〇〇	一	一,〇〇〇	二	二,〇〇〇
瑞 典	一	五二五	一	五二五	二	一,〇五〇
日 本	一六	一三,四八六	一六	一三,四八六	三二	二六,九七二
支 那	七四	二九,九七三	七四	二九,九七三	一四八	五九,九四六
支 那	七九六	五三,五六〇	七九三	五三,三五八	一,五八九	一〇六,八一八
計		八〇,三〇八		七九,七七七		一六〇,〇八五
英 國	一七	一五,二五七	一六	九,〇六四	三三	一九,三二一
獨 逸	五	四,〇五〇	五	三,一七〇	一〇	七,二二〇
日 本	三	一,三四一	三	一,三四一	六	二,六八二
支 那	二八	一五,七〇四	二七	一三,六三一	五五	二九,三三五
計		二八		二七		七六

第三章 開港場(下)



合	計	八三四	八八〇三	八二〇	八二二,〇〇八	一六四四	一,三三〇,四二〇
---	---	-----	------	-----	---------	------	-----------

金銀

阿片

金銀及阿片 金銀の輸入四百十六萬四千五百七十三兩、輸出三百八十五萬五千三百六十七兩。之を前年と對照する時は、輸入に於て二十一萬九千四百四十八兩を増し、輸出に於て二十七萬七千八百九十三兩を減せり。

外國産阿片姑坭は前年より四百三十七擔を増加せしが、金坭は九百十七擔を減少せり。要するに前年の輸入總額四千三百六擔に對し同年は三千七百九十擔となり五百十六擔を減退せしものなり。斯く阿片の不況なるに似ずモルヒネの輸入は絶へず増加の形勢ありて同年は其最高額に達せり。即ち前年の同品輸入額は九千七十一オンスなりしか、同年は一萬一千八百十オンスに膨張せしは其進運の速なるに驚かざるを得ず。是れ畢竟阿片の習慣を治せんか爲にモルヒネの丸薬を以てするか故なり。去れ共後者の害は前者より數層劇烈なるものなり。其はモルヒネ中に含める *Narcotic alkaloid* の恐るべき有害物なるによる。而もモルヒネ治療の輕便且廉價なるを以て勢ひ斯る習慣を養成するもの少なからざるなり。

阿片の内國産輸入は一千零二十九擔に達し、前年より二百二十九擔を増加せり。之を地方別にせば四川阿片の二分の一に減退せしに關せず、雲南阿片は二倍に進めり。價額は前年に於て二百四十萬弗、同年は二百五十萬八千弗に達せり。

レフォーム派亞米利加傳道會宣教師ドクトル、オット氏は、鼓浪嶼に一寺院を建設し、布教の傍貧民救助醫藥の施療等に熱心盡力し、同文書院は合衆國領事及税關々吏に依り設置せられ、同地の紳商等之を補助せり。同院は支那人の小學校にして教師は主に外國人を聘用し、現在千八百九十八年々末、學生百二十人を有せり。

海峽殖民地眞非其他海外に出稼せる支那人は、多少外國の文明に接觸して歸來するが故童、其兒童を薰陶するには聊か便利あり。

年次	輸入税	輸出税	沿岸貿易税	阿片税	噸税	通過税	阿片釐金	合計
千八百八十九年	一三〇,四四三	一七六,九二六	三九,八八〇	一七七,六六〇	五二,〇〇三	一四,四〇五	四七,三七六	一,一六五,〇八〇
千八百九十年	一四二,九七三	一七三,七三八	四〇,七三一	一七三,五二七	五一,二七一	一一,九〇三	四六二,七四一	一,〇五七,八八七
千八百九十一年	一三一,三二二	一五八,五四三	四一,三九二	一六四,二二九	四四,八四二	一三,一二九	四三七,九四六	九九一,三九五
千八百九十二年	一四三,六七一	一七二,五九三	四五,四二二	一五〇,九九一	四五,二六六	一七,六〇六	四〇二,六四三	九七八,一八六
千八百九十三年	一三二,二二三	一六六,七六五	四六,六九七	一三七,〇二八	五〇,四九八	一四,七四〇	三六五,四〇八	九〇九,三五二

第三章 開港場(下)



國別	輸入税	輸出税	沿岸貿易税	噸税	通過税	阿片釐金	合計
英 國	一三八,五三二	九五,六九一	一八,三六〇	二九,五〇〇	二二,〇七〇	二六九,一九〇	五七,二六四
米 國	二二,二二六	八,八五九	四,四五二	九六三	一,三二四	三二,九五九	六八,七七五
佛 國			一六〇	二〇三	三,八九三		三,九四九
和 國							六五三
丁 蘭							一,七二六
四 班	四四	六五三		三二〇	一,四七三	二,〇九八	一四,二九五
瑞 典	五,九二五	一,九八四	三,六九三	五九五			一四,二二三
日 本	二,七六八	三,三九五	二,九七四	二,三七三	七〇三		一四,二二三
支 那	二六三	二,三,四九四	一,〇七五	一,三四九			三五,一八三
阿 片	一三三,六九一		一五八				一三三,八五〇
合 計	二八二,四三一	一三五,六六〇	四二,〇八四	三五,三三九	三一,〇四一	三〇三,一七七	八三九,七二五
千八百九十四年	一四七,五三五	一八五,一一二	五二,九三三	四五,四七五	一七,五〇三	二五四,〇三二	七九七,一五四
千八百九十五年	一七二,四四七	一六三,六七二	二六,〇六三	五〇,六四三	二二,四三三	一一九,四四四	七〇一,一五〇
千八百九十六年	一七二,二二三	二〇八,一九四	三六,九六八	七二,八五二	二七,二二五	三〇五,四二五	九三六,六三八
千八百九十七年	一六八,二五六	一四六,一五四	四〇,〇七一	三八,一四五	二七,〇二五	三四四,五二八	八九三,六七二
千八百九十八年	一六八,七三九	一三五,六六〇	四一,九二六	三五,三三九	三一,〇四一	三〇三,一七七	八三九,七二五

汕頭港

位置

土地

北清との關係

海外出稼者

總説 汕頭は廣東省潮州府澄海縣の中にあり、千八百五十八年開港せられたるものにして、北緯二十三度六分東經百十三度十五分、香港を去る事百八十哩の地に位置し、地勢處々に山あり内地との交通不便なれ共其附近は概ね平地にして、浙江を渡り北方は二十哩許を過くれは福建廣東兩省の境界に達す。土地豊饒多く穀物を産せり、南岸は丘陵波の如く起伏し其間往々斧削を加へたる如き奇形の巖石を見る。人口三萬五千を有し、居留地は支那人街に對し河の南岸にあり之を岐碌と云ふ。内地の交易には潮州海豐額州等を最も取引の盛んなる地とす、其近傍には夥しく砂糖を産し千八百九十七年に於て五百二十八萬餘兩の巨額に上れり主に北清に輸送す之と同時に北清より多量の大豆粕等を輸入せり、此關係は同地砂糖商の牛莊地方に年々往復する者の頻繁なるに徴して知る可し。同地の茶業は漸年衰頽に趣き千八百九十年に於ては八千四百三擔なりしも、同九十七年に於ては六千五百八十擔に減せり。之に反し阿片の栽培は茶と反比例を爲して進歩の狀歴然たり。亦當港より馬來半島及南洋比律賓群島等の渡航勞働者を出す數は年々七八万を下らず。從て同地と南洋との關係は極めて重要なるものにして、此等出



稼人の爲に供給する支那貨物の價は六七百萬兩に達し、又労働者の爲替に由りて送金する額は大凡そ二百萬兩に及び通計八九百萬兩の銀貨は全く南洋出稼者の關係により收得し、之を以て能く多額の外國品を需要するも尙ほ正貨の流出を防過するに足れり。茲に記臆すべきは該地方に於ける排外熱の盛んなるの一事が、適々以て通商上有益なる特典を獲得する機動たるに至れり。即ち阿片戦争の後英政府か其他の諸港と共に同港の開港を迫るや、清帝同地方民の攘夷熱に遮られ僅に釐金免除の下に開市するを得たり。後更に光緒十一年北清の飢饉に際し、同港民義捐金百萬圓を醸集して之を政府に献納せし爲、朝廷其義氣を嘉し更に從來の釐金免除繼續を許容して今日迄渝る事なし。如斯きは他地方に比類なき處にして其貿易上多大の便宜を蒙る事測り知るべからず。而して當港に於ける外國品の取引は主に香港とし直接外國輸入少なく、輸出は大低支那沿岸各港若くは南洋諸島に向てするのみ。輸出貨物は砂糖を大宗とし、煙草、夏布等之に次く、輸入品には洋布、綿糸、石油、豆、荳餅、米穀等其主なるものなり。同港千八百八十五年の輸入總額は一千九百二十六萬八千五百五十兩にして、五年後の千八百九十年には二千

釐金免除

貿易

五百零七萬九百八十兩の巨額に進めり。  
外國貿易 今同港に於ける貿易の近狀を説くに先ち、既往三年間の輸出比較統計を掲げて讀者の参考に使せん。

		外 國 品		内 國 品	
		千八百九十六年	千八百九十七年	千八百九十八年	
品 名	價 額	合 計	合 計	合 計	品 名
外國及香港ヨリ輸入	八六五〇、一二二	九、四四一、三〇五	一二、五七〇、八四三	一二、五七〇、八四三	外國及香港ヨリ輸入
支那諸港ヨリ輸入	二八九、五二四	二、六五、六一四	二、七四、四五六	二、七四、四五六	支那諸港ヨリ輸入
外國輸入通計	八、九三九、六四六	九、七〇六、九一九	一二、八四五、二九九	一二、八四五、二九九	外國輸入通計
外國及香港へ再輸出	六〇、九一四	三、三、三三三	三、九、一七一	三、九、一七一	外國及香港へ再輸出
支那諸港へ再輸出	一九、七九四	二、〇、七六八	二、三、四七〇	二、三、四七〇	支那諸港へ再輸出
外國再輸出通計	八〇、七〇八	五、四、一〇一	六、二、六四一	六、二、六四一	外國再輸出通計
外國品輸入總計	八、八五三、九三八	九、六五三、九三八	一二、七八三、六五七	一二、七八三、六五七	外國品輸入總計
外國へ輸出	二、三三五、七二九	二、九七六、六三三	三、五九六、〇九三	三、五九六、〇九三	外國へ輸出
支那諸港へ輸出	六五、一九、六八〇	七、三三三、六四五	八、三六八、九七一	八、三六八、九七一	支那諸港へ輸出
通 計	八、八五五、四〇九	一〇、三〇九、二八八	一二、九六五、〇六四	一二、九六五、〇六四	通 計
大 計	二、七五三、〇九六	二、八八三、一三三	三、五九六、〇九三	三、五九六、〇九三	大 計

第三章 開港場(下)



食料品

糖業

外國産及内國産共食料の輸入は、殆んど前年に二倍し二百五十六萬七千兩を下らざる多額に上れり。去れ共千八百九十四、五、六年に比すれば遙かに及はず。即ち同九十五年(最多額年度)には五百二十萬兩に及び僅々其二分一強に過ぎず。

嘗て盛大なりし同地の砂糖精製業は、英國人の企業に屬せしが後遂に中廢するの不得止るに至れり。此地方は廉價なる勞力の供給無限なると原料の生産地に接近せるか故に、其課税にして苛酷ならざる限りは將來有望の事業たるは疑を容れずと雖も、北部市場の開けし今日尙現今の状態を以てせんか、遂に其發達を希望し能はざるは蓋し當然の事理と謂つべし。其他支那人の事業として蒸氣製粉所(Steam Flour mill)製油所(落花生及豆を原料とす)あり。又外人の事業には化學肥料製造所あり。

紡績綿糸

輸入總額千二百五十萬兩前年より凡そ三百万兩を増し、既往五年間に於ける平均額に對し二割五分の増加なり。綿糸は最重要の品にして其價額三百九十万兩に上れり。就中印度産十五萬四千擔を超へ、英國産三萬三千擔、日本産五千七百擔等

綿布

之に次く、今之を四年前に比較する時は印度系五千擔即ち五割英國系八千擔即ち三割の増進を告げ、更に日本系は現今尙僅少の額に過ぎされ共其進歩の割合に至りては敢て前二者に劣らず。即千八百九十六年の最初の輸入には百十八擔に過ぎざりしか、爾後二年間に前記の數量に達せしを見れば蓋し思半に過きん。要するに現今以上の外尙支那内地産之有りと雖も、其將來同地の綿糸市場は、印度系及日本系の何れかにより勝利を博さるゝに至るは燎々たり。支那人は此等の輸入系により各自之を手織として用ゆるに係らず、尙綿布の需要か依然衰へざるの事實は左記の統計明かに之を證明するものなり。

生 金 巾	千八百九十四年	千八百九十八年
晒 金 巾	八五、三〇〇 <sub>原</sub>	一一六、八〇〇 <sub>原</sub>
天 竺 巾	八五、七〇〇	二四三、〇〇〇
	四〇、五〇〇	五七、四〇〇

棉花、麥粉、米、燐寸及び石炭等の輸入も亦頗る盛にして日本炭は數年前と大差なきも、東京炭は千八百九十五年に初めて輸入せし者なれ共、同九十八年には二万一千



煤 寸  
石 油  
米  
礦 物

四百噸に上進せり(九十五年の輸入額は五千四噸に過ぎず)。尙印度綿花は千八百九十四五年頃迄五六百擔を超へざりしが、九十七年には三千四百擔となり次て九十八年の統計は一萬三千擔の増進を示せり。燐寸は全然日本製にして同年内の輸入は九十二萬二千哥(過去五年間の平均額に超過せる事十八萬九千哥なりき)。然るに石油は前年より百二十萬瓦の減退を告げり、是れ將た過去五年間の輸入に比すれば第二の多額なりき。更に其産出地に基き細別せば第一スマトラ油は百九十萬瓦に垂んとし、露國油は去る五年の平均以下に陥り、米國油は全然市場より其影を収めたるの觀あり。其他毛織物は五萬兩、米は暹羅及香港より四十一萬八千擔を輸入し過る五年間の最多額なりき。而して錫及馬口鐵(Tin, Stabs and plates)の輸入は驚く可き劇進を爲し一萬五千擔より三十二萬八千擔に達せり。輸出に於て千八百九十七年に比する時は、同九十八年の進歩は大約七十萬兩を下らず。更に九十四年に遡り之と比較せんか、百七十七萬八千兩即ち七割六分の膨張を遂けたり。而して其主なる品名は豆、豆餅、陶磁器、織物、扇子、干魚、鹹魚、米、茄粉、Otafo Flour、橙、時辰香(Toss Stick)、果物、落花生、大麻、酒、獸皮、洋藍、糖蜜、油(主に落花生油)、紙

蔬菜、砂糖、煙草等なり又雞卵(Eggs)五百萬個、七萬九千兩、白砂糖は香港に於けるツヤバ糖の爲に市場より驅逐せらるゝに至れり、反之赤砂糖は前年の千百擔より二萬二千擔に躍進せり。又同年中諸外國に輸出せし茶の數量左の如し。

製茶輸出統計表 (千八百九十八年末調査)

仕 向 地	紅 茶		綠 茶		合 計
	烏 龍	龍 井	鳳 凰	春 茶	
香 港	四四〇	六二	六二	五〇一	五〇一
新 嘉 坡 及 海 峽 殖 民 地	二七三	三六九	三六九	六四一	六四一
交 趾 支 那	三、七〇八	一	一	三、七〇八	三、七〇八
暹 羅	一、六七一	二〇	一	一、六九一	一、六九一
外 國 輸 出 合 計	六、〇九一	四五一	九	六、五四一	六、五四一
支 那 諸 港 輸 出 合 計	二	九	九	二	二
總 計	六、一〇三	四六〇	一八	六、五六三	六、五六三

再輸出額は千八百九十七年に三萬二千兩、同九十八年に三萬九千兩を出せり。沿岸貿易 輸出總額八百三十六萬九千兩にして前年より百萬兩を増加し、尙其九



十四年に比すれば二倍に達せり。就中砂糖の輸出は百四十三萬三千擔此價六百萬兩以上に及び最も顯著なるものとす。即ち赤砂糖は其輸出の五年平均額を超過する事十萬六千擔(一割六分)白砂糖は同九萬六千擔(一割)の増加なり。

自千八百九十六年製糖輸出統計表

仕向地	赤		白	
	千八百九十六年	千八百九十七年	千八百九十六年	千八百九十七年
牛莊	六,七八四	七,五五一	三,三三三	一八,三四〇
天津	九一,九四五	九二,五五〇	八六,七三四	五五,三九一
芝罘	五九,九三三	五一,六六六	三六,三八三	二五,九〇一
漢口	一三〇,四三九	一四九,四六四	一五五,九五三	一七六,一〇六
九江	三三三	二〇六	八一五	六四七
蕪湖	一七,七〇〇	二四,二二三	一〇〇,一五八	一六,三四〇
鎮江	二八,七五四	二七,九四三	二〇五,九一二	二二六,五八八
寧波				三三六,五六一
溫州				二二九,九二
福州				六三
廣東				六三
合計	七〇,三三二	七〇,四二七	六二五,八五五	六二九,七八〇

煙絲は二万三千擔此價七十七万九千兩、夏布四十七萬二千兩、土布四十六萬八千兩、紙二十四萬八千兩、茄粉四万二千兩此他橙の輸出も稍増加せし如くなれ其價顯著しからず。  
輸入は千八百九十四年に比すれば幾分減退の状を見るも去れども之を同九十五六七の三年に比すれば明に増進せり。米は千八百九十四年と同九十八年と比較するに二百萬兩を減せり。豆及豆餅は兩三年甚しき變動を顯さず。

自千八百八十八年豆餅及落花生輸入數量統計表

年次	餅				豆			
	牛莊	芝罘	上海	其他諸港	牛莊	芝罘	上海	其他諸港
千八百八十九年	一三三,二六〇	一三,七〇九	三九,七〇九	七六	五,六四九	三,一〇〇	一七,九〇九	一〇〇,六六〇
千八百九十年	一七三,六六〇	八,三九六	三〇,六〇二	七六	六,六二九	一,九〇〇	一七,九〇九	七六,〇〇〇
千八百九十一年	二〇八,六三〇	八,八八〇	三三,一三〇	三二九	一〇,八七五	一,六〇〇	九,三三三	一七,一三三
合計	七〇,三三二	七〇,四二七	七九,九二八	六二五,八五五	六二九,七八〇	六六七,四六五		



千八百九十二年	一、三九、七六八	八、七、七三三	三、三、三三三	一、四、九七五	一、四、九七五	八、八、六八八	九、九、〇四八
千八百九十三年	一、六、八四九	四、三、三三三	三、三、三三三	一、四、九七五	一、四、九七五	八、八、六八八	九、九、〇四八
千八百九十四年	一、三、六〇〇	三、三、三三三	三、三、三三三	一、四、九七五	一、四、九七五	八、八、六八八	九、九、〇四八
千八百九十五年	二、五、七六六	三、三、三三三	三、三、三三三	一、四、九七五	一、四、九七五	八、八、六八八	九、九、〇四八
千八百九十六年	七、九、三六八	三、三、三三三	三、三、三三三	一、四、九七五	一、四、九七五	八、八、六八八	九、九、〇四八
千八百九十七年	一、〇、八、八七七	三、三、三三三	三、三、三三三	一、四、九七五	一、四、九七五	八、八、六八八	九、九、〇四八
千八百九十八年	一、二、九、三三三	三、三、三三三	三、三、三三三	一、四、九七五	一、四、九七五	八、八、六八八	九、九、〇四八

\* 香港ヨリ輸入セル二百二十擔ヲ含ム + 香港新嘉坡及臺灣ヨリ輸入セル六百六十四擔ヲ含ム  
 大麻は五年平均額に超過する事八十一萬二千兩に及べり。此他尙支那綿布絹織物等又少なからず。

船舶 帆船は皆無にして獨り汽船は總て千七百三十六隻百七十萬八百三十七噸、内入港船八百九十六隻出港船八百六十七隻にして英國船其八割三分六七を占め、獨逸船八分二九支那船六分三四其他一分六一。日本汽船は商船會社所屬船の僅に出入せるあるのみ。

國別	入之部		出之部		出入合計
	船數	噸數	船數	噸數	

金銀

金銀 千八百九十八年には輸入に於て二百萬兩輸出に於て三百萬兩而して其輸出超過は同地方多數の海外出稼人の歸國せるに際し其蓄財を更に香港其他の外國銀行に委託せるに基くものなり。又同地方にて銅貨缺乏の爲め惹起せる變動は大に注目すべきものなり。千八百八十九年より同九十六年に至る數年間銅貨は洋銀一弗(一弗は零兩六五五)に對し九百八十五文乃至一貫三十文を普通相場とせしか、同九十七年には八百七十文次て九十八年には八百五十文に暴騰せり。これと同時に日用必需品の價格は著しく昂騰し銀の購買力は金銅に對し勢ひ低落を免れさりき。

英 國	七、二、八	七、三、六、七〇六	七、二、六	七、三、四、五、五七	一、四、五、四	一、四、七、一、二六三
獨 逸	七、二	六、八、七、四〇	七、二	六、八、七、四八	一、四、四	一、三、七、四、九六
丁 那	三	一、〇、一〇	三	一、〇、一〇	四	二、〇、二〇
瑞 典	六	五、〇、〇六	六	五、〇、〇六	一二	一、〇、〇、一二
日 本	六	六、七、三三	六	六、七、三三	一二	一、三、四、四四
支 那	五、五	五、三、二、九九	五、五	五、三、二、九九	一一〇	一、〇、六、五、九八
合 計	八、六、九	八、九、一、四、九三	八、六、七	八、六、九、三、四四	一、七、三、六	一、七、四、〇、八三七

阿片

阿片 外國產阿片は千八百九十四年より同九十六年迄常に減退せしが(即九十四



二万四千八百兩を減縮し、漸く其九十七年に一万四千五百兩九十八年に二万四千七百兩を増加するに至り。之に比例して内地産は其販路を擴張せり。今過去五年間の輸入を擧ぐれば九十四年に五十四擔、九十五年は百五十三擔、九十六年に三百十六擔、九十七年に二百四十四擔、九十八年に四百八十九擔とはなれり。勿論此計算中に包含せざる多額の存するは辨を俟たず、何者此等は他の水路により密輸せらるゝを以てなり。噸税は開港當時に二倍し其他通過税釐金税等統計には明瞭ならざれとも、多少増進せしは掩ふ可からざる事實とす。

年次	輸入税	輸出税	沿岸貿易税	阿片税	噸税	通過税	阿片釐金	合計
千八百八十九年	一六六,九九三	三五三,四〇二	一〇八,九九三	二二二,六四九	一九,七六〇		五七六,〇六四	一,四二八,八六四
千八百九十年	二〇五,六五三	三八〇,〇〇五	一一一,九六〇	三三三,七七三	二二,三三〇		六二〇,四四〇	一,五七二,九八一
千八百九十一年	二二四,五九四	四〇三,二二八	一三三,六七九	二二六,九一三	二五,五八六		六三二,六六八	一,六四四,五七三
千八百九十二年	二〇五,九〇三	三三〇,四五六	一一九,九四八	二二四,四四〇	二四,二一九		五七一,五八八	一,四六六,五五六
千八百九十三年	一八二,八二〇	三二〇,九二七	一〇七,〇六一	一九二,三五九	二七,八八八		五二〇,〇三三	一,三二九,九八三
千八百九十四年	二〇二,三三六	三二五,六三三	一一二,二六〇	一七五,七三三	二六,九七〇		四六三,二六七	一,三〇二,一九三
千八百九十五年	二五六,四一一	三八五,七二七	六八,二九	二二二,五七〇	二九,三〇〇		三二九,五三三	一,一九二,七四二
千八百九十六年	二二〇,四五二	四〇八,七二〇	九六,九六一	一一二,七九一	二八,〇〇四		二九四,四三九	一,一六六,八九一

廣東港

國別	輸入税	輸出税	沿岸貿易税	噸税	通過税	阿片釐金	合計
英國	二四八,三九三	三七八,六九五	八八,三八一	二四,二五	五,五六四	三七〇,三〇〇	一,二一五,一九一
獨逸	四〇,三〇五	二二,五〇九	五,四五三	三〇,五〇〇	七八四	三四,四三三	一〇五,二四〇
丁國	二五						二五
瑞典	三六九	八六	一,五九八	一〇,八七			三,一四一
那威	一,三七八	七九					一,四五七
日本	一四七	七四〇,一三三	二,三九三	一九四三	二二	九六	六七,六一六
支那	一五二,六〇一		四四三	三〇,二〇六	六,三六八	四〇四,二七〇	一,五二〇,四四五
阿片		四七四,三八四	一一七,二七〇				一,四七四,七二〇
合計	四四二,二二一	四七四,三八四	一一七,二七〇	三〇,二〇六	六,三六八	四〇四,二七〇	一,四七四,七二〇

位置及人口

人情

總説 廣東は廣東省廣州府南海縣に屬す、省城の有る處にして俗に羊城と云ふ。東經百十三度十四分北緯二十三度七分、人口二百五十萬支那南地の一大繁華熱鬧の地たり、一般の人情鋭敏にして困難を厭はず、頗る奇計に富み商工業を經營するに最も恰適の性格を有し、能く此二方面に於て他地方人を凌駕せり。其地海を距



年に五千八百擔より九十六年に三千七百擔に陥れり、同九十七八年の兩年には略此類勢を挽回するに至れり。是れ内地産不作の影響にして相場は概ね二割五分方騰貴せり。白皮は九十四五年迄は第一位に居りしか、九十六年には第二位に落ち爾來漸衰して現今公坭とは二と三の合前者は一千六百擔後者は二千四百擔となれり。姑坭は以上の二種に譲れども尙九百擔以上に及べり。而して同年中外國産の輸入總額は二百八十萬兩以上に達せりと云ふ。

内國産阿片は前年に二倍し九十四年に九倍せり。即ち五十四擔より四百八十九擔に劇増せり。

阿片輸出及再輸出統計表 (千八百九十八年末調査)

仕向地	入					合計
	白皮	公坭	姑坭	金坭	合計	
香港	二、五三三	九、一七六	二、六三三	二、六九六	一、三六〇	二、〇〇八
上海	一、二八三	二、六三三	二、六九六	一、三六〇	一、三六〇	二、〇〇八
合計	三、八一六	一、七三九	五、三二九	四、〇五六	二、七二〇	四、〇〇六
再輸出	二、五三三	九、一七六	二、六三三	二、六九六	一、三六〇	二、〇〇八

香港	1,000	1,000
----	-------	-------

自千八百九十四年阿片輸入及再輸入比較表

種別	千八百九十四年		千八百九十五年		千八百九十六年		千八百九十七年		千八百九十八年	
	再輸出額	總輸入額	再輸出額	總輸入額	再輸出額	總輸入額	再輸出額	總輸入額	再輸出額	總輸入額
白皮	二、六三三	二、六三三	二、〇七三	二、〇七三	一、四七四	一、四七四	一、三六〇	一、三六〇	一、五八二	一、五八二
公坭	二、四四〇	二、四四〇	一、五三九	一、五三九	一、七五七	一、七五七	二、〇三三	二、〇三三	二、三九九	二、三九九
姑坭	六〇四	六〇四	五二六	五二六	四〇二	四〇二	六五二	六五二	九三九	九三九
金坭	九九	九九	三〇	三〇	一〇	一〇	二〇四	二〇四	一三六	一三六
總輸入額	五、七九二	五、七九二	四、一三二	四、一三二	三、七四三	三、七四三	四、二二八	四、二二八	五、〇五三	五、〇五三
再輸出額	二	二	三	三	一	一	四、二二八	四、二二八	五、〇五三	五、〇五三
純輸入額	五、七九〇	五、七九〇	四、一二九	四、一二九	三、七四二	三、七四二	四、二二八	四、二二八	五、〇五二	五、〇五二

收入 千八百九十八年に於ける貿易上の諸稅收入は前年に比し十九萬兩の増加を告げ(過去十年間に於て第三位を占む)。輸出入稅は未曾有の多額に及び、其内輸入稅は前年より三万七千兩(十年間の最多額を超過せる事三万四千兩)輸出稅は三万八千兩の増加なりき。前者と全く異り阿片稅は千八百九十一年より逐年平均



二万四千八百兩を減縮し、漸く其九十七年に一万四千五百兩九十八年に二万四千七百兩を増加するに至り。之に比例して内地産は其販路を擴張せり。今過去五年間の輸入を擧ぐれば九十四年に五十四擔、九十五年に百五十三擔、九十六年に三百十六擔、九十七年に二百四十四擔、九十八年に四百八十九擔とはなれり。勿論此計算中に包含せざる多額の存するは辨を俟たず、何者此等は他の水路により密輸せらるゝを以てなり。噸税は開港當時に二倍し其他通過税釐金税等統計には明瞭ならざれとも、多少増進せしは掩ふ可からざる事實とす。

年次	輸入税	輸出税	沿岸貿易税	阿片税	噸税	通過税	阿片釐金	合計
千八百八十九年	一六六、九九三	三五三、四〇二	一〇八、九九三	二二、六四九	一九、七六〇		五七、〇六四	一、四二八、八六四
千八百九十年	二〇五、六五三	三八〇、〇三五	一一、九六〇	三三、七七一	二二、三三〇		六二、〇四〇	一、五七二、九九一
千八百九十一年	二二四、五九四	四〇三、二二八	三三、六七九	三三、九一三	二五、五八六		六三、六六八	一、六四四、五七三
千八百九十二年	二〇五、九〇三	三三〇、四五六	一九、九四八	二二、四四〇	二四、二一九		五七、五八八	一、四六六、五五六
千八百九十三年	一八二、八二〇	三〇、九二七	一〇七、〇六一	一九、二五九	二七、八八八		五〇、〇三三	一、三三九、九八二
千八百九十四年	二〇一、三三六	三五、六三三	一一、二六〇	一七、五七五	二六、九七〇		四六、三六七	一、三〇二、一九三
千八百九十五年	二五六、四一一	三八五、七七	六八、二一九	二二、五七〇	二九、三〇〇		三九、五三三	一、九二、七四一
千八百九十六年	二二〇、四五一	四〇八、七〇〇	九六、九六一	一一、七九一	二八、〇〇四	二五	二九、四三九	一、六六、八九一

國別	輸入税	輸出税	沿岸貿易税	噸税	通過税	阿片釐金	合計
英國	二四八、三九三	三七八、六九五	八八、三八一	二四、二五五	五、五六四	三七〇、〇三〇	一、二一五、一九一
獨逸	四〇、〇三五	二一、五〇九	五、四五三	三〇、五〇〇	七八四	三四、四三三	一〇五、二四〇
丁國	二五						二五
瑞典	三六九	八六	一、五九八	一、〇八七			三、三四一
日那	一、三七八	七九					一、四五七
支那	一四七	七四〇、三三	二、三九三	一、九四三	二二	九六	六七、六一六
阿片	一五一、六〇一		四四三	四四三			一五二、〇四五
合計	四四二、二二二	四七四、三八四	一七、二七〇	三〇、一〇六	六、三六八	四〇四、二七〇	一、四七四、七二〇

### 廣東港

位置及人口

人情

總説 廣東は廣東省廣州府南海縣に屬す、省城の有る處にして俗に羊城と云ふ。東經百十三度十四分北緯二十三度七分、人口二百五十萬支那南地の一大繁華熱關の地たり、一般の人情鋭敏にして困難を厭はず、頗る奇計に富み商工業を經營するに最も恰適の性格を有し、能く此二方面に於て他地方人を凌駕せり。其地海を距



商工業

る八十哩に及べとも、附近を奔流せる西河は能く同地をして内外貿易の焦點たるに負かざらしむ、西河の沿岸には梧州三水の商業地あり、三十二年清國自ら開港す。廣東は其の位置南方に偏し、歐米人の來往に便なりし爲め支那最古の互市場に於て、上海其他の貿易港の如く僅々十數年間に於て劇に繁榮を致せし者に非ず。去れは未だ支那沿岸中多數の開港場を有せざる當時獨り覇を天下に稱へたり。然れ共爾來其近方に香港の自由港を始めとし北海三水梧州の通商埠頭を生ずるに至り、尙上海の開港せられてより自然商業上の中心點たる地位を奪はれしと雖も、尙南清の要港として將た工業の隆盛地として見るべきもの少なからず。特に廣東の工業は上海の製造業か歐風の新式なるに對し比較的支那固有のもの多しと雖も、同地人の模倣に長せる性質より亦泰西技術の消化力を有するを以て、日進の潮流に棹して更に前者に遜色あるを見ず。

貿易

輸出貨物の主なるものは生糸、茶、綿布を大宗とし、砂糖、糖、藤、陶器、烟草、蜜餞及紙、爆竹等にして輸入品には米、麥、豆、棉花、綿糸、金巾、阿片、金屬、水産物等とす。千八百八十五年の貿易は外國品輸入五百五十萬零々五十一兩、内國品千零二十七萬六千九百七十八兩に上れり。

外國貿易 從來外國船の通航を禁したりし西河が去る千八百九十七年に開放せられしは、同地方の貿易に一新生面を開展するの動因たるべきは概ね豫測し難からず。千八百九十八年に安南暹羅米の揚子江沿岸地方に輸入せられし額は、平年より著しく減少せし結果、米價の騰貴は近年稀に見る處なりき。特に各地に於ける防穀例は一層此傾向を甚しからしめ中等以下の人民は少からず困難を極めたり。

綿布

重要輸入品中金巾及天竺木綿は甚しく減退せり。蓋し其原因は梧州三水等と競争せざるを得ざるの事情となれるに基くものにして、此等の地方が香港より直接取引を行ふに至れる結果とす。而して此直輸に因りて得る利益は釐金の徴収を免かれ運搬費用を減するにありて、從來シャンクの運搬に更ふるに涼船を以てするの傾きを生ぜり。去れば將來涼船とシャンク運賃の高低は直に以て其釐金の収入の多寡によりて之を察するを得べきなり。石油中スマトラ油の輸入は四百

石油



万瓦に増進し、露國油は百四十万瓦に米國油は百万瓦に何れも減退し、印度綿糸の  
 漁船によりて輸入せらるゝ額は十二万七千擔に陥りしも、シャングの輸入は依然  
 衰へず。是れ蓋しシャングの運搬には釐金局の無賃通行を許可せらるゝか故に、  
 漁船の場合に於けるか如く條約上の通過税を徴收せらるゝの患ひなきを以てな  
 り。

自千八百八十九年重要輸入品價額比較表

品名	單位	千八百八十九年	千八百九十年	千八百九十一年	千八百九十二年	千八百九十三年	千八百九十四年	千八百九十五年	千八百九十六年	千八百九十七年	千八百九十八年
阿片	擔	二,七〇〇	二,七〇〇	二,七〇〇	二,七〇〇	二,七〇〇	二,七〇〇	二,七〇〇	二,七〇〇	二,七〇〇	二,七〇〇
白皮	擔	六,八三三	七,〇〇〇	七,〇〇〇	七,〇〇〇	七,〇〇〇	七,〇〇〇	七,〇〇〇	七,〇〇〇	七,〇〇〇	七,〇〇〇
生金	段	四,九六六	四,九六六	四,九六六	四,九六六	四,九六六	四,九六六	四,九六六	四,九六六	四,九六六	四,九六六
晒金	段	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇
色金	段	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇
紋金	段	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇
天竺木綿	段	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇
麻布(英國)	段	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇
全(米國)	段	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇

第三章 開港場(下)

品名	單位	千八百八十九年	千八百九十年	千八百九十一年	千八百九十二年	千八百九十三年	千八百九十四年	千八百九十五年	千八百九十六年	千八百九十七年	千八百九十八年
更紗	擔	六,〇〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇
天鵝絨	擔	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇
細麻布	擔	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇
及手布	擔	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇
浴布	擔	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇
綿布(日本)	擔	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇
綿糸(英國)	擔	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇
全(印度)	擔	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇
吳呂(英國)	擔	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇
全(和蘭)	擔	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇
綾糸	擔	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇
羅世伊多	擔	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇
スパン	擔	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇
トライプ	擔	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇
羅	擔	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇
ロスト	擔	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇
毛	擔	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇
鐵棒及鐵釘	擔	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇
鉛塊	擔	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇
錫	擔	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇
荳及花生	擔	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇
水銀	擔	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇



生糸  
地蓆

生糸は需要の増加せると價格の昂上と相待て同品の輸出を増加せしめ、只爲替の動搖の爲め適々取引商の困難を感ずる事なきに非りしも概して好氣配なりき。地蓆輸出は千八百八十九年に十七万五千卷同九十二年に三十萬卷同九十六年に五十萬卷に躍進せしが九十八年に三十三万七千卷に陥りしは課税の重きか上に原料品の騰貴等其主なる原因とす。

品名	千八百八十九年	千八百九十年	千八百九十一年	千八百九十二年	千八百九十三年	千八百九十四年	千八百九十五年	千八百九十六年	千八百九十七年	千八百九十八年
生糸	1,270,000	1,350,000	1,400,000	1,450,000	1,500,000	1,550,000	1,600,000	1,650,000	1,700,000	1,750,000
米	1,200,000	1,250,000	1,300,000	1,350,000	1,400,000	1,450,000	1,500,000	1,550,000	1,600,000	1,650,000
荳油	1,100,000	1,150,000	1,200,000	1,250,000	1,300,000	1,350,000	1,400,000	1,450,000	1,500,000	1,550,000
石油	1,000,000	1,050,000	1,100,000	1,150,000	1,200,000	1,250,000	1,300,000	1,350,000	1,400,000	1,450,000
燐寸	900,000	950,000	1,000,000	1,050,000	1,100,000	1,150,000	1,200,000	1,250,000	1,300,000	1,350,000
亞仁林染料	800,000	850,000	900,000	950,000	1,000,000	1,050,000	1,100,000	1,150,000	1,200,000	1,250,000
全(内國)	700,000	750,000	800,000	850,000	900,000	950,000	1,000,000	1,050,000	1,100,000	1,150,000
棉花(外國)	600,000	650,000	700,000	750,000	800,000	850,000	900,000	950,000	1,000,000	1,050,000
土布	500,000	550,000	600,000	650,000	700,000	750,000	800,000	850,000	900,000	950,000
壹	400,000	450,000	500,000	550,000	600,000	650,000	700,000	750,000	800,000	850,000

自千八百八十八年重要輸出品價額比較表

品名	千八百八十九年	千八百九十年	千八百九十一年	千八百九十二年	千八百九十三年	千八百九十四年	千八百九十五年	千八百九十六年	千八百九十七年	千八百九十八年
銅鈕	1,200,000	1,250,000	1,300,000	1,350,000	1,400,000	1,450,000	1,500,000	1,550,000	1,600,000	1,650,000
竹竿	1,100,000	1,150,000	1,200,000	1,250,000	1,300,000	1,350,000	1,400,000	1,450,000	1,500,000	1,550,000
磁器	1,000,000	1,050,000	1,100,000	1,150,000	1,200,000	1,250,000	1,300,000	1,350,000	1,400,000	1,450,000
扇子	900,000	950,000	1,000,000	1,050,000	1,100,000	1,150,000	1,200,000	1,250,000	1,300,000	1,350,000
夏布	800,000	850,000	900,000	950,000	1,000,000	1,050,000	1,100,000	1,150,000	1,200,000	1,250,000
毛髮	700,000	750,000	800,000	850,000	900,000	950,000	1,000,000	1,050,000	1,100,000	1,150,000
漆器	600,000	650,000	700,000	750,000	800,000	850,000	900,000	950,000	1,000,000	1,050,000
花子	500,000	550,000	600,000	650,000	700,000	750,000	800,000	850,000	900,000	950,000
紙糖	400,000	450,000	500,000	550,000	600,000	650,000	700,000	750,000	800,000	850,000
密糖	300,000	350,000	400,000	450,000	500,000	550,000	600,000	650,000	700,000	750,000
廣東粗絲	200,000	250,000	300,000	350,000	400,000	450,000	500,000	550,000	600,000	650,000
廣東粗絲	100,000	150,000	200,000	250,000	300,000	350,000	400,000	450,000	500,000	550,000
層米	50,000	55,000	60,000	65,000	70,000	75,000	80,000	85,000	90,000	95,000



緞	正頭	七三三八	六二〇七	六二四六	六六三二	五八七五	六四八五	六六六六	七二二三	六六六六	五七〇三
緞	紐	三九七	五九二	四二一	三七七	四二五	五九五	三九七	三九七	四二五	四二五
砂	糖	二七六六	一七六〇	二六三六	六六四八	八二〇〇	六二七二	一三三三	一六八三	一〇三三	一六二〇
磚	茶	七七七五	六三三三	二五六四	六五〇三	二四〇〇	二四〇〇	一〇三三	一〇三三	一〇三三	一〇三三
綠	茶	一一〇	一一	九	一九	五	二四	六	三	三	一一〇

一一六

沿岸貿易 米麥輸入の減退せるに反し、大豆の輸入は二百萬兩を超過せり。落花生は二百七十萬兩以上に出で、落花生油も亦二百萬兩以上に及べり。茲に特記すべきは同地方に於ける蒸氣製粉所か、北清より原料を輸入して米利堅粉と競争するに至りし一事なり。去る三年間に勃興せし製粉所は六個所ありて、各社共一萬弗内外の資本を以てし日々五十擔乃至百擔の産出を爲すと云ふ。

船舶 千八百九十八年三月西河の外國貿易に開放せられてより、各國船舶の之か航運に従事する者頗る多數となれり。從來支那人の營業には彼の 船 船を用ひ旅客貨物等を運搬せり而して漁船二艘、船三十艘制限せられ航路は全く此等船舶の獨占する處なりき。尙當港出入船舶の詳況は左の如し

漁 船

國 別	入 之 部		出 之 部		出 入 合 計	
	船 數	噸 數	船 數	噸 數	船 數	噸 數
英 國	一、七六三	一、四六九、九六一	一、七六三	一、四六七、六七九	三、五二六	二、九三七、六四〇
獨 立 國	八二	八三、四九三	八二	八三、四九三	一六四	一六六、九八六
瑞 典	三九	三三、三三八	三九	三四、一六七	七七	六七、四九五
日 本	三	八三六	二	八三六	一	一六七二
葡 萄 牙	一	一一二	一	九五	二	二〇七
支 那	三、五二四	二、三三六、九六五	三、四八六	二、三三五、八九八	七、〇一〇	四、〇八二、八六三
通 計	三、五二四	二、三三六、九六五	三、四八六	二、三三五、八九八	七、〇一〇	四、〇八二、八六三
英 國	八七	八、七三八	八六	八、六一二	一七三	一七、三五〇
獨 立 國	一八	一、七六四	一八	一、七六四	三六	三、五二八
支 那	四〇	三、七七五	四〇	三、七七五	八〇	七、五五〇
支 那	一	一三九	一	一三九	二	二七六
支 那	一四六	一四、四一五	一四五	一四、二八九	二九一	二八、七〇四
通 計	三、六六〇	一、八三九、四〇三	三、六三一	一、八三六、七六三	七、二九一	三、六七六、一六七

收入 千八百九十八年の收入は前年に比し稍減少したりと雖も爾餘の年に對し大差なきを得たり。阿片税及釐金は幾分進歩せるものあり。輸出税は略前年と



等しく輸入税のみは稍減退せり通過税は稀有の増収なり。

年次	輸入税	輸出税	沿岸貿易税	阿片税	噸税	通過税	阿片釐金	合計
千八百八十九年	一九三、五〇二	七四六、三五七	九三、三二九	三六八、一七〇	一五、六二五	三、七六四	九八一、七八七	二、三九八、七三二
千八百九十年	二一七、四二〇	六九五、八四〇	九七、六九七	三五三、五九六	一八、二七五	三、七六四	九四二、九一四	二、三三九、四九九
千八百九十一年	二六六、〇四二	六三四、二八三	一一三、九二七	三八三、五四二	三三、九八四	三五、六三四	一、〇二二、七四四	二、四八〇、一五九
千八百九十二年	二七二、六九七	七三二、七〇一	一二七、九四六	三二四、五九三	二〇、八九二	八、一七六	八六五、五八三	二、三三二、五九〇
千八百九十三年	二六二、五六五	六〇〇、四四五	一一八、三四九	二七六、四六〇	一九、九八一	二	七三七、一〇九	二、〇三三、九三三
千八百九十四年	二八九、三三四	五六八、九六六	一三四、八七四	二二九、〇七二	二七、七三三	二七	六二〇、七三一	一、七五〇、三七八
千八百九十五年	三三八、一六一	六三〇、〇八〇	九三、七五〇	一八〇、一七五	二七、九四二	一一、六六	四八〇、四六八	一、七五〇、三七八
千八百九十六年	二六〇、二五五	六六〇、五三三	一一二、五七九	一六〇、〇五二	二七、九四二	一一、六六	四八〇、四六八	一、六四九、三二六
千八百九十七年	三五三、四六三	七二〇、二七三	一四〇、三六〇	一六七、七四六	三三、六六六	三三、九〇一	四四六、一〇三	一、八八五、五三三
千八百九十八年	二七六、八〇一	七二六、六八九	一七七、一七〇	一七六、四七三	二五、〇四〇	三五、〇三四	四七〇、五九五	一、八七七、八〇五

國別	輸入税	輸出税	沿岸貿易税	噸税	通過税	阿片釐金	合計
英國	二四六、二七三	六二〇、四二五	六九、四一三	一五、六八〇	二七、八四八	四七〇、四〇八	一、四五〇、〇五〇
米國	四〇、七八	一	一	一三一	七、〇一一	一	四二二
獨逸	一七、九六一	二二、〇九四	四〇、五五六	二、三三九	一	一	八八九五三
瑞典	二、七三八	五、九九一	一、五五六	一、五二二	一	一	二、八〇六

日支阿葡合計	噸税	通過税	阿片釐金	合計
日本	六九、一七六	五、〇二七	三三四	九五〇
支那	一七六、四七二	五、二二二	一八八	一、三三二、七三三
阿片	一七六、四七二	一	一	一七六、四三七
葡國	四五三、二七四	一七七、一七〇	二五、〇四〇	一、八七七、八〇五

品名	千八百九十六年		千八百九十七年		千八百九十八年	
	價額	合計	價額	合計	價額	合計
外國及香港ヨリ輸入	一一、五七七	一一、三〇八、四二六	一一、七二九、九七五	一一、九七〇、五〇二	一一、九七〇、五〇二	一一、九七〇、五〇二
支那諸港ヨリ輸入	一五〇、六六九	一〇七、三二六	一〇七、三二六	一〇二、九三四	一〇二、九三四	一〇二、九三四
外國輸入通計	一一六、一四六	一一、三〇八、四二六	一一、八四五	一一、三〇八、四二六	一一、三〇八、四二六	一一、三〇八、四二六
外國及香港へ再輸出	八六、四九四	五五、五五〇	五五、五五〇	五五、五五〇	五五、五五〇	五五、五五〇
支那諸港へ再輸出	一〇九、三四〇	六七、一六五	六七、一六五	七七、四八三	七七、四八三	七七、四八三
外國品輸出通計	一九九、八三四	一二三、七七〇、三六六	一二三、七七〇、三六六	一二三、七七〇、三六六	一二三、七七〇、三六六	一二三、七七〇、三六六
外國品輸入總計	一一、三〇八、四二六	一一、三〇八、四二六	一一、三〇八、四二六	一一、三〇八、四二六	一一、三〇八、四二六	一一、三〇八、四二六
内品	一七〇、七五二、二八	一九、六四五、八三三	一九、六四五、八三三	一九、六四五、八三三	一九、六四五、八三三	一九、六四五、八三三
外國へ輸出	三、三八一、三三九	三、二五三、八三八	三、二五三、八三八	三、二五三、八三八	三、二五三、八三八	三、二五三、八三八
支那諸港へ輸出	三、三八一、三三九	三、二五三、八三八	三、二五三、八三八	三、二五三、八三八	三、二五三、八三八	三、二五三、八三八
通計	二〇、四五六、五三三	二二、八九九、六七一	二二、八九九、六七一	二二、八九九、六七一	二二、八九九、六七一	二二、八九九、六七一

第三章 開港場(下)



大計	再輸出	輸出	總計
46,683,548	4,200,343	49,883,891	49,883,891
50,291,595		49,554,973	49,941,296

### 第四章 貿易品

南清と英國

近く六七十年間に於ける支那貿易の發達は英國が阿片戦争により清國の沿岸に商權を布殖せるに基因し此戦争の結果英國は莫大の償金に加へて香港の一島を割取し同時に廣東廈門福州上海及寧波の五港を開きて其通商互市場に充てしめ他年英國が支那貿易の中堅たる基礎は全く之を當時に据へたるものにして換言せば現今東洋貿易の羈主となる可き其端緒は之を南清に發せり。如斯く南清を根據として起ちし英國商業勢力の擴大に伴ふて支那の對外貿易は漸次發達するに至れり。歴史上既に前記の如き關係は久しく英國をして支那貿易市場に獨り勢力を恣にせしめし蓋し不得已りし也。

南清と獨逸

然るに輓近獨逸が東洋貿易に着目し銳意其發達を企てし結果漸次自國の勢力を伸張するに及び英國の爲には最も恐るべき競争者となるに至れり。今英獨製品の消長に關し顯著なる一例を挙げんか十年前に於て彼輸入洋傘は其製造販賣共に英國の獨占する處なりしに今や獨逸製の爲に全然壓倒せられて又後影たも止



めさるに至りしを思はゞ誰か其長足の進歩に驚かさらんや。乞ふ吾人をして更に清國貿易否寧ろ南清に於ける我國貿易の狀態を語らしめよ。

從來我國の清國貿易は専ら上海を以て其根據地とし、漸次北進して天津牛莊等の諸港に及び、今日に於ては其成績の稍見るべきものあり。即ち最近我國工業の隨一と稱すべき紡績絲の販路は、主に之を長江沿岸以北(北清)の地に在るを見ても、其盛況の一斑を伺ふに足らん。然るに今去て南清に於ける我國商業上の勢力か如何の狀態に在るやを窺ふ時は、彼此其發達の程度に非常の差あるを發見するなるべし。詳言せば本邦商業家の南清に注目するに至りしは、近く此一兩年間の事にして、日清戦争後臺灣が帝國の版圖に加はるに至りしは、實に南部支那に對する我實業者の進路を開きし主因と云はざるを得ず。従て同地方に於ける商業區域の狹隘と勢力の微弱なるは免るゝ能はされ共尙且之を其他の諸國に比し貨物の價低廉なるの一事は、兩者の取引をして日月と共に盛大の域に達せしむるものあるか如きは、聊か人意を強ふするに足れり。即ち我對清貿易が嘗て明治廿四年には其輸出入總額一千百五十万餘圓に過ぎざりしか、爾來 星霜を経たる明治三十一

年には四千三百三十五万餘圓となり殆んど四倍の額に達せり。去れば其間年々五割の増進を遂げしものにして、斯る長足の進歩は歐米諸國と雖とも未だ其類例なき處たり。試に之を統計に徴せんか實に左の如きものあり。

		千八百九十一年		千八百九十八年	
		金額	百分率	金額	百分率
英 國	輸 入	二九、六二八、〇九七		三四、九六二、四七四	
	輸 出	一三、七七一、八七七		一〇、七一五、九五二	
合 計		四二、三三九、九三四	一八、四	四五、六七八、四二六	一二、四
香 港	輸 入	六八、一五五、九五九		九七、二一四、〇一七	
	輸 出	三七、七〇七、六六一		六二、〇八三、五一二	
合 計		一〇五、八六三、六二〇	四五、〇	一五九、二九七、五二九	四三、二
印 度	輸 入	一一、四七三、〇三二		一九、一三五、五四六	
	輸 出	一、五六二、九三二		一、三二四、一二五	
合 計		一四、〇三五、九四四	五、九	二〇、四五九、六七一	五、五
輸 入		四、三八一、四一三		九、三九七、七二二	



歐洲大陸		米 國		日 本		魯國海上		同上陸上	
輸 出	輸 入	輸 出	輸 入	輸 出	輸 入	輸 出	輸 入	輸 出	輸 入
一四、八九九、五〇一	二五、九二九、一一四	九、〇三三、六三〇	一一、九八六、七七一	五、八〇一、三二八	一六、〇九二、七七八	五、七七七、五六一	五、〇〇四、九九一	四、四三三、八〇七	九、七九五、七九〇
一九、二八〇、九一四	三五、三二六、九〇六	一六、七六五、三八二	二九、一五〇、〇八三	一一、五〇六、〇七〇	四三、四六八、八四一	六、六六一、二三七	六、四五九、二七二	四、四三三、八〇七	九、七九六、四五五
七、七三一、七五二	一七、一六三、三一二	五、七〇四、七四二	二七、三七六、〇六三	八八三、六七六	一、四五四、二八一	二、八	一、七	四、四三三、八〇七	六六五
合計	八、二	合計	七、一	合計	四、八	合計	二、八	合計	一、八
二五、九二九、一一四	三五、三二六、九〇六	二七、三七六、〇六三	二九、一五〇、〇八三	四三、四六八、八四一	一一、八	六、四五九、二七二	一、七	九、七九五、七九〇	九、七九六、四五五
九、六		七、九							二、六

一三四

輸 入	輸 出	合 計
一三四、〇〇三、八六三	二〇九、五七九、三三四	一〇〇、九四七、八四九
一〇〇、九四七、八四九	一五九、〇三七、一四九	二三四、九五一、七二二
合計	合計	合計
二〇九、五七九、三三四	一五九、〇三七、一四九	一〇〇、九四七、八四九

前掲の統計に徴する時は、支那の外國貿易が既往數年間に於て極て顯著なる進運を現せしと同時に、特に我對清貿易の驚くべき増進を來し、今や彼我商業上の關係は著しく緊密を加ふるに至れり。即ち去る明治二十二年には我輸出入總額一億三千四百五十二万餘圓に對し、支那との取引は其十分の一に充たさる一千四百四十四万餘圓に出でたりし者、十年後の明治三十一年には輸出入總額四億四千〇二十九万餘圓に對し、其六分の一弱に當る五千九百七十一万餘圓に進み四倍餘の増加を爲せしは、又以て盛んなりと云ふべし。然れ共亦翻て其自然上并に人事上に於て兩國間の關係の密接なるに顧みば、蓋し當然の事理として深く怪むを要せざらん。否寧ろ吾人は從來吾邦人か僅に一葦帶水を隔て、無盡の寶庫とも稱すべき絶好市場の存するを委棄して念とせざりし心事を解するに苦しむ。而かも今日に於て斯る迷夢は漸く離散し熱心に日清貿易の發達を企圖するもの世間其人に



乏しからざるの趨向を呈するに至りしは少なくとも我通商業進運の第一着歩と稱せざるを得ず。

我商工業家  
と支那市場  
我貿易品の  
缺點

我國の支那貿易は夫れ斯の如く劇進せしと雖も、今熟ら本邦對清貿易業者の意中を付度し轉た危懼の情に堪へざるは、只單に支那貿易品が價格を低廉ならしむる他に又良策ある事なしと云ふ單純の思想に包圍せられたる多數者の存する事是なり。斯る皮相の觀察は本邦商工業家に取り危険の甚しき者にして、此恐るべき謬想の爲に其前途を過まる幾多の實例は、既に業に世人の熟知せらるゝ處なれば更に茲に記載するの要なからんも、現今尙本邦商工業家の間には、其輸出品に對し特に支那向と稱して粗惡なる原料を作用し製造を簡易にし、以て一意費用と勞力とを節せんと企つる如き狀ある者は、抑々其原因の存する處如何なるへきぞ。蓋し彼等支那人が貨物を需要するに當り、勉めて價格の低廉なるを欲するの傾きあるが故に、勢ひ前記の如き手段に出て依て以て英獨等の輸入品と競争し、大に花客を吸引せんと謀るの結果たるは明かなりと雖も、今姑らく實地に就き彼等需要者の意向を查察する時は、深く其機微に徹底せるの狀ある日本製品が常に支那人の

歡迎する處となり市場の勝利者たる能はずして、却て我國の製品より層一層高價なる他國の輸入品の爲に壓倒せらるるが如きは奇怪千万の現象と稱すべきなり。是れ必竟日本輸入品は總般脆弱なるの缺點を免れざるが故にして、例へば器具機械は其使用久しからざるに破損し染物は褪色し塗物は剝落するに至り、縱令其價格に於ては歐米輸入品中比較的低廉なる獨逸品よりも尙遙かに下れるに係はらず、需要者の満足を博する能はずして市場の一隅に壓伏せらるゝ者比々皆是れなり。約言せば其外觀美麗なるか爲に一時を瞞着し得べき底の貨物は滔々枚擧に遑あらされ共反之能く耐久堅固なるは極めて稀なり。去れば夫の計算に長せる支那人の綿密なる注意を以てす什麼んぞ之が辨別を等閑に附せんや。然れ共此缺點たる我工藝界全般を通して其製作の精巧優美に流れたる自然の結果、茲に至れるものなるか故に幾分事情の不得已るに似たれ共、殊に驚くべきは我邦民が多年苦心經營を懈らざりし爲め、近令對清貿易が漸く順調に向ひ稍活況を帯ふるに至りしに乗し、遠望大策なき思慮淺薄の徒は徒に目前の小利に眩惑し粗製濫造を企て、一擱千金の暴利を夢み、之か爲め遂に從來折角博したりし信用を根底より



壊破するに至るの例は決して珍しとせざる所なり。斯く謂へばとて吾人は又偏に耐久堅固の製作を主張し價格上彼等の需要に不適當なる物品の製出を勸告する者に非ず。只支那人一般の生活の程度は未だ歐米人に及ばざる事遠きか故に、日用需要品の價格に於ても等しく西洋向貨物と同一視する事能はざる而已、去れば其間の斟酌を最も肝要なりとす。之を要するに、現今我國の輸入貨物は概ね脆弱にして破損を招き易く裝飾品としては或は可ならんも其實用的ならずとの非難は到底免るゝ能はる所、本邦商工業家たる者豈三省せずして可ならんや。

若し夫れ其製造工場の不完美なるか爲に貨物の整齊を期し難き、或は豫定の契約時日を過まり其結果不測の損失を蒙るが如き、將又同業者間に鞏固なる團結を欲き氣脈通せず個々分立して互に競争し、其間甘々漁夫の利を彼等清商等に壟斷せらるゝ如き陋態を演ずる事屢々なるに關せず、尙之が改革に重きを措かざるとの多きは憂慮禁し能はる處なり。

由來我國の商工業家は自己の管理する工場店舗を天地とし工場主は同時に職工の業務に執掌し店主は番頭手代と等しく店務に携り或は金庫の見張りを爲すを

以て其第一義と思惟する奮弊家に非ずんば、是等の業務を一切支配人其他の監督に委し殆んど自己の従事する專業あるを遺忘して酒色に沈溺し若くは悠悠歲月を徒消して相關せざるものゝ如くせされば、却て其身の商工業界の人に非る如く信ず。去れば概ね是等の輩其取引先地に就き嘗て實地上の調査見聞を遂げたる事なきか故に其職業に忠實なると否とを問はず、彼等支那人の人情風俗を解せざるを以て需要者の嗜好に投ずる能はず、土地氣候の關係を詳かにせざる結果季節の流行若くは其他天然上より及ぼす影響に注意せず、或は法規習慣を明にせざる爲に豫期せざる損害を醸す事ありて、嘗に其工業經濟に通せざるより品質善良にして、而かも價格低廉なる貨物を製出し能はざるのみならず、又美術上の智識に乏しきが故に其意匠の拙劣を招き、其他理化學に通せざるが爲に精緻堅牢なる物品を産出し能はざる而已ならず、又若くは同種類の外國品並に之か製作上の詳況を案せざれば是等の貨物と競争する方法を發見するを得ざるのみならず、適々見苦しき失敗に陥る事敢て其事實に乏しからず。

斯る大膽にして冒險的商工業家無智にして眼孔狹隘なる商工業家の企畫經營は、



暗中物を探り夜中争闘を試むると一般幸に其目的を達し奇利を博する事あるべしと雖も遂に永遠の利益を收むる所以の途に非ざるは嗚々を須えざる處なり。終始斯る方針より推移する本邦貿易か其面積五百方哩人口四億有餘を包有する大帝國內知らず果して幾許の花客を吸収し幾何の市場を開拓し得べきぞ。

### 第一節 總論

南清に對する貿易品の事を説くに當り先づ全支那に於ける貿易の近況を叙せんとす而して千八百九十八年の調査に係る同國輸出入額を次に掲げん。

總輸入價額	二〇九、五七九、三三四 <sup>兩</sup>	總輸出價額	一五九、〇三七、一四九 <sup>兩</sup>
輸入税	五七、二九、九〇八 <sup>兩</sup>		
阿片税	五、四七、六八一六		
計	一一、二〇、六七二四	輸出税	五、四〇、五、二六三
純輸入價額	一九八、三七二、六一〇		
七分課税(豫算)	一三、八八六、〇八二	八分課税(豫算)	一三、七二二、九七二

### 差引輸入額

一八四、四八六、五二八 差引輸出額 一七七、一六五、三八四

(備考)差引輸入額は貨物の陸揚に際し計算せるものにして差引輸出額は船積の際計算せるものなり

輸出入の不  
平衡

一千八百八十六年より一千八百九十八年に至る過去十三年間支那の外國貿易は輸入十九億二千七百七十六万九千八百八十海關兩に對し輸出十四億八千四百七十四万一千五百〇一海關兩にして差引四億三千七百二万七千六百七十九海關兩の輸入超過となり、一年平均三千四百万兩は全く正貨を以て支拂を爲せし割合なり。去れば單に此統計を一見して論據とする評者の眼孔には、銀貨が年々外國に流出せる結果は早晚倒産の運命を餘義なくせらるゝ如く映するも理なきに非ず。殊に又同國か其輸入に對し支拂を爲すのみならず、外國に向て負擔せる多額の公債軍器の購入公使館費等あるを以てせば、此老大帝國は經濟上滅亡の時期刻下に迫れりと稱するも誰か謬言なりと云ふ者ぞ。支那貿易に對し世間若し其淺薄なる觀察に過られ、輕卒にも上記の如き斷案を下して顧みざる者有らんか、是れ徒に其信用を破壊し且支那に放資せんとする多數者の希望を空しふせしむる者なり。



今此妄想を消散せしめんが爲第一に説明すべきは前記統計に顯れし價額中輸入の場合には既に課税後の計算を示せし者なれ共輸出の場合には未だ其課税を受ける前の計算を掲げし者たるに過ぎず。去れば即ち輸入は既に支那各埠頭に於ける陸揚げを爲す際の價格を以て表し、輸出に於ては船積込の際に顯れたる價格の計算を以てして、始めて正確なる計算を爲し得る者なり。此法に依る時は輸入超過額は五千〇五十四万二千百十八海關兩より減して、只僅に七百三十二万一千百四十四海關兩の少額とならん。更に金支那にて金は一の貨物なりの輸出價額七百七十万三千八百四十三兩及び西比利亞并に漢水(Han River)を經由して露國に輸出せし茶の價百三十七万二千零九十九兩を計算に加ふる時は、却て其輸出超過額百七十五万四千七百九十八兩となるを見る。加之千八百九十八年の輸入品中年末迄現金に換られざる或額を存せり。若し夫れ朝鮮或は南洋との取引の衝に當るマヤンクの載貨に付ては、統計の依るべき者なきを以て空しく其計算より脱する金額頗る大なり。即ち前記の數字は専らロペルト、ハート氏の監督下にある税關を通過せし貨物に限らるゝを以て、同國の全貿易額を證するに由なき事を記

輸入超過

金の産出

露國との陸上貿易

朝鮮若くは南洋との貿易

蒙古及西藏との取引

渡航労働者の収入

支那貿易の順逆

銀貨優勢

應せざるべからず。其他蒙古及西藏に對する取引額も決して勘からず。今一例を舉ぐれば、支那本部地方より西藏に向て年々茶の輸送高は大凡二千万封度に達し、沿岸航行の外國船舶が消費する食糧品其他の必需品供給により又巨多の収入ある事を遺忘すべからず。殊に其多數海外出稼者の内地に輸送する金額も亦莫大にして、單に之か送金のみにて、も能く同國全外債の利子支拂に充分なるの事實は、北米カリフォルニア地方より年々金貨にて千万乃至千二百万弗の送金あるに徴するも、蓋し思ひ半に過ぎん。外國に設置せられたる公使及領事館の費用は、之を逐年増加の傾きある内地旅行者の消費する金額により償ふを得べし。抑同國に於ては統計の徴すへきなく、確固たる事實を知るを得され共、茲に支那の正貨か世人の信する如く年々減少せざる唯一の確證は、同國が歐洲諸國に對し負擔せる公債の支拂に政府が直接現金の輸送を行はさりし事是なり。即ち去る千八百九十八年中に爲替作用により返還せし高實に千八百万兩以上に及び、又同年内銀の輸入超過は洋海關の調査のみにて四百七十二万二千零二十五兩に達せり。之を以て各開港場に於ては屢金融の逼迫を告ぐる事あれ共、同國全体に取ては銀



銅貨の缺乏

の不足を感ずるか如き事絶てあるなし。即ち銀價の一般の趨勢は此事實を證明して餘りあり。去れば破産に近き境遇を以て支那今日の經濟狀態に比せんとするは不當の甚しきもの、要するに如此は齊東野人の臆語として看過するも亦敢て妨げなからん。之を約言せば政府は疑もなく財政困難せりと雖も支那は年々富裕に赴くの道途にあり。政府の深慮は銅貨の缺乏なり、此困難が漸年甚しきを加ふる事情は銅貨購買力か銀貨の購買力に勝るに至りしを以て知るを得。銅貨一兩に對する銀一兩三五四(鑄貨費を含まず)の割合なり、斯る情勢か屢々貨幣の隠滅を來し又保存の目的を以て鑄潰すか故に正貨の流通を制限するに至る、千八百九十二年以來上海に於て一兩に對して交換せらるゝ正貨の數は千四百より千百七十となり尙一層減退するの恐れあり。これか救濟手段として補助銀貨の鑄造を擴張せられたれ共其事業緩慢なる爲め充分の奏功を期し難し。然れとも種々のシンヂケートが支那に於て起業するに至らば各年銀貨の吸收せらるゝを希望し得べきなりとは支那の外國貿易に關し最も信據すべき洋海關稅務報告が吾人に告ぐる處なり。更に一步を進めて其將來を語て曰く、此國の産業の發達鐵道の擴

金融の調和

産業の發達と貿易の進歩

張礦山の採掘は近き將來に於て其貿易上に重要な影響を齎すや必せりと。由是觀之同國の經濟上の進歩は明かにして、將來層一層對外の貿易を振興せしむるに至るは又多言を要せず。勿論一部の輸入貨物は内國生産品と競争する時機の到來速かなるべしと雖も、他の一部は輸出に對して依然交換の態度を取り、重要輸入品中夫の紡績綿糸及燐寸か支那人により尙更に低價に産出し得らるゝの機至らんか、他品に向て其消費力を高め産業は富裕を導き之に依て得たる財貨は貨物の需要を増進するの時なるや疑を容れず。然るに若し支那に於ける製造業の發達か輸入を減少すべしと云ふか如く想像する者あらば這は笑ふべき限り也。現今輸入品中最多額を占むるは綿糸及綿布にして其額年々五千万内外に達す。之に次ぎ重要なるは他諸國に見る可からざる阿片の輸入二三千万兩に達する事なり、然れ共同品栽培の利益は近年内地の産出を増加し幾分外國製の不況を呈するに至れり。米は我國と同しく支那人の主食物にして内地の産出豊饒なるに拘らず尙年々一千万兩内外の額を印度地方より仰かざる可からざる所以は、嘗に其地四億有餘と云へる多數の人口を包有するか爲めのみならず、面積廣大なる爲め

輸入重要品及紡績綿糸及綿布

米



自然の結果各地方により常に其豊凶を異にすれ共、交通不便需給の道完全せざるを以て遠隔の内地より仰くは之を直接海外に求むるに比して却て不廉となるの恐れあり。加ふるに米の産地を以て有名なる地方が多く河川の沿岸地たる關係は水害の憂を絶たず其收穫に影響する處蓋し尠なりとせず、此他内地の或部分に於ては米の産出をなし能はざる瘠土も亦乏しからざる也。去れば又外國麥粉の輸入も近年著しく増進し多く米國の産出に係れり。尙同國人特殊の嗜好を有する水産物も三百万兩以上の額に及び。更に支那人生活程度の進歩に伴はれ砂糖の輸入を増加するは免れざる處なるべし、最近の統計に徴するに七百五十万兩を下らざる多額に達せり。支那は諸種の鑛脈に富めとも其採掘業の發達せざるより、石炭鑛其他の鑛物類を外國に仰く額は頗る巨額に達し、輸入品中米に次く重要貨物にして此額八九百万兩に及び。又石油は年々其需要を加へ併て米露兩油の競争劇甚なりしが、近年新にスマトラ油を増し其急劇の進歩驚くべきものあり。燐寸の供給は重に之を我國よりし又少なからざる金額に及び。此他木材諸種の染料諸器械等あり。尙最近輸入商況は千八百九拾八年に於て二億〇九百

麥粉  
水産物

金屬類

石油

燐寸

輸入の増進

五十七万九千三百卅四海關兩に及び。前年に對し六百七十五万〇七百九海關兩の輸入増加を示せり。若し千八百八十六年の統計より臺灣諸港に輸入せし額、貳百三十一万三千二百二十一海關兩を減せんか、同年に比し千八百九十八年は八千五百十六万九千零々二海關兩即ち四割五分の増加とす。他言を以て言へば十二年前に比して二割半の増加を爲せるものなり。此輸入増加は貿易の有利なると同國經濟上の好況なるを證明するものに非ずして何ぞ。阿片は前年前年とは千八百九十八年に對し同九十七年を稱するものにして以下之に倣ふの四万九千三百九十九擔に對し四万九千七百五十二擔に進み。カルカッタに於ける月刊統計に徴するに、千八百九十七年十二月より千八百九十一年十一月迄六万二千二百一（本）本（本）本（本）は百十二封度即ち五万二千二百七十四擔を印度より香港及び支那諸港に輸出せり。同年中ペルシアン阿片も亦四千五百十二擔を陸上げし、又千八百九十八年中新嘉坡及ペナンより香港及支那條約港に輸送せし阿片は未着なれとも同九十七年には三千七百廿擔に達せり。海峽殖民地より積出せし分は前年の六万零五百零六擔（香港及支那條約港輸入額）と大差なきか如し。條約港に到着せし總額は税關に

阿片



ては只五万二千三百二十五擔と記載せられしも其實數に於ては更に一層多格なりしや疑を容れず。莫見比涅に關し注意する處あるは趣味ある問題にして、阿片の廉價なる代用品及び阿片患者に對する注射藥として其需要せらるゝ爲め同品の輸入量を年々増加する傾あり。即ち千八百九十四年の輸入は四万八千三百二十四オンスなりしか、同九十八年には九万二千九十二オンスに増加せり。莫見比涅の貿易は税關の收入上よりも將た他の點より觀察するも決して獎勵すべきものにあらざ。

綿布貿易額が千八百九十六年には七千九百二十四万三千四百三十一海關兩、同九十七年に七千八百六十六万三千二百八十海關兩、同九十八年には七千七百六十一万八千八百二十四海關兩となり、三年間に少からざる減退を爲せり。去れとも今此衰勢を脱くに當り千八百九十五年には、只僅かに五千三百零七万四千六百六十四海關兩に過ぎざりし事を記憶せざるへからず。これと同時に和蘭産に係る織物の輸入減少は注意すべき事たるを失はず。同國雲齊布が千八百九十六年には八万四千三百三十四段、同九十七年には二万五千八百六十二段となり、更に同九十八

年には一万八千三百十八反に劇退し。同國欒織木綿は千八百九十二年に五万四千二百六十反、同九十七年に五万零八百九十反、同九十八年には三万八千四百七十五反となり。又同國蔞布は米國品の爲に全然驅逐せらるゝに至れり。印度より綿布の輸出は近來急劇なる進歩を遂げしも、其本國に於ける需要の膨脹せるが爲に其輸出を障害せられたり。印度綿布が千八百九十六年には二十八万九千八百六十三反、同九十七年には三十六万七千七百八十一反なりしか、同九十八年には八万三千八百五十二反に陥り。印度雲齊布は千八百九十六年に三万九千七百七十五反なりしが、同九十七年一万一千二百四十三反となり、超て同九十八年には僅に一万六千五百二十反に減し。日本の天竺木綿は同三年間に次の如き進歩を顯せり。即ち初年に一万二千八百四十三反より、次て二万四千九百五十七反に進み、更に同九十八年には十万三千六百六十三反に及びしも、日本製蔞布は米國製品と競争の結果大なる失敗を蒙せり。マンチエスターの綿布業者は最早合衆國の同業者と雲齊布綾織木綿蔞布に關し、其價格上支那市上に雌雄を決する力を有せず。盖此現象たる支那に需要せらるゝ綿布の大部分は粗造品にして、精緻なる機械及



ひ熟練の労働者により製出せられたる優美なる綿布は需要せられざると英國は綿花に多額の運賃を要すれ共米國は有名なる綿産地なるを以て全く此患なきを得るか故に其生産費に少からず相違を來せばなり。尙其製出品に就てもニューヨークより支那に至る運賃は、リパールより支那に至る運賃に比し一層低廉なるの事情あり。此等は孰れも米品が英品に比し支那貿易に優勢なるを得る原因とす。

紡績綿糸

紡績綿糸は支那内地に於て製出せらるゝに拘はらず英國及印度綿糸共に増加せり。英國綿糸は千八百九十七年に五万一千二百九十八擔なりしか次年には七万三千五百九十擔となり印度綿糸は百二十三万五千五百三十七擔より百三十九万九千九百三十擔に進めり。日本綿糸の上海に向て低價に輸入せらるゝ結果上海同業者は一方ならず困難を感せしが如し。千八百九十六年に日本は十万一千三百八十一擔同九十七年には二十八万三千八百十七擔同九十八年には四十八万五千四十四擔を輸入するに至れり。

金屬類

金屬の輸入は千八百九十七年に勝るも同九十六年と大同小異なり。只錫物の輸

石炭

入は千八百九十六年に三万一千百十擔同九十七年に五万八千六百十九擔同九十八年に十一万二千零八十一擔に増進せり。

燐寸

石炭の輸入増加に就ては大に注意すべきものあり。同年中七十三万零六百零六噸此價五百二十八万零六百二十海關兩を下らされ共將來若し自國の炭坑を採掘するに至らば其需要に餘りあるの額を産せん。日本燐寸は好況を失はずと雖歐

石油

洲よりも亦同様に其輸入あり。露國石油かスマトラ石油と競争し能はざるは前者か三千六百九十二万四千二百二十五瓦より千九百九十二万六千二百四十六瓦に退き後者か千四百二十一万二千七百七十八瓦より二千六百八十七万八千八百六十五瓦に進みしに徴するも之を知るを得。精製糖及米利堅粉は益々其需要を増加するの勢あるは支那人の奢侈に赴く兆候にして同時に其繁榮を窺ふに足る。

輸出重要品

生糸

輸出の側に於ては我國と等しく絹及茶を以て大宗とすれとも近年著しく沈滞の状あるは争ふ可からざる事實なり。而して生糸一年の外國輸出額は殆んど四万兩を超過し茶は三千万内外にして中紅茶其三分の二を占む。次に棉は支那主要の農産物とす殊に近年我國木綿紡績業の發達せるか爲め同地に巨多の原料を仰



豆類  
砂糖  
麥稈真田

輸出の減退

き、其價額大凡六百万兩に及び輸出品の第三位に在り。豆及豆糟も亦我國との取引盛んにして其年額二百五十万兩内外に達すと云ふ。砂糖も同國の重要産物と稱するに足れり、即ち其輸出額は前者と略相似たるところあり。麥稈真田は南清より出るものなきに非され共北清を本場とす。尙一年の輸出價額一千万兩以上に達する貨物の品名を擧ぐれば、蘭蔗紙、花火爆竹、獸毛、皮革、煙草、陶磁器及豆茶、アニス等の諸油なり、此他種々の藥品、食料、樟腦、雜貨等も少なからざる額を出せり。尙此等諸品の最近二三年間の状況を概記するに、千八百九十八年の輸出は之を前年に比して稍減退を告げ、一億五千九百零三十七万四千四百四十海關兩となりしも、千八百九十六年の輸入に超過する事三千二百万海關兩とす。歐洲に對する政府國債上の義務あるか爲め其輸出を刺衝するの力を有し、特に銀を輸出するに至らざりき。而して生糸及次茶の輸出減少せるに拘はらず、此好況を維持せしは全く其他諸品の輸出増加に基かすんば非ず。茶の輸出は千八百八十八年には二百十六万七千五百五十二擔なりしか、同年は百五十三万八千六百擔となり、生糸貿易も亦著しく衰退せり。綠茶輸出の此退勢は幾分米國の新課税及び輸入茶の標準を高め

生糸及茶

しに起因す(紅茶は前年に勝る事八万二千二百十八擔なり)揚子江諸港より輸出せし茶は品質良好價格不廉魯西亞に多額を供給す。英吉利に輸出する額は二十四万四千四百八十擔より二十万零三百三十四擔に減退せしに、海上オデッサを経て魯國への輸出は十六万八千七百五十九擔より貳十一万三千三百零三擔及び陸上キヤクタを經由して輸入する額は五十二万八千二百十五擔より五十六万二千五百七十二擔に増進せり。而して魯國との茶取引には從來孟買を經たりしが、近年中央亞細亞のバタームに其通路を變せり。魯國市場に於ける支那茶の此趨向は印度茶に對する趣味ある問題と云ふ可し。生糸業に就ては一の改良の施されざるより年々退歩の姿勢を現せり。去れば當今一擔の生糸を産する爲め従前に比し二倍の繭を要するに至りしは驚く可き變化と稱せざるを得ず。然るに屑糸の輸出は絶へず増進して千八百九十八年には七万一千三百三十九擔の多額を輸出せり。上海に於て機械系の輸出減少は同地屑糸輸出増加の爲に依然甚しき影響を蒙らざるを得たり、廣東に於て生糸の輸出増加は屑糸輸出の減退に伴ひ一進一退其歩調を異にせるは又奇ならずや。此現



象たる一には廣東系は其兼て海外に失墜せる名聲を恢復せんか爲に幾分改其の緒に就きしに由る。支那の貿易上此主要輸出品の改其が目下の緊要事たるは論を俟たず。今輸出に於て増加せし貨物を舉ぐれば麻か千八百九十二年に六万一千五百九十八擔に過ぎさりしが十万六千八百四十五擔となり。獸皮は六万二千九百一十一擔より二十二万六千三百三十五擔となり。柔皮は四千八百一十一擔より一万六千九百十七擔となり。編笠は一千七百二十八万三千零十二個より三千九百四十五万七千七百九十九個に進み。蘭筵は二十二万三千八百九十四卷より五十三万六千八百五十三卷となり。種々の油は四万四千零六十二擔より三十二万零六百三十二担となり。酒は八万七千三百二十八擔より十五萬九千二百三十二擔となり。草皮は百三十一万五千二百三十二海關兩より三百零七万三千三百三十二海關兩となり。煙草は九万二千二百二十七擔より三十七万一千三百三十七擔となれり。羽毛の輸出に就ては又一顧すべきものあり。此は水鳥及び野鳥の羽毛にして主に裝飾品用とし將來頗る有望の品とす。豈及び豈餅か牛莊より日本に多量に輸出せられ、麥稈異田か九万八千二百二十六擔より七万三千八百五十九擔

麻獸皮蘭筵  
及棉草編毛豆  
及棉草編毛豆

輸出入の關

に減退せり。是れ前年の計算に多額の餘利あるに依るものにして實際如此減退せしものに非ず。綿花の輸出か四十九万三千三百三十九擔より二十七万三千七百三十九擔に減せり。外國輸入中更に外國に再輸出を試みし額は九百十六万六千零十三海關兩にして、其重なる貨物は綿布、綿糸、人參、再製糖及臺灣茶を米國、魯領滿州、朝鮮、日本及香港に輸出せしものなり。輸出と輸入を略ほ同地位に措くは支那か外國と取引するに當り其最大要件と云はざるを得ず。則ち其輸出の膨脹を企圖するは同時に其對清貿易業を振作するの途と云ふべし。然るに從來世人は此點を觀過せし責を免るゝ能はざるなり。要するに賣るに便利ならしめんとせば購はんか爲めに物品の供給を得ざる可からず。又各開港場に商品陳列場を設置するか如きも相互の取引を盛んならしむる一法たり。

船舶

外國より入港せし船舶總數九十七年に五千二百八十一艘四百七十九万九千噸同



九十八年に六千九百三十三艘此噸數四百九十二万七千噸なり。沿岸航行船は千八百九十七年の一万六千六百三十九艘一千二百零三万五千噸に對し、一万九千九百五十八艘一千二百六十四万四千噸となれり。出入總噸數三千四百二十三万三千噸にして、内英國船舶は其六割二分を占め、支那船二割四分、獨乙及び日本は各五分、瑞典及那威一分、佛國一分、米國一分、其他諸國一分とす。

以下更に全支那の貿易中其南清に屬する額を示して以て、同地方が對外通商上果して什麼の地位を有するやを明かにせんとす。今南部支那に於て重要埠頭の外國と最近二年間直接取引を行ひし金額を擧ぐれば左の如し。

千八百九十七年		千八百九十八年	
福州	輸出	四,三〇四,八一四	五,〇四〇,四三一
福州	輸入	八,六四六,九二一	一〇,七八二,五七八
福州	合計	一三,三三六,二五五	一五,五六九,四四二
厦門	輸出	一,七一一,五五五	一,六〇一,九八一

千八百九十七年		千八百九十八年	
汕頭	輸出	三,三二二,二七八	四,〇二七,八〇六
汕頭	輸入	一,二七六,三五八	一,六五九,八四八
汕頭	合計	四,五九八,六一六	五,七二七,六五四
廣東	輸出	一,九七二,九七五	一,一九七〇,五〇二
廣東	輸入	一,九三〇,三五三	二,〇六〇,四二八
廣東	合計	三,九〇三,三二八	四,〇三〇,九三〇
梧州	輸出	一,三六八,九八三	二,七九三,三七四
梧州	輸入	三,九八三,三二九	一,一四八,一五二
梧州	合計	五,三五二,三一二	三,九四一,五二六
三水	輸出	二〇七,七七五	二,二七六,九八五
三水	輸入	八,二八三	一九〇,一四二
三水	合計	二一六,〇五八	二,四六八,〇二七
合計	輸入	一三,〇四七,八一〇	一三,一七一,四二三
合計	輸出	九,四一一,三〇五	一二,五七〇,八四二
合計	合計	二二,四五八,一一五	二五,一四二,二八四



九龍輸出		瓊州輸出		北海輸出	
合計	輸出	合計	輸出	合計	輸出
二三、〇二四、四九三		一、四六四、七二二		四、一五八、五六〇	
二五、五一、五一一		一、七七八、七一五		一、五〇一、八三六	
三九、六五〇、二六三		三、二四三、四三七		二、六五六、七二四	
一九九六、二一三		二、六六五、四六二		一、七八〇、六四一	
		三、六六一、六七五		四、一四八、九六一	
		二、三六八、三二〇			
		一、七八〇、六四一			

一四八

第二節 輸出品

中部支那の輸出品  
支那全土中氣候順人口稠密加ふるに地味肥沃にして産業の宜く拓けたるは中部支那長江沿岸の地に如くはなし。今同地方より出づる産物の重なる品名を擧ぐれば重慶(四川省)地方よりは阿片、米、白蠟。漢口、沙市、宜昌(湖北省)の外に湖南省も此等の諸港により輸出入の取引を行ふの三港よりは茶、綿布、綿花、米、紙、麻、煙草、牛皮。

九江(江西省)よりは米、茶、磁器。上海、蘇州、鎮江(江蘇省)、蕪口(安徽省)、杭州(浙江省)の諸港よりは絹糸、絹布、棉花、米、色紙、扇子等何れも産出の豊富なる世人の耳目を聳動するに餘りある品種たり。就中製造工業を以て有名なるは沙市の綿織物、漢口の製茶、南京、蘇州、杭州の絹糸絹織物、上海の生糸及び綿糸紡績業あり。商業地として上海、漢口の如きあり。農産業には四川省以下最適の地とす。如斯く中央支那諸産業の發達は優に支那全省に供給して四億の人口を養ふに足るものあり。嗚呼亦壯んならずや。

北清の輸出品

北清は其地朝鮮西比利亞に連なり、氣候寒烈人煙稀薄、土地不毛南清に劣れる寒土多し、従て米穀其他の農産物に乏しく此等は概ね中部南部の兩地方より仰くものとす。今其輸出品中の著明なる貨物を擧ぐれば、牛莊(盛京省)及滿州地方よりは莫大なる大豆を産し、之より製出する豆糟、豆油も亦非常なる額に達す、其他阿片、山藤等あり。天津直隸、河南、山西、陝西、甘肅諸省の輸出入港よりは獸皮、獸毛、麥、蕪、真田及次石炭等を出し。芝罘(山東省)にては麥、蕪、真田、野蠶糸、繭、油、豆及豆糟を以て大宗とす、此他近來同省内地より桐材の我國に輸入せらるるもの多し。右の中殊に顯著



なるを牛莊の滿州大豆、天津の羊毛、芝罘の麥稈、細工野繭糸とす。  
南部地方にて注意すべきものには、茶を始め砂糖、絹綿布、陶磁器、紙、扇子、及蘭蓆等の  
諸品あり。以下乞ふ此等各種の貨物に就き簡單なる説明を附せん。

茶

南清の物産中茶は古來人口に膾炙せる處にして、支那内地は勿論歐米諸國に向て  
年々輸出する額は驚く可き巨額に上れり。然れ共其大半は臺灣茶を以て之を占  
め、廈門及福州の兩港を主なる輸出港とす。抑も福建省の茶業たる往時は無比の  
隆昌を致せしも、近時印度錫蘭茶の勃興するや先其劇烈なる競争に遭ひ之か爲め  
痛く創痍を負はされしに、此兩三年間米國關稅の重課に加ひて輸入茶標準の制定  
等ありしより惡茶の濫賣に狎れたる同地方の事とて、打撃は一層甚しく玉石混淆  
の勢を以て市場より掃蕩せられ益々其衰勢を速かならしめたり。從來英米兩國  
を以て最大取引場とせしが、近く此數年は却て我國を其重なる得意とするの外な  
く、漸年其名譽を失し其収利を減少するに至るや、同地方の栽培家中先見ある者は  
茶に交ふるに阿片を以てするの勢とはなれり。去れば曾て茶の本場を以て稱さ

れし同地方が一轉して數年後には天晴南清に於ける阿片栽培地として其名を轟  
かしむるに至るやも未だ知るべからず。

福建省中最も有名なる茶の産地は武容閩江の上流なれ共綠茶なるか故に輸出に  
適せず。尙彼地に於て貿易上普通使用せらるゝ稱呼は紅茶に左の數種あり。

- 工夫 (Oongou)
- 包種 (Panchong)
- 白毫 (Flowerly pekoe)
- 珠蘭 (Scented caper)
- 武彝 (Bohea)
- 小種 (Sonchong)
- 烏龍 (Oolong)
- 雙龍 (Caper)
- 花香 (Scented Orange)

又綠茶には左の數種あり。

- 小珠 (Gunpowder)
  - 大珠 (Imperial)
  - 雨前 (Young Hyson)
  - 熙春 (Hyson)
- 尙細別して蘇珠、寶珠、芝珠とす  
小別は珍珠、圓珠、熙珠とす  
を別て眉雨、娥雨、芽雨、熙雨とす  
更に細別して眉熙、正熙、副熙とす



砂糖

砂糖は亦南清産物中の重要品にして廣東省より産出するもの最も多く、此等は  
 抵一旦仙頭に集り其埠頭より更に内地諸方に供給する額年々數百万兩に達す。  
 同地開港の當初には外國に輸出せし高も亦頗る多かりしか、近年香港に於ける精  
 糖業の爲に壓倒せられ、専ら自國用に充つるもののみとなりしも、其需要次第に増  
 加するを以て、嘗に其衰亡を招くに至らざるのみならず却て追年隆昌の域に進む  
 を見る。

木材

福建省の輸出品中茶に次きて有名なるは木材なり  
 松及杉 其産地は福州を距る西南水路四百餘里清里に在る延平府の東西南二百  
 里北方百里以内の森林より出すものにして各地方に於ける木材の種類距離方位  
 運搬通路等の詳細は之を左表に徴せよ

地名	種類	距離	方位	通路
下洋	薪炭	一〇	西	陸

地名	種類	距離	方位	通路
湖尾	小材	"	東	水
大作	"	"	"	水
安豐樓	薪炭	"	"	水
安濟	"	"	南	"
上洋	"	一五	西	陸
洪溪	"	"	東	水
長沙	小材	"	西	"
岩面	薪炭	二〇	東	水
西芹	大小材	"	西	"
鷄心陽	薪炭	"	東	"
柴坑	"	"	南	陸
馬力	"	"	"	水
山後	"	"	"	"
梨坑步	"	"	"	"

第四章 貿易品



洋口	將樂	王臺	青峰嶺	建寧	陳家樓	白沙	兵溪	寶珠山	大佩	鳳地	南雅口	南山	西坑
"	"	大材	薪炭	大材薪炭	"	大材	薪炭	"	"	大材	"	大材	薪炭
"	"	一〇〇	"	一〇〇	八〇	七〇	八〇	七〇	七〇	六五	"	六〇	"
"	"	西南	"	西南	西	南	東	"	南	東	南	西	"
"	"	"	"	"	水	水	水	陸	"	水	水	水	陸
"	"	"	"	"	陸				"	陸	陸	陸	

羅坑	葫蘆山	西坑	上京埔	下元	吉溪	吉新洋	上元	半山	蛇溪	下道	大上至	外淇	大黃
炭	"	薪炭	大小材	小材薪炭	薪炭	大小材	小材	薪炭	小材	小材薪炭	大小材	小材	大小材
"	"	"	五〇	四五	"	"	"	四〇	"	"	"	"	三〇
"	南	"	"	東南	"	東西	"	南	"	"	"	"	東
"	水	陸	水	陸	水	"	"	陸	"	水	陸	"	"



沙縣	薪材	一三〇	南	〃
榮洋	薪材	一三〇	南	〃
泰寧	大材	〃	東	〃
金沙	薪炭	一四〇	南	〃
樟湖拔	大小材	〃	〃	〃
三官度	大材	一六〇	西	〃
秤鈎漢	薪炭	〃	南	〃
尤溪	大小材	一八〇	〃	〃
太寧	大材	二二〇	西	〃

(備考) 薪と記せしは主に節多く屈曲ありて使用に堪へざるもの、斷口六七寸迄の小物なり

距離方位は延平を基點とせるものにして通路は福州に至る運搬を云ふ伐採は多く春秋に於てし夏冬兩期に搬出す。尙春期伐木後は全山の雜草雜木を燒拂ふの習慣なるか故に、三四兩月同地方に於ては毎年必ず洪水の氾濫する事あり

りて土人は出水の多少を以て年内金融の繁閑を卜すと稱するに依りても彼地の森林如何に樹木に富むやを知り、又同地の産物として如何に重要なやを知るに足る、而て之か賣買に就ては譎詐にして貪婪飽く事を知らざる内地の支那人對手なるか上、特更に其官吏は賄賂と情實とに依りて左右せらるゝも法律の制裁ある事なきか故に頗る慎重の態度を以て行はざる可からず。立樹の儘賣買を行はんとするは極めて危険なる事にして、特に支那内地の事情に通ぜざる外國人に於て然りとす。去れば其最も安全なる取引は開港地に店舗を有する木材商買即ち本行と賣買の契約を爲すに如かされ共、此困難に遭遇するを辭せず其持主と直接取引せんと欲せば、先づ木客(木行と山林持主との中間にありて賣買を周旋して手数料を取る事恰も我仲買人の如き者)の紹介を得て山主と賣買の談判を開始する手段に出で、樹木の發育の状態と種類及び運搬の便否等に由り略ぼ其價格を決するを得べく、次に伐木の區域及び期限を劃し、斯くて原價の全額若くは何割かを山主に支拂ひ、且木客に報酬を與へざる可からず(但し木客の收利は此以外に山主より價格の歩合を以て受くるの例も亦之あり)。而して買受主は更に木樵と交渉



して運搬に關する契約を爲せば、總て我國に於ける風習と大差なし。更に木材の搬出に際し自然上人爲上の損害及び釐金(但し薪炭は無釐金なり)落地税の賦課等種々の失費を要する事を豫想せざる可からざるは勿論なりとす。此等は皆實際上の問題にして説明する能はされ共、茲に附記すべきは夫の代報の一事なり。代報とは現物に對し金錢を融通し同時に其指定せる個所に運搬するを以て、恰も爲替保險運送の三者を兼たる如きものなるか故に其取引上に與ふる利便尠少なりとせず。去れば木材に限らず内地に於ける貨物輸送の際概ね之に依るものなりと雖も、唯其手数料の歩合廉ならざる不便を免れず。今福州に於ける取引相場(昨明治三十二年中の平均)を示せば次の如し。

木材	延長	徑(末口)	價額
一、二〇〇	一、二〇〇	三〇	一、三〇〇
一、四〇〇	一、四〇〇	四〇	一、七〇〇
一、八〇〇	一、八〇〇	五〇	二、二〇〇

板	延長	厚	幅	價額
二〇〇〇	一	一	一	一〇〇〇
三〇〇〇	三	三	三	三〇〇〇
四〇〇〇	四	四	四	四〇〇〇
五〇〇〇	五	五	五	五〇〇〇
六〇〇〇	六	六	六	六〇〇〇

其連底法は	延長	厚	幅	價額
一六〇〇	一	一	一	一〇〇〇
一八〇〇	一	一	一	一〇〇〇
一六〇〇	一	一	一	一〇〇〇

五路 末口一尺四寸以上一尺五寸内外のものを五本組立  
 七路 末口一尺以上一尺四寸迄を七本組立  
 九連底末口一尺一二寸内外四本殘五本は八寸以上九寸以下  
 十一連底末口八寸のもの四本殘七本は末口七寸及六寸のもの



十三連底末口七寸のもの四本、残九本は末口六寸より五寸迄、十五連底末口六寸のもの四本、残十一本は末口五寸より四寸まで、十八連底末口四寸のもの四本、残十四本は末口三寸迄のもの、此外の大材は連底とせず一本毎に價格を附す

楠 同地の楠は吾人か臺灣に於て見る楠と聊か其種類を異にするの感あり。之を以て若し世人中臺灣に於ける樟腦製造事業と同一の見解を以て、福州地方に同業を企圖するは甚た危険の事業と稱せざるを得ず。現に先年日本の一製造業者は福州に其製造所を開始せしも、遂に豫定の収益を見る能はずして失敗に終れり。勿論如此は其他にも種々の原因あるなるべしと雖も、要するに彼地の事情を審かにせず漫然其計畫を實地に行ひる結果と云はざるべからず。吾人は今以上の如き風説あるに對し一言注意を喚起せんか爲に特に附記するものあり。

黄楊 は本邦に於て頗る珍重せらるゝに係らず其の産出至て僅少なり。之を以て先年中村彌六氏他深川の材木商秋山氏等孰れも暹羅より同材の輸入を企てたる事ありき。然るに當業者にして未だ曾て福建の同材輸出の方法を講ずるもの

あるを聞かざるは吾人の甚た遺憾とする處なり。福州地方に於ける同材の寸尺は略ぼ定まれるが故に、之を本邦に輸出せんとせば伐採の際豫め其用意なかるべからず。而して輸出時限は舊曆二三月頃即ち日本の梅雨季節彼地の雨季を以て最も適當なる期節とす。

唐木 は福建省及廣東省より産するもの多く、又南清の産物として有名なる唐木細工は廣東地方より出づ。

### 漆

漆の産出は中部支那の湖南湖北、江蘇及南部支那の福建を以て其主なる地方とす。支那漆輸入可否の一事は當業者の議論の八筈敷問題なるを以て、聊か卑見を掲げて當業者の參考に資す。

漆器業は夙に我國に發達せし工藝の一種にして特に徳川時代より明治初年に至るまで旺盛を極め、當時萬國博覽會の諸威に開設に際し我國の漆器は世界獨歩と稱せしが、爾來同業は年と共に其衰勢を甚しからしめ、又昔日の面目を存せざるに至りしは豈遺憾ならざるや。而して斯る状態に陥りしは、全く同品の原料として



粗悪なる支那漆の需要せらるゝに及びしを以て一に其原因とす。去れば今日此問題か特に同業者間に重大視せらるゝは自明の理なり。

然れども今吾人の觀察する處によれば、現今我國の漆器業者中支那漆を使用せざるは極めて一小部分に止まり、特に夫の人力車の如きは全然支那漆によりて製造せらるゝと稱するも過言に非ず。換言せば當時我國の漆器業者は、其原料漆の大部を同地方より仰くものと言つべきなり。然るに今之を單に性質の粗悪なるが爲め排斥するに至らば、從來低價なる支那漆を輸入して其原料とせし同業者は非常の困難に陥るや必せり。否當時我國同業者か支那漆を需要する状態より察せば、之か爲に小數者は其保護を受くると同様なる恩澤に浴せんも、多數者は全く其業務を廢せざる可からざるに至らん。何者斯る禁止的輸入税を以て、從來の粗漆に代ふるに内地産の良漆を使用して其製品の價格に差異なからしむるには、其需給の權衡を失するの憂あり。若し其漆樹栽培保護の法を以てせんか、國庫は此一産業に向て莫大の保護を與へざるへからず、是れ豈に政府の堪ゆる處ならんや。况んや本邦漆樹栽培業の尙幼稚なる今日、外國漆の供給なくして能く同業の規模

を縮小させざるを得るや、是れ頗る難問なり。加之近年外國特に獨乙等か廉價なる模造品を盛んに製造して、我國の海外市場を蠶食する事日一日より甚しきに於てをや。論して茲に至れば、漫然支那漆の輸入を拒絶せんとするは無稽の甚しきものなり。元來支那漆と雖も其良質なるものは、敢て本邦産に劣らざる優等品を産するか故に、現時の粗悪なる支那漆輸入を禁止せば、自ら漆器の名譽を回復するの計を爲すを得るや論なし。從て支那漆其物の輸入を禁遏する事を要せざる也。必竟吾人は品質の善惡を區別し、只偏に其粗悪なるものを排斥する事恰も米國か東洋諸國より茶を輸入する場合の如く、豫め標準の制度を設けて品質選擇の任に當らしむるの得策なるを思ふ者にして、是れ我漆器の改良を講ずると同時に大に支那漆の輸入を企圖する事を躊躇せざる所以なり。

#### 煙草

煙草

煙草は又福建廣東地方の著名なる産物とす。就中三都灣の附近並に福州泉州地方は特に産出多き地方にして、其香氣及葉色は決して我國の上等煙草に劣らざる良種あり。然れ共支那人は本邦人と異なり、烟脂の乏敷を嗜好し、色合を問はざる



鹽

か故に製造の際其色澤を損して顧みざるものゝ如し。  
北清地方には鹽の産出乏しき實情は、我北海道より年々多額の輸出を見る昆布の如き、一は北方支那の貧民か食鹽の高價なるに堪へず、同品により塩分を補はんとするの事實に徴しても其一斑を知るに餘りあらん。之に反し南清は鹽の産出盛にして臺灣の如きも半ば福建省より輸入せられ、更に北清地方に輸送するも又頗る多量なり。

織物類

絹布及絹糸 支那十八省中蚕兒を飼育せざる地方は僅々五六省に過ぎず。就中養蠶業の最も著名なるは江蘇浙江の兩省にして、南清に於ては福建廣東を以て稍盛なる地とす。去れば支那産物中の大宗たる生糸も、南清より産する類は至て多からず。獨り廣東の絹織物及絹糸は古來其名顯はれ、今尙同地輸出品中の百分七十を占むと云ふ、又以て同業の盛況を窺ふ一端たるべし。  
綿布及麻布 支那織物中其需要最も廣汎なる土布の織出を、福建廣東の兩省に於

棉花及麻

てする類は又決して尠少ならず。次に夏布は殆んど南清の特産に係るが如し。其製造地方は廣東廣西福建江兩の各省に亘り、殊に廣東を以て盛大なる産出地とす。多く夏季の服料に充て、又花模様等の製造に用ふ。其販路は北方支那臺灣若くは英米諸國に輸出するもの也。

棉花及麻

棉花 棉花の栽培は支那全土に普ねしと雖も、江蘇省産に係るもの最も多く直隸安徽浙江の諸省之に次ぎ、南清に於ける棉花の産出は前記諸地方に及ばず。

麻 は福建(漳州附近)及廣東の兩省より産出す。而して福建より産出するものは多く外國及び臺灣向の織布とし、廣東にありては重に夏布を織成して内地諸方に供給せり。

陶磁器 藤蓆及爆竹

磁器及陶器 細磁器の産出に名あるを江西省とす。同省浮梁縣景德鎮には官窯製造所を措き専ら北京朝廷の御用を勤む。粗磁器は主に廣東仙頭地方に製造せられ、陶器の産地には廣東福建の兩省を推さざるを得ず、粗磁器及陶器は七八分を

陶磁器 藤蓆及爆竹



外國に輸出するものなり。  
蘭藤 廣東の重要産物たる蘭藤は管に内地の需要廣大なるのみならず、近年歐米諸國に向て供給する額は頗る巨額に達す。  
爆竹 祝祭の時用ゆる花火にして其製造は廣東最も盛んなり。

建築材料

建築材料中福州が巨多の木材を産するに對し、厦門は盛に石材煉化瓦等を出す。如此兩地の産出に差異あるか故に其市街の建築か前者の概ね木造なるに反して後者は石造煉化造の建築多し。而して木材に關しては已に詳細説明せしか故に、茲には姑らく石材煉化瓦に付き述ぶ可し。  
福建省の沿岸は殆んど花崗石より成ると稱するも過言に非ず、從て其石材を産する事頗る大なり。又厦門の附近を通過する鷺江の上流石碼<sup>カマ</sup>地方より多額の瓦煉化等を産す。此等は南清一帯及臺灣に輸出し建築材料として使用さる。今明治三十二年十一月中彼地に於ける相場を擧ぐれば左の如し。

一煉化 上 一萬本ニ付 六十圓

石材煉瓦及瓦

中 全 五十五圓

並 全 五十圓

一土管 徑八寸一本ニ付 三十五錢

大小之に準ず

一花崗石 二三切物にして一切に付 二十五錢

三切より五切迄一切に付 三十五錢

五切以上 四十五錢

樟腦桂皮及桂皮油

樟腦桂皮及桂皮油

樟腦 樟腦は南清に限り古來福建省の漳州府廣東省の韶州府地方に産すれ共臺灣産の多額なるに及ばず。又漳州府は龍腦を出す、但其額少なるか爲め外國よりも亦同品の供給を仰き薬用とす。

桂皮及桂皮油 廣西省の省の農民が桂樹栽培に勉むるの狀は他省に多く見さる處なり。而して其皮桂皮枝發育充分ならざる軟弱の部分及果實(桂子)は香料として多額に歐米諸國に需要せられ、其油(皮及葉より製す)は桂皮と共に内外人の薬用



とす。此等の諸品は廣東省よりも産出せり。

紙及扇子

紙及扇子

紙 福建江西の兩省を以て紙の重要な製造地とし、原料は竹籬桑皮等種々あり。概ね支那内地に消費せらるゝと雖も、近年稍外國に向て輸出を開始せり。

扇子 南清にては廣東を其有名地とす。扇面は紙絹布羽毛若くは綜紵の葉を以て造り、歐羅巴、南亞米利加、印度、漳州及支那内地に供給する高頗る大なり。

藍、落花生及果物

藍及花生及果物

藍 藍も亦廣東廣西に産し内地諸方に輸送する額頗る多しと雖も、同品の外國輸出は未だ盛大と稱するを得ず。

落花生油 是れ亦落花生及落花生餅と共に南方支那の輸出物にして、福建廣東に産し北清の荳油と匹敵するものなり。油は之を食用燈火用とし、花生は搾油の外主に食料に充て、餅は花生油の搾糟にして多く肥料とすれ共又往々家畜類の飼料とす。

果物 南清は氣候温暖なるか故に種々の果物に富み橙、密柑、柚子、橄欖、檳榔等を産

す。陳皮柚皮等も此地方より出づ。

第三節 輸入品

南清の輸入品

前節は専ら南清輸出品に關して説明せしも、更に日本重要輸入品に就き略記せんとす。

紡績綿布

紡績綿布

南清に於ける綿糸の需要が近來著しく増加せしは當業者の注目すべき事柄にして、從來同地方は専ら印度綿糸の供給を仰きしが、先年我三井物産會社か上海及香港の兩地に支店を設けて盛に之か賣込を行ひ、且卅二年四月には厦門に香港支店の出張所を開設し益其販路の擴張に勉めしより、我國紡績綿糸の南清輸入は極めて長足の進歩を爲せり。而して就中賣先宜しきは何れも十六手二十手等の太系なりとす。尙其商標は金三環、大金象、金雙喜其他雜字號等にして昨年末に於ける相場は次の知し。

字 號

價 格



石炭

十六手	全	金三環	一〇三〇〇
	全	金雙喜	全
	全	大金象	全
	全	雜	一一〇〇二〇〇
二十手	全	金三環	一〇七五〇
	全	金雙喜	一〇六〇〇
	全	大金象	一〇六〇〇
	全	雜	一一〇〇四〇〇
	全	雜	一〇〇五七五〇

石炭

支那沿岸に供給する石炭の主なる種類及用途を擧げれば、英國のカーマス炭、山東の海平炭及日本の九州炭等とす。就中英炭は其質最良好にして専ら軍艦の燃料に供し、海平炭は芝罘の海平局より上海を経て各地に供給す主に汽船工場向なり。我九州炭の輸出は莫大なれども其品質遙に以上兩種に及ばず、用途は最良品を選み汽船用とすれ共大部分は工場用とす。而して此か賣込は香港に在りては三井

物産會社専ら其衝に當り、福州地方にては臺灣の炭伸社及上海の順泰洋行の兩者之を取扱ふ。

需要口は香港にては船舶及工場、福州地方にては多く工場に使用せらるれ共、小輪船公司の消費する所亦僅少ならず、工場は彼有名なる馬尾造船所を始とし製油處銀圓局等其主なるものなり。

最近價格はカーマス炭一噸十六七弗にして海平炭は十二三弗九州炭は七八弗位の間にあり。

今後南清に於て工業従ふて内地炭礦の開掘せられざれば、將來大に九州炭需要を促進するに至るべきなり。何者カーマス及海平炭の如き高價なる石炭は、到底之を製造工業の目的に使用する望みなきを以て、勢ひ低價なる我九州炭の需要を増加せざるを得ざるなり。

燐寸

所謂支那向燐寸は箱の兩側に藥品を塗り全面は商標等を附す、一包一ダース入れにして一箱六十本以上あるに非されは賣行恐し、殊に新商標の品を賣弘めんとす



るに際しては注意すべき一事なり。目下南清に於て最好況なるは怡和印、猿印、雙見印にして何れも我國の製造に係れり。又同地方に於ける最近相場は十五六圓より二十一圓五六十錢迄にして、怡印、猿印、雙見印等は何れも十九圓四五十錢以上の品とす。

從來燐寸の輸入は殆んど我國獨占の勢を爲せども、其商權は全く南清の壟斷を免れさりしが、近來三井物産會社加此等支那商に對して専ら競争の態度を取るに至りしは、聊か意を強ふするに足るものあり。

卅二年十一月福州に廣東人并に英吉利人協同の下に資本金廿一萬圓を以て新に燐寸製造所の勃興せるあり、工場には歐洲最新の機械を据へ付け英人技師之を監督せり、原料藥品は香港に仰き軸木等は福州森林より産する木材を以て充つ。其規模の宏大事業の完美せる我國には殆んど之と比肩するもの非らん而して其の目的は勿論燐寸輸入防退に存するなるべきを以て當業者は常に注意を怠らざるを要す。

## 洋傘

## 洋傘

我國に製造する洋傘の輸出先は多く支那にして、其他馬來半島及南洋諸島にも多少の賣行あり。

支那に於ける洋傘の輸入は其初め英國の全く獨占する處なりしか、獨逸の競争の爲めに悉く其販路を奪はれ、次て日本の洋傘は再び獨逸製と競争を試み、今日支那市場に於ける洋傘の七八分は我國の供給する處に係り、支那輸入中屈指の重要品となるに至れり。去れば我國洋傘製造家にして尙一倍激勵する所あらんには、獨逸品を全然支那市場より驅逐するは易々たる事業のみ。然れ共我製品か假令其價格に於ては獨逸製に比し遙かに低廉にして前者が一ダース十五六圓以上二十圓迄の品は、之を日本品の八九圓以上十二三圓に相當するの狀態あるに係らず、尙獨逸製品を壓倒し能はざる所以は、全く其製品の粗惡なるに職由せずんば非ず。要するに其價格に於ては現今の狀態よりも尙二割三割を引上ぐるも、其品を精選するは目下の急務なり。而して之を行ふか爲には同業者間の一致團結を鞏固にし、個々の競争を矯めて獨逸品に當るの覺悟なかる可からず。是れ同業を盛大ならしむるのみならず、其利得を永久に維持する唯一の方策ならざらんや。



元來洋傘に關する流行の變遷速かなるは、同業者の稱して際物を以てするに由りても知るを得べし。去れば洋傘製造家は特に此點に對し周到なる注意を以てせざる可からず。詳言せば生地、骨の數柄、インチ等に關する時々の變遷に注意を怠らざらん事極めて肝要なり。例へば我國に於て明治十三年時代には竹柄の丸骨に粗惡なる木綿を張りたる品の専ら賣行きしに爾後僅々數年を出てすして溝骨と化し、木柄となり、張護膜又は人造象牙を使用し、生地は絹若くは縞子を用ふるに至り、初めは一種の裝飾物たに過ぎざりしが、後には上流下流を通して必要缺くべからざるの品となるに至り、其需要の範圍は年と共に擴張せしは其實際なり。而して支那は今や我國に於ける明治十五六年時代に比適せり。去れば今後一年を経るに従ひ流行の急變すべきは勿論其需要の區域を擴張するに至るは火を見るより明かなり。殊に南清は之を中部北部支那に比し洋傘を用ふるの期間長く、且其構造に關しても聊か前二地方と趣きを異にするものあるが故に少しく陳ふる所あるべし。即ち北清にては二〇乃至二二吋を以て恰好とすれども、南清にては此等は小なる部に屬し二二五乃至二四吋を以て普通とし、廣東にて製造せら

るゝは二、四乃至二、六吋位の大形を製出せり。これ北方に比し日光の直射強きか故自然其必要を見るものとす。骨の數も手輕品と稱するよりは、堅牢を旨とし八ケン物は罕にして十ケン乃至十二ケン物を多しとす。其他の材料は兩地共に大差なく綿毛縞子の生地、鐵人造護膜木或は竹の曲柄の流行するを見る。兩三年前の輸入品に多かりし直くの握りに美人繪を附せるものは一般に流行後れの品となれり。又昨年來パテンの外飛上り製及刀仕込物の賞賛せらるゝ傾きあり。生地も年々絹物の増加する傾きあれ共、我國にては此絹地織出の際多量の油を使用するか故に、織上の當時は光澤に富みて外見美麗なれ共、一度洋傘の生地として張り上げ南清等温暖の地に向け輸出せる後、適々濕氣を蒙る如き事ある時は忽ち此油はシミを生し、之が爲め莫大の損失を招く事あり。之を以て南清其他氣候の温暖なる地方に向て同品輸出を盛んにせんと欲せば、勢ひ先づ其機械業に對し改良を施さざる可からざるは自然の理なり。

婦人持は支那には格別需要せられず。これ支那婦人の外出する事少なきと外出するも多くは轎によりて徒歩するか如き事稀なればなり。從て會々婦人用の同



地方に輸出せらるゝものは、大抵在留歐米婦人若くは日本婦人等にして、支那婦人中には僅かにカントンピー等の間に使用せらるゝに過ぎず。其他は全く裝飾品として需要せらるゝのみ。

価格は時々變動すれ共、現今最も賣先多きは五圓四五十錢以上七八圓の安物とす。其他十圓内外の物多少望みあり。彼地に於ける小賣相場は一本六十錢位より一圓位の品尤も人氣ありて、一圓四五十錢の品之に次ぐ、而して二圓以上三圓外の品は何れも刀仕込若くは絹張りとす。近事廣東に洋傘製造業の興起せしも、骨若くは柄握等之を我國に仰き、同地にて粗悪なる綿布を張り上げ之を支那沿岸南洋諸島に輸出する者なり。如此既に其原料の大部を我國の供給に待つものなれば、内地の同業者にして其覺悟次第如何とも之を左右し得るは疑を容れず。

## 綿布類

支那に輸出する我國綿布の種類は甚だ多しと雖、其主要なるは綿キル縮等の諸品とす。就中紀州ねる最も多し、其縮柄は藍棒ねる白の無地物を第一とし、紫赤崩黄等之に次ぐり、又、京都西陣ねる株式会社製品の製品は昨秋始めて同地辻忠商店の手

を経て輸出を試みしか其成績頗る良好なり。

価格は紀州ねるにして十五ヤール一反一圓十錢内外より一圓四五十錢に止まり、西陣ねるは一ヤール十七八錢内外より廿一二錢迄の物最も賣行良好なるか如し。

需要季節は十月下旬より翌年四月上旬を以て止めとす。

紫地は小供の下水其他男子の下着に用ひ、赤は袴又は下着に用ひられ、白は普通下着とし、崩黄其他の色物は上着或は袴地となす。

縮及チヤラ 縮の輸入も頗る盛なり。從來多く白の無地なりしも、近來は漸く縮物に傾けり。縮柄は藍棒藍棒格子縮若くは藍棒と赤の交り等なり。而して同地は我國關東産を最も嗜好し、先年大阪天滿織物會社か支那輸出向縮を織出し、遂に成効する能はずして中止するに至れり。然るに同社は縮に對する此失敗をチヤラによりて全然回復し、今日は著しく其販路を擴張せしか如し。又東京にては近來小名木綿布會社の製品頗る彼地に行はる。

縮チヤラ等の季節は四月下旬より九月上旬迄を限りとす。



價格は縮尺七物一反一圓六十錢、チヤラ尺二物一反の小賣相場は七八十錢なり。又武州八王子川越より産出する浮織木綿類にて昔時兩に三反と謂ひし安物の賣行多し、丈尺は日本の太物に普通行るゝ如くにて可なり、小賣相場一反六十錢内外なり。季節はネルと縮の中間に位す。

此他二子唐綾系織淺黄木綿類並に形付木綿手拭地等多少望みあり。手拭地は近來歐米諸國に稍輸出せらるゝも、全く裝飾品室内の懸額等として使用す。去れ共支那に輸出するには全く實用的とし、繪畫模様等は花鳥山水に止め文字の染出を爲さるゝを可とす。尙日本タオルは近來其額を増加せり、就中足タオル多くして尺三尺六等の物之に次く、タオルの有量なるは支那の風習として見せ物芝居等諸興行其他多數人の集合場に、若くは宴會或は賓客待遇等の場合に必要缺く可からざる品とす。即ち面包と稱し蒸氣に懸けたる綿布を客の顔拭に供し五分乃至十分毎に交代せらるゝものなり。去れば獨りタオルのみならず、木綿或は絹の安ハソカチーフ等將來望みあり。獨逸商人は現に木綿ハンカチーフの輪廓に唐草模様を入れたる物、若くは日本に於ける唐草模様の小形風呂敷様の物を盛に輸入せ

り、其價格は絹物にてダース五圓内外、木綿物にてダース七八十錢位なり。メリヤス類は靴下(白に限る)ツボン下襯衣等の賣行あり、冬物若くは中間の季節に用らる。

海味

海味とは海産物の意なれ共其他の乾物をも含めり、我國より北清に輸出する海産物は頗る巨額に達せり、南清に於ては福州を第一の輸入港とし、香港、廣東、厦門等之に次けり。其種類は海菜、魷魚、東洋蝦、竹蛸、蛤、乾荊參、赤參、洋燕、煙乾、鮑魚、海兔、大蝦、淡菜、魚翅等にして以上の諸品に就き最近取引相場を掲ぐれば左の如し。

品名	價格	日本銀換算
乾 貝(海桂)中	八八 <sub>兩</sub>	一一七、九二
東 洋 燕 無 草	五二	六九、六八
東 洋 燕 有 草	四〇	五二、六〇
臺灣 白糖 上	六	八、〇四
臺灣 白糖 中	五、八	七、七七
臺灣 烏籠(胡麻)	四、二	五、六三



蝦	上	二七	三六、一八
蝦	中	三一	二八、一四
蝦	下	二〇	二六、八〇
東洋煎椎茸		四〇	五三、六〇
淡菜(干貝)	上	九五	一二、七三
淡菜(干貝)	中	九	一二、〇六
臺灣烏糖		四、二	五、六三
臺灣烏糖		四	五、二六
刺參(キノコ)		四〇	五三、六〇
白參	上	一六	二一、四四
白參	中	一一	一四、七四
白參	下	九	一二、〇六

(備考) 表中の一兩は日本銀一圓三十四錢の相場を以て換算したるものなり。右の中最も多く輸入するものは鮑にして、蝦乾具椎茸キノコ等之に次けり、亦スルメは九州産を賞味し、寒天は糸寒天を多しとす、尙鮑の罐詰は近來非常に販路を擴めたり、サマイ松茸等又賣行宜し。

鮑	上	九〇	一二〇、六〇
鮑	中	七〇	九三、八〇
鮑	下	四〇	五三、六〇
扁豆		一〇	一三、四〇
竹	上	一六	二一、四四
竹	中	一四	一八、七六
竹	下	一二	一六、〇八

漆器

漆器

日本漆器は外見の甚だ美なるに似ず、漆の剝落を來し易き恐れあるか故に、支那人は日本漆器を冷評して光的狼と稱せり。殊に近年清國に輸出せる我製品は、大阪



地方の安物の爲め大に其聲價を墜せり。去れば外觀は兎に角尙一層堅牢強固なる製作を出す事目下の急務たらずんばあらず。

我國の漆器中茶入に小皿若くは阿片盆等は有望の製品なり、阿片盆は彼阿片管に對し恰適たるものならざるへからず、之を寸尺に顯さば一尺六七寸の大物なり。而して支那人の此阿片器は恰も我國人の烟草入に於ける如く、幾分裝飾的意味を帯びて多額の金錢を費すものなれば、塗の模様等も華美を好み、北部支那にては黒塗り山水に金蒔繪を賞すれ共、南方支那にては朱塗に花鳥の蒔繪等其嗜好に投すべく、又近來我製品に係る寫真畫漆浮模様額面等も可ならんか。

## 時計

時計の輸入は年々増加の一方にて多くは木製の丸形六角形或は五角形の置時計等最も賣行良し、之に次ぎニツケル製就中音樂附又頗る人氣あれ共、懸け時計に至りては比較的賣行少なし。而して之は主に裝飾にせらるれば支那の習慣上對物を宜ろしとす、價格は懸け時計一ダース三十六七圓より五十圓内外にて、置時計は一ダース四十圓より、五十圓迄、ニツケル製は二十圓位より三十圓内外なり。

## 玻璃器

## 玻璃器

我國の玻璃製造業は尙幼稚なれ共、近來は歐米の舶來品に類似の品を製造し得るに至れり。南洋にては廣東に其製造所ありて、其製品専ら支那沿岸等に行はる。元來支那人は此玻璃器を貴重する事恰も未開地方に於ける蠻民の如し。殊に近年ランプの使用盛なるに及び我國より輸出するホヤの類少からず、小皿コップ等も亦望みあり。就中支那固有の高脚皿(陶製)に代用せらるゝ高脚の硝子皿なり、是れは神佛に飲食を供し其他宴會等の場合に使用せらる、其他ランプの輸入は近來著しく増加せり。同地方にては石油の危険を恐れて十六七年前其使用を禁止せしかば、福州の城内にては今尙ランプを使用する者多からずと雖も、近年其需用を増進するの傾きあり。目下最も多く需用さるゝは油壺を眞輪ニツケル等にて造りたる臺ランプにして概ね獨逸製なり。我國より輸入するは石硝子製にして花模様を附せるものなり、全部硝子製のものには前者よりも稍少しか如し。之も多くは裝飾品なれば一對とするを宜しとす、價格は我國輸入のものにして一對五六十錢より一圓二三十錢なり。



## 化粧品

化粧品

石鹼 石鹼の需要は夥しけれ共多分は獨逸の輸入品なり、日本製の石鹼は大阪地方より粗悪品多量の曹達を使用せるものの輸入せられてより稍廉價を失へり。茲に注意すべきは其製造の際可成品名若くは製造者の姓名等を品物の表面に顯さす、商標は草木等により表するを可とす、尙包裝も我國の製品は大抵一箱三個入れとすれとも一個宛紙に入れ之を箱入とすべし。近來日本に輸入する舶來石鹼と稱するものゝ多くは獨逸製にして大抵は丸形の鐵葉罐に收めらる、是れ氣候の相違せる長途の航海に於て品質の變化なからしめんか爲にして、本邦商人の如きは之を獨逸の注意周到なるに比して將に慚死すべし、殊に石鹼箱の要を省くと外觀の軀裁を美麗ならしむる事少々ならず、支那人對手の商賣には斯る細密なる點に注意する事最も肝要なり。價格は一ダース四十錢以上八十錢内外の品最も廉みあり。

香水の需要も頗る増加せり、這も亦獨逸品の占領する處なり、使用の途は普通ハンカチーフ等に撒布し又病人の寢臺及室内等に撒布して惡臭を防ぐか爲にす藝娼妓等は香水を湯に混して身軀を洗滌す故に其香の低くして雅ならんより寧ろ強烈なる香氣を有するものを好めり、其價一オンス四五錢の品最も賣行宜しとす。

白粉 支那の白粉は廉價にして驚く計りなり。近來稍日本品を使用するに至りしも多くは練白粉とす、府下下谷車坂町の守田店の發賣せる雪くらべの如き是れなり。而して日本白粉の賞美さるゝは其乗りの真きにあり。支那にて白粉を使用するは女子に限らず、男子にても書生少年俳優等は白粉を塗るの風あり。支那の少年俳優は日本の九州等に於ける戀童の類なり、其賣弘の方法は嘗て狄斜に試みて大に効驗ありたり。

髮附油 日本の髮付油を支那に輸入する額は夥しく、恐くは化粧品小間物品中の第一位に居らん。而して同品の流行の初めは上海の教坊等より漸次南清に及ぼせるものなりと云ふ。此油は日本内地に盛に行はるゝ、彼梅香の如き曲物入の柔かき物に非ず、多くは紙包長方形の髮油の如く堅きものなり。支那婦人は髮を結びて後櫛を入るゝと云ふ事なれば、油にて髪の如く固着せしむるか故に自然固き